

官報

號外

大正十四年三月八日 日曜日

内閣印刷局

第五十回 帝國議會 衆議院議事速記錄第二十四號

大正十四年三月七日(土曜日)午後一時十九分開議

議事日程 第二十三號

大正十四年三月七日

午後一時開議

第一 治安維持法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第二 染料關稅撤廢ニ關スル建議案

(武藤金吉君外一名提出)

第三 綿絲關稅撤廢ニ關スル建議案

(武藤金吉君外一名提出)

第四 綿絲輸入關稅撤廢ニ關スル建議案

(關直彦君外一名提出)

第五 綿絲輸入關稅撤廢ニ關スル建議案

(飯塚春太郎君外一名提出)

第六 關稅改正促進ニ關スル建議案

(太田信治郎君外二名提出)

第七 蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

(平野光雄君外一名提出)

第八 煉乳乳粉輸入關稅引上ニ關スル建議案

(小池仁郎君外十七名提出)

第九 國幣中社眞清田神社陸格ニ關スル建議案

(服部英明君提出)

第十 警察費國庫下渡金連帶支辨規定改正ニ關スル建議案

(千葉官次郎君外三名提出)

第十一 高等師範學校設置ニ關スル建議案

(佐々木春作君外三名提出)

第十二 國立公園調查會設置ニ關スル建議案

(鈴木隆君外四名提出)

第十三 國立公園調查ニ關スル建議案

(小西和君提出)

第十四 本州ト島嶼間ノ交通ニ關スル建議案

(古川清君提出)

第十五 拓殖省設置ニ關スル建議案

(牧山耕藏君外十三名提出)

○副議長(小泉又次郎君) 諸般ノ報告ガアリマス

〔書記官朗讀〕

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

日本無線電信株式會社法案

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

治安維持法案ニ對スル修正案

提出者

中村啓次郎君

原 夫次郎君

松田 源治君

土屋 興君

(以上三月六日提出)

土地區劃整理ノ方法改善ニ關スル建議案

提出者

作間 耕逸君

高山益太郎君

太田信治郎君

矢野 鈺吉君

中原徳太郎君

磯部 尙君

東京灣築港速成ニ關スル建議案

提出者

本田 義成君

太田信治郎君

東京帝國大學農學部附屬農業教員養成所

獨立ニ關スル建議案

提出者

山本 慎平君

湛増 庸一君

東京帝國大學農學部附屬農業教員養成所

獨立ニ關スル建議案

提出者

有馬 賴寧君

高田 松平君

川崎安之助君

西村丹治郎君

古社寺保存費増額ニ關スル建議案

提出者

八田 宗吉君

山口 義二君

福相鐵道速成ニ關スル建議案

提出者

八田 宗吉君

堀切善兵衛君

(以上三月五日提出)

金澤市ニ高等師範學校設置ニ關スル建議案

提出者

鈴木 隆君

今井 健彦君

(以上三月六日提出)

福井縣三國港築港並竹田川改修ニ關スル建議案

提出者

熊谷五右衛門君

(以上三月七日提出)

一 議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

松村大分縣知事ノ暴政ニ關スル質問主意書

提出者

吉良 元夫君

樺太常備軍ニ關スル質問主意書

提出者

黒住 成章君

(以上三月五日提出)

一 今七日政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ

衆議院議員原惣兵衛君外一名提出國民思想ニ關スル質問主意書

國民思想ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十四年一月二十三日

提出者

原 惣兵衛

倉元 要一

國民思想ニ關スル質問主意書

一 國民思想ニ對スル政府ノ根本的對策如何

何

一 普通選舉施行後ニ於ケル政治的並思想の團體出現ノ傾向如何
右及質問候也

大正十四年三月七日

内閣總理大臣 子爵加藤 高明

衆議院議長 粕谷義三殿

衆議院議員原惣兵衛君外一名提出國民思想ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

內務省閣答第二號

衆議院議員原惣兵衛君外一名提出國民思想ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 國民思想ノ根本的對策

政府ハ、聖旨ヲ奉體シ益教育ノ改善振興ヲ圖リ特ニ國民道德ノ涵養ニ努ムルト共ニ社會的教化施設ニ獎勵助成ヲ加ヘ一面於ケル斯種施設ニ獎勵助成ヲ加ヘ一面立法其他各般ノ施設ニ依リ現下ノ難境ニ對スル國民ノ自覺ヲ促シ奢侈安逸ノ陋習ヲ一洗シテ勤儉力行ノ美風ヲ振起シ國民相率キテ實質剛健ノ風ヲ作興セムコトニ努メツツアリ尙社會政策的立法及行政手段ヲ講スルハ不健全ナル思想發生ノ防止ニ資スル處渺ナカラサルヲ以テ時勢ノ要求ニ應シ緩急ヲ圖リ之ニ關スル法律及制度ノ制定改善ヲ期セムトス

一 普通選舉施行後ニ於ケル政治的並思想の團體出現ノ傾向如何

所謂普通選舉施行後ニ於ケル政治的並思想の團體出現ノ傾向ニ就キテハ猝カニ之ヲ豫斷スルコト難カルヘシト認メラル

右及答辯候也

大正十四年一月三十日

內務大臣 若槻禮次郎

文部大臣 岡田 良平

一今七日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ議案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

裁判所構成法中改正法律案(政府提出)

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)

一去五日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

染料製造獎勵ニ關スル法律案委員

山道 襄一君 武内 作平君
山本 厚三君 太田信治郎君
永田善三郎君 村上 國吉君
大里廣次郎君 小泉辰之助君
熊谷五右衛門君 筒井民次郎君
前田 兼實君 佐藤 重遠君
武藤 金吉君 加藤 知正君
吉津 度君 坂井 大輔君
畔田 明君 山本 芳治君

一去五日鐵道敷設法中改正法律案委員橋本喜造君、福田五郎君、中野實君、加藤十郎君、重松重治君、大園榮三郎君、倉元要一君、田口文次君、内田信也君、二付其ノ補關トシテ山本勝次君、戸田由美君、生方大吉君、木槍三四郎君、谷口宇右衛門君、千葉實次郎君、柏田忠一君、筒井民次郎君、大竹謙治君ヲ治安維持法案委員森田政義君辭任ニ付其ノ補關トシテ原夫次郎君ヲ出雲大社、安道湖及中海ヲ中心トスル國立公園設置ニ關スル建議案委員櫻内幸雄君、倉元要一君辭任ニ付其ノ補關トシテ平田民之助君、森肇君ヲ明治三十二年法律第七十號中改正法律案外三件委員杉宜陳君、麓純義君辭任ニ付其ノ補關トシテ若宮貞夫君、柏田忠一君ヲ軌レモ議長ニ於テ選定セリ

一去五日武道普及ニ關スル建議案委員内田信也君辭任ニ付其ノ補關トシテ大竹謙治君ヲ、昨六日染料製造獎勵ニ關スル法律案委員山道襄一君辭任ニ付其ノ補關トシテ飯塚春太郎君ヲ、農村振興ニ關スル建議案外一件委員岡田溫君辭任ニ付其ノ補關トシテ山本慎平君ヲ、教育ノ機會均等ニ關スル建議案委員藤井敬慎君、青木精

一君、神崎勳君辭任ニ付其ノ補關トシテ荒川五郎君、西方利馬君、藤田包助君ヲ軌レモ議長ニ於テ選定セリ

一去五日委員長補關選舉ノ結果左ノ如シ
出雲大社、安道湖及中海ヲ中心トスル國立公園設置ニ關スル建議案
委員長 山宮 藤吉君(委員長栗山博君補關)

一昨六日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
染料製造獎勵ニ關スル法律案
委員長 武藤 金吉君
理事 永田善三郎君 畔田 明君
山本 芳治君

一今七日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如シ
第五部選出
決算委員 由谷義治君(大濱忠三郎君補關)

○副議長(小泉又次郎君)是ヨリ會議ヲ開キマス、本日ハ柏谷議長所勞ニ付、私ガ代シテ此議長席ニ著キマス、諮問事項ガアリマス、第一部選出豫算委員佐々木平次郎君、第七部選出豫算委員高木第四郎君、右常任委員辭任ノ申出ガアリマス、之ヲ許可スルニ御異議アリマセムカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(小泉又次郎君)御異議ガナケレバ許可致シマス、其部ノ諸君ノ速ニ補關選舉ヲ行ヒ、御届出アラシコトヲ希望致シマス、尙ホ中野實君病氣ニ付、三月七日ヨリ三月二十日マデ、大里廣次郎君病氣ニ付、三月七日ヨリ三月十五日マデ、加藤十四郎君事故ニ付、三月九日ヨリ三月二十日マデ請假ノ申出ガアリマス、許可スルニ御異議アリマセムカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(小泉又次郎君)御異議ガナケレバ許可スルコトニ致シマス

○作間耕逸君 議事日程變更ニ關スル緊急動議ヲ提出致シマス、即チ政府提出、日本無線電信株式會社法案ヲ此際特ニ上程シテ

議題ト爲シ、其第一讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

(「賛成」ト呼フ者アリ)

○副議長(小泉又次郎君) 作間君ノ動議ニハ御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタリ、日本無線電信株式會社法案ノ第一讀會ヲ開キ、政府ノ趣旨聲明ヲ求メマス——大養通信大臣

日本無線電信株式會社法案(政府提出) 第一讀會

日本無線電信株式會社法案
日本無線電信株式會社法
第一條 日本無線電信株式會社ハ外國無線電報ノ取扱ノ爲ニスル無線電信ノ設備及其ノ附屬設備ヲ爲シ之ヲ政府ノ用ニ供スルコトヲ目的トスル株式會社トス

第二條 日本無線電信株式會社ハ前條ニ定ムルモノノ外主務大臣ノ命令ニ依リ又ハ其ノ認可ヲ受ケ左ノ事業ヲ營ムコトヲ得

一 外國ニ於ケル無線電信事業及無線電話事業ノ經營
二 外國ニ於ケル無線電信又ハ無線電話ノ設備ノ貸付及工事ノ請負
三 無線電信又ハ無線電話ノ用品ノ製造及販賣

四 前三號ニ掲クル事業ニ對スル投資
第三條 日本無線電信株式會社ノ資本金ハ二千萬圓トス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ增加スルコトヲ得

第四條 日本無線電信株式會社ノ存立期間ハ設立登記ノ日ヨリ五十年トス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得

第五條 日本無線電信株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リテ設立シタル法人ニシテ其ノ議決權ノ過半数カ外國人又ハ外國法人ニ屬セサルモノニ限リ之ヲ所有スルコトヲ得

第六條 政府ハ外國無線電報ノ取扱ノ爲ニスル國有ノ無線電信局設備及其ノ附屬設備並無線電信局設置ノ爲購入シタル土地ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第七條 第一條ニ掲クル設備ニ依リテ取扱ハルヘキ電報ノ受付、配達及機械上ノ送受信ノ事務ハ政府之ヲ行フ

第八條 政府ノ日本無線電信株式會社ノ設備ヲ使用シ之ニ依リテ取扱ヒタル電報ノ料金中本邦收得分ニ當ルモノノ一部ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ該設備使用ニ對シ日本無線電信株式會社ニ交付ス

第九條 每營業期ニ於テ配當シ得ヘキ利益金額カ拂込資本金額ニ對シ一年百分ノ十二ノ割合ヲ超過スルトキハ日本無線電信株式會社ハ該超過額ノ二分ノ一ヲ政府ニ納付スヘシ

第十條 日本無線電信株式會社ハ其ノ創立初期ヨリ十年間政府持株ニ對シ利益配當ヲ爲スコトヲ要セス
每營業期ニ於テ配當シ得ヘキ利益金額カ政府持株以外ノ株式ノ拂込資本金額ニ對シ一年百分ノ八ノ割合ヲ超過スルトキハ該超過額ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラス政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ持株ニ對シ利益配當ヲ爲サシムルコトヲ得但シ創立初期ヨリ配當シ得ヘキ利益金額ヲ通算シ政府持株以外ノ株式ノ拂込資本金額ニ對シ一年百分ノ八ノ割合ニ達セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ニ規定スル利益金額中政府持株ニ對シ配當シタル金額アルトキハ之ヲ控除シテ計算ス
第十一條 政府ハ日本無線電信株式會社ノ業務ヲ監督ス
第十二條 主務大臣ハ日本無線電信株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲シ又ハ外國無線電報ノ取扱上必要ナル無線電信ノ設備若ハ其ノ附屬設備ヲ爲スヘキコトヲ命令スルコトヲ得
日本無線電信株式會社前項ノ規定ニ依リテ主務大臣ノ命令シタル設備ヲ爲ス

コトヲ怠リタルトキハ第八條ノ規定ニ依ル交付金ノ一部ヲ交付セサルコトヲ得

第十三條 取締役及監査役ノ選任及解任、定款ノ變更、利益金ノ處分、社債ノ募集、合併並解散ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十四條 日本無線電信株式會社ハ主務大臣ノ命令ニ違反シタルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

第十五條 政府カ勅令ノ定ムル所ニ依リ相當ノ價格ヲ以テ日本無線電信株式會社ノ所有スル無線電信ノ設備及其ノ附屬設備ノ全部又ハ一部ヲ買収セムトスルコトヲ得

第十六條 日本無線電信株式會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ取締役又ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 主務大臣ノ命令ニ依リ又ハ其ノ認可ヲ受ケタルニ非スシテ第二條ニ掲グル事業ヲ營ミタルトキ

二 主務大臣ノ命令ニ違反シタルトキ

三 本法ニ規定セサル事業ヲ營ミタルトキ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 政府ハ設立委員ヲ命シ日本無線電信株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第十九條 設立委員ハ定款ヲ作成シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル後株式總數ヨリ政府ノ割當ツヘキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スヘシ

第二十條 株式申込證ニハ定款認可ノ年月日並商法第二百一十六條第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スヘシ

第二十一條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ主務大臣ニ提出シ其ノ検査ヲ受ケヘシ

第二十二條 設立委員ハ前條ノ検査ヲ受ケタル後遲滞ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムコトヲ要ス

第二十三條 創立總會ヲ召集スヘシ

○國務大臣(大藏省) 日本無線電信株式會社法案デアリマスガ、之ヲ急ニ本院ニ提出シマシタ、御承知ノ通り從來海外ニ於ケル電信ノ通信ハ、大部分ガ外國ノ手ニアリマスノデ、長イ間非常ナ不便ヲ感ジテ居リマス、近來無線電信ノ段ニ發達シマスルニ從ヒマシテ、各國トモ大規模ノ無線電信ヲ設ケルト云フ大競争ノ域ニ這入リテ居リマス、日本ニ於キマシテモ此場合必要上拾置ケナイノデ、是迄段々計畫致シマシタ、計畫致シマシタガ、奈何セン此上擴張スルト云フノハ現在ノ財政狀態ガ許サナイ、然ラバ財政ノ立直ルデ待テ居ルカト云フ、其間ニハ餘程機會ガ遅レルト云フ玆ニ事情ガアルノデアリマス、電波ヲ割當テマスルト——此廣イ全世界ニ互ニテ丁度八千米突カラ三万米突マデノ間ノ電波ヲ割當テマスルト、百三十四ヨリ外ナイノデアリマス、其中ニ二万米突位ニナリマスル間ガ一番經濟的ニモ有利デ、非常ニ都合ノ好イ電波デアリマスガ、是ハ又ズト都合ノ好イノハ、少クモ六十九ヨリ世界中ニナイノデアリマス、其六十九ノ中デ、既ニ各國間デ成立シテ居ルモノガ四十六アル、ソレデアト剩ス所ガ僅ニ二十三ヨリナイ、此二十三ト云フモノ、間ニ割込シテ置キマセヌト、永久ニ再び得ラヌト云フ大切ナ間

題デアアル、ソレ故ニ政府ニ於テモ非常ニ焦慮致シマシテ、ドウカ之ヲ設立致シタイト存ジマスノデアリマスガ、奈何セン今日ノ財政狀態ハ急ニ之ヲ作ルコトガ出来ナイ、ソコデ致方ガアリマセヌカラ民間ノ資本ニ依テ之ヲ作ラウ、所ガ、民間ノ資本ト云テモ初メノ間ハ中々引合ハヌノデアリマスカラ、八歩ノ補償位シナケレバ成立タクヌ、所ガ此八歩ノ補償ヲスルト云フ金ヲ出スコトハ困難デアアル、ソコデ此法案ガ産レテ參

タノデアリマス、此法案ニ依リマスルト、此會社ガ引受ケテ更ニ起シマスノガ對米第二局、歐洲局、極東南洋局、此三ツヲ新設シテ行クノデアリマス、此三ツヲ新設シテ行クノデアリマスガ、何レモ非常ナ資金ヲ要シ、連モ利益ハ舉ラヌノデアリマスカラ、ソレナラバ八歩ノ補償ヲ與ヘルカト云フト、今日ノ財政狀態デハ之ヲ與ヘルコトガ出来ナイノデアリマスカラ、遂ニ玆ニ成立テ運用シツ、アル所ノ整城局、之ヲ中ニハレルノデアリマス、サウシテ此利益デ成立タセル、併シ之ヲ打込シテ此三ツヲ拵ヘテ行キマス間ハ、中々八歩ナドニ達スル氣遣ヒハナイノデアリマス、ソコデ之ヲ打込ミマシテ、十年間ハ政府ノ持分ニ對シテハ配當ヲ取ラナイ、是ハ政府ノ持分ニ對シテハレマヌ方ニハ配當ヲサセナイ、併ナガラ此十年間ト雖モ、八歩以上ニ達スルトキニハ、政府ニ之ヲ配當サセル、斯ウ云フモノニ致シマシタ、ソレカラ先ニナツテ段々利益ガ舉ルト云フ場合ニナツテ、一割ニ歩以上ニナツタナラバ配當ノ外ニ報効金ヲ政府ノ方ニ出サセル、是ガ大體ノ仕組デアリマス、斯ウ云フ仕組ニ致シマシテ此會社ヲ成立タセル、此會社ハ資本金ヲ二千万圓トシテ、サウシテ之ヲ設立スルト云フ計畫デアリマス、是ハ詰リハ各國トモ非常ナ競争ニナツテ居リマスノデ、有利ナ電波ヲ握マヘルト云フノハ僅ニ世界中デ二十三ヨリ殘シテ居ラナイ、此間ニ日本デドウシテモ受信局、發信局、之ヲ合シマシタノヲ十四ト云フモノダケヲ取ツテ置カウト云フ案デアリマス、是ハ其時機ノアルモノデアリマシテ、段々

遅レマスルト外ニ成立シテ居レバ、現在成立シテ居ル現實ト云フモノカラ權利ヲ生ジテ來マスカラ、ソレ迄ノ間ニ急遽力ヲ以テ成立タセナケレバナラヌト云フ上カラ此案ヲ出シマシタ、ドウカ御審議ノ上御協賛シ願ヒマス、細目ニ就テハ委員ニ付託サレマシタ時ニ說明致シマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○井本常作君 本案ハ政府提出、明治三十二年法律第七十號中改正法律案外三件ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス——日程第一治安維持法案第一讀會ノ續ヲ開キ、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長前田米藏君

第一 治安維持法案(政府提出)

報告書

第一治安維持法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十四年三月六日

シテハ、委員ノ諸君ハ熱心ニ、眞面目ニ、研究ニ、質問應答ヲ盡サレタノデアリマス、其中ニ於キマシテ、或ハ高遠ノ理想郷ニ付テノ質問モアリ、又深遠ナル法律論ノ質問モアリマシタ、又色々ノ場合ヲ假定致シマシテ、而シテ其假定ニ基キテ本法ノ適用如何ト云フヤウナ質問モ色々アツタノデアリマス、斯様ナル點ニ於テ百般ノ場合ヲ豫想シテノ質問應答ニ對シマシテ、一々私ガ此處デ御報告ヲ申上ゲルト云フコトハ如何デアラウカト思ヒマス故ニ、私ハ大體ノ所ヲ御報告申上ゲマシテ、詳細ナル事ハ委員會ノ速記ニ依リテ御覽ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、先ツ本案ニ於キマシテ幾頭問題ニ相成リマスモノハ、即チ國體ノ變革、政體ノ變革、私有財産制度ノ否認ト云フコトハドウ云フコトデアアルカト云フコトニ相成ルノデアリマス、國體トハ何ゾヤト云フコトニ對シマシテ、政府ハ國體トハ萬世一系ノ天皇ガ統治ヲスルト云フ、此我國ノ國柄ヲ指シテ國體ト謂フト云フヤウナ御答辯デアリマシタ、ソレニ對シマシテハ、國體ト云フ字ハ克ク孝ニ、眞ニ森嚴ナル意味ノ言葉デアアルカラ、無味乾燥ナル法律語トシテ之ヲ使フノハドウデアラウカト云フヤウナ御意見モアリマシタ、又國體ト云フ事柄ハ萬世一系ノ天子ガ統治ヲスルト云フコト、其事ヲ言フノナラバ左様ナ、即チ變革ヲ企テルト云フガ如キコトハ有り得ベカラザルコトデアアルガ故ニ、斯ウ云フ法律ヲ要セナイノデアハナイカト云フ質問モアツタノデアリマス、之ニ對シテ政府ハ、吾々モ萬有ルベカラザルヲ信ズルノデアルケレドモ、事頗ル重大デアアルガ故ニ、尙ホ一層規定ヲ要スルト云フノデアリマス、又既ニ刑法ニ於テ、天皇並ニ皇族ニ關スル所ノ規定ガアルノデアアルガ故ニ、其規定ニ依リテ十分デアナイカト云フ質問モ出タノデアリマス、之ニ對シテ政府ハ、刑法ノ規定スル所ノモノハ即チ危害ヲ加ヘ、或ハ危害ヲ加ヘントシ、或ハ不敬罪ト云フヤウナ方面カラ規定セラレ、即チ直接ニ皇族ニ對スル危害ノ法律デアアル、今回ノ立案ハサウデナクシテ、天

皇ガ即チ國ヲ統治スルト云フ、統治ノ聯絡ヲ遮斷スルガ如キコトガ即チ變革デアアルト云フ方面カラ論ジテ居ルノデアアルカラ、刑法トハ違フト云フコトヲ言ハレテ居ルノデアリマス、又斯ノ如キ法律ハ單行法トシテ出サヌデモ、刑法其他ノ法律ヲ改正シテ、其目的ヲ達スルノデアハナイカト云フ質問モアツタノデアリマスガ、政府ハ成程新聞紙法、出版法、或ハ治安警察法、其他刑法ヲ改正シテ此目的ヲ達スルコト必シモ不可能デハナイノデアアリマスケレドモ、今日マデノ十九世紀ノ觀念ヨリ成タル所ノ法律ヲ以テシテハ、今日ノ社會現象タル所ノ此無政府主義、共產主義ヲ取締ルニハ十分デアアル、之ヲ取締ルニハ矢張新立法ヲ要スルト云フヤウナ意味ノコトデアリマス、次デ主權者、日本帝國ノ主權者ハ何人デアアルカト云フ討論ガ本黨ノ中村君ヨリ出タノデアリマスガ、政府ハ我國ノ主權ノ所在ハ天皇デアアルト云フ風ニ答ヘラレマシタ、次デ政體ノ變革トハ何ゾヤト云フコトニ相成リマシタ、政體ノ變革ト云フコトニ付キマシテハ、先月十九日日本會議ノ時ニ於キマシテ、內務大臣ヨリ既ニ答ヘラレタ如クニ、政體ト云フ言葉ハ立憲政體ト云フ言葉デアアル、代議政體ト云フ言葉デアアル、其代議政體即チ民選議院ヲ中心トシテ政體ト云フ言葉ヲ使フタノデアアルト云フ御答辯デアリマシタ、之ニ對シマシテ、然ラバ此立法部ト相對スル所ノ天皇ノ大權デアアルトカ、其他司法行政ニ關スル事柄ハ本法ニ入ルノデアアルカ、入ラナイノデアアルカト云フコトニ對シマシテ、政府ハ此問題ハ即チ議會否認ト云フ聲ガアルガ爲ニ、此危險ヲ防止スル爲ニ、主トシテ立法シタノデアアル、他ノ司法行政、天皇ノ大權、固ヨリ容易ナラザル事デアリマスケレドモ、本法ノ目的ハ議會政治否認ヲ防止セントスルノガ主ナル目的デアアルト云フ風ニ答ヘラレテ居ルノデアリマス、之ニ對シマシテ委員會ニ於テ多クノ委員諸君ヨリハ、政府立法ノ主旨ハ之ヲ諒トセラレタヤウデアリマスケレドモ、果シテ然ラバ政體ノ變革ト云フ文字ヲ以テシテハ、政府

提案ノ主旨ト一致スルモノデアナイ、文字ノ方ガ廣ク解釋ヲ持ツガ爲ニ、頗ル危險ナル法律デアアルト云フヤウナ論議ノ質問モ繰返サレタノデアリマス、次デ私有財産制度ノ否認、私有財産制度トハ何ゾヤト云フ議論ガ直グニ起ルノデアリマス、私有財産制度トハドウ云フ事柄ヲ謂フノデアアルカト云フコトニ付キマシテハ、定義ノ簡單ナル言葉ヲ以テ言現ハサレテハ居ナイノデアアリマス、故ニ多クノ質問應答ノ中ヨリ之ヲ綜合致シテ申シマスナラバ、我國ニ於キマシテ所有權ヲ中心トシテ多クノ財産關係ヲ規定セラレタ所ノ、百般ノ法令ニ依リテ保護セラレタル所ノ制度、此制度ノ綜合觀念ガ即チ一私有財産制度デアアルト云フガ如クニ答辯セラレテ居ルノデアリマス、隨テ此私有財産制度ト云フコトハ、私有財産制度ノ根本ト云フコトニ相成ルト云フコトヲ答辯セラレテ居ルノデアリマス、私有財産制度ノ基礎ト云フテモ宜イ、根本ト云フテモ宜イト云フ風ニ言ハレテ居ルノデアリマス、而シテ此否認ト云フコトハドウ云フコトデアアルカ、否認トハ即チ廢止若クハ破壞ヲ意味スルト云フヤウナ言葉デアリマシテ、私有財産制度ノ根本ヲ覆ヘスト云フコトニ政府ハ連ベラレテ居ルノデアリマス、是ニ於テ此法條ハ本法案ノ最も大切ナル部分ニ屬スルノデアリマシテ、色々ノ質問ガ繰返サレタノデアリマス、然ラバドウ程度ニマデ否認シタナラバ制度ノ否認ニ相成ルノデアアルカ、例ヘバ現今ノ露西亞ノ如ク、多クノ有力ナル財產ハ全部國有ニ相成リテ、手廻リノ物、若クハ果實ノヤウナ物ガ、所謂私有所有權ノ目的トナルト云フヤウナ制度ハドウデアアルカト云フ問ニ對シマシテ、政府ハソレハ私有財產制度ノ否認デアアル、斯ウ云フ風ニ答辯セラレテ居ルノデアリマス、又然ラバ土地國有ハ如何デアアルカ、又鑛山ノ國有ハドウデアアルカ、或ハ水面ノ國有ハドウデアアルカト云フ色々ノ質問ニ對シマシテ、左様ナル個個ノ場合ニ於テハ、ソレハ財産制度ノ否認ニハナラヌト答ヘラレテ居ルノデアリマス、之ニ對シマシテ星島委員ダト思ヒマシ

タガ、土地ノ全部、地下埋藏物ノ全部、或ハ汽船ノ全部、飛行機ノ全部、鑛山ノ全部ト云フヤウナ主ナルモノ五ツ位ノモノ、然ラバ之ヲ國有ニスルト云フコトデアアルナラバ、ソレハ否認ニ相成ルノデアアルカ、ナラヌデアアルカト云フ問ニ對シテ、政府ハソレハ即チ沒收ヲシテマシテ、何等ノ代價ヲ拂ハズニ之ヲ取上ゲルト云フヤウナコトハ、即チ所有權ノ觀念ヲ否認シテカラ起ル現象デアアルガ故ニ、私有財産制度ノソレハ否認ニ相成ル、併ナガラ政府ハソレニ相當ノ賠償ヲ與ヘテヤルト云フコト、即チ所有權ノ存在ヲ認メルト云フ前提ノ下ニ賠償スルノデアアルカラ宜シイ、論ガ此所ニ及ビマスルト云フコト、量ノ問題ヨリハ質ノ問題デアアルカノ如クニ答ヘラレテ居ルノデアリマス、又生産財ヲ國有ニシテ、消費財ヲ民有ニスルト云フコトハ、此法律ニ當ルカト云フヤウナ質問モアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ、生産財ト云フモノハ即チ其殆ド財産ノ全部——有力ナル財産ノ全部ヲ指スヤウナ意味ニ於テ使ハレテ居ルナラバ、ソレヲ沒收スルト云フコト、ソレヲ國有ニスルト云フコトハ即チ私有財産制度ノ否認デアアルト云フ風ニ答ヘラレテ居ルノデアリマス、此問題ニ付キマシテハ、隨分極端カラ極端マデ質問ガ繰返サレマシテ、非常ニ極端ナル場合ヲ豫想シテ行キマスレバ、政府ノ説明モ必シモ一目瞭然トハ參リ兼ねテ居リマス、即チ此所ヨリ右ハ有罪デアリ、此所ヨリ左ハ無罪デアアルト云フコトニ致シマシテモ、右ト左ノ中間ニ這入ル所ハ紙一枚ヲ挟マスノデアアル、此所マデ立至ラテ見ルト中ニ徹底ノ二ハ參ラヌノデアリマス、其所ニ至リマスレバ即チ政府モ、ソレハ其時ニ於ケル法律ノ常識ヲ以テ裁判官ノ認定ニ任スヨリ仕様ガナイト云フ意味ヲ漏サレテ居ルノデアリマス、然ラバ勞働黨ノ政綱ニ於テ——英吉利邊リノ勞働黨ノ政綱、若クハ其決議ヲ市サレマシテ、清瀾委員ヨリ斯ノ如キ事柄ガ私有財産制度ノ否認ト云フコトニナラヌ本法ニ引掛カルガ、ドウカト云フ質問ヲ爲サレマシタ、ソレハ其綱領、決議、

學說ト云フヤウナモノデアッテ、頗ル大部ノモノデアリマスルガ故ニ、委員會ノ速記録ニ載セルコトニ致シテ居リマスカラ、サウ云フ詳細ノ事柄ニ付テハ、ドウカ委員會ノ速記録ヲ御覽ヲ願フコトニ致シマシテ、政府ハ斯ウ云フ風ニ答辯致シテ居ルノデアリマス、其現ハレタル簡單ナ文章ヲ以テシテハ、本法ニ引掛カルトハ思ハヌ、併ナガラ百般ノ事必シモ現ハレテ居ル文字ノミデハナイ、其文字ノ現ハル、ニ至ッテ理由、其他内容ナルベキ重要ナ部分ヲ拜見セシモ、此條文ガドウ解釋出來ルカト云フコトハ、必シモ今斷言スルコトハ出來ナイ、併シ表面ニ現ハレタル文字ヲ以テスルナラバ——ソレダケカラ言フナラバ本法ニ引掛ラヌモノデアル、即チ所有權ノ民衆化デアルトカ、或ハ私有財産制度ノ漸次ノ變革デアルトカ云フヤウナ抽象的ノ言葉ヲ以テシタノミデハ、必シモ本法ノ適用ヲ受クルモノデアハナイト云フ風ニ答辯セラレテ居ルノデアリマス、次デ起リマス問題ハ國體ノ變革、政體ノ變革、私有財産制度ノ否認ヲ爲スノ不法手段ヲ要スルカドウカ、合法的デモ尙ホ犯罪ニ相成ルカト云フ點ガ又頗ル重要ナル點デアリマス、此點ニ付キマシテハ政府ハ不法ヲ要セス、今回ノ條文ト云フモノハ他ノ法律ト其撰テ異ニシ、此法律ニ依ッテ保護スルコト云フ所ノ利益、目的、即チ法益ノ範圍ハ頗ル狭イノデアル、頗ル狭少デアルガ故ニ、此法益ヲ害セントスル者即チ不法ナリト云フノデアリマス、即チ姑ク國體ハ讓リマシテ、私有財産制度ト云フモノハ今日吾國國民ガ秩序ヲ維持スル上ニ於テ、此社會組織ヲ完全ニ維持スル上ニ於テ必要缺クベカラザル制度デアアル、憲法モ此意味ニ於テ出來テ居ルノデアアル、然ルガ故ニ此私有財産制度ヲ根本ヨリ覆スト云フコトハ、即チ其事ガ不法ヲ爲スノデアアル、丁度人ヲ殺ス、刑法ニ於テ人ヲ殺シタ者ハ無期徒刑「不法ニ人ヲ殺シタル」ト云フ條文ハ無イノデアアル、人ヲ殺スト云フコトガ即チ不法デアアル、日本ノ今日ノ狀態ニ於テハ、即チ國體ヲ變革スルトカ、私有財産制度ヲ否認スルト云フ

フコト即チ不法ト政府ハ思フノデアアル、之ヲ不法ノ手段云々ト云フコトハ意味ヲナサヌ言葉デアアルト云フ風ニ政府ハ答辯シテ居ルノデアリマス、之ニ對シマシテハ、或ハ暴力ヲ以テスルノデナケレバイカヌ、或ハ暴法ヲ是非加ヘナケレバナラヌト云フヤウナ、非常ナル論難の質問ガアッテデアリマスガ、政府ノ説明ハ此點ニ於テ始終一貫致シテ、即チ不法其モノ自體ガ不法デアルト云フ風ニ答辯セラレテ居ルノデアリマス、是ニ於テカ此合法性ト云フモノヲ認メスト云フコトニ相成ルナラバ、此法律ハ矢張刑罰法律デアリマスルガ故ニ、刑法ノ適用ヲ受ケルノデアアル、刑法三十五條以下ニ依リマスレバ、正當ノ業務ニ在ル所ノ者ハ認メラレテ居ルノデアアル、業務行為ハ即チ免責行為ニ相成ッテ居ルノデアリマス、是ニ於テカ議員ガ議會ヲ通ジテ爲ス所ノ事柄ハ、然ラバ合法行為デアアルカドウカト云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ議會ノ職務デアアルナラバ合法行為ト云フ風ニ答辯シテ居ルノデアリマス、即チ先ヅ私有財産制度否認ノ建議ハ如何カト云ヘバ、ソレハイカナイ、憲法ヲ變更シナケレバ私有財産制度ノ否認ハ出來ナイノデアアル、憲法變更ハ即チ勅令ニ依ッテノミ爲シ得ルノデアアル、故ニ議員ノ建議ト申セバ則チ政府ニ建議ヲスル事デアッテ、陛下ニ建議ヲスル意味デハナイガ故ニ、建議ハ出來ヌト云フ風ニ答ヘラレタノデアリマス、然ラバ法案ハ如何ト云フコトデアリマス、法律案ニ致シマシテモ矢張同様、憲法ヲ變更スルニ非ザレバ私有財産制度ノ否認ハ出來ナイノデアアルカラ、ソレハ議員ノ職務デナイト答ヘラレテ居ルノデアリマス、然ラバ議院ノ有スル最も重要ナル所ノ上奏權ハドウデアアルカト云フ點ニ對シマシテハ、上奏ト云フ事ニ付テハ議論モアルケレドモ、政府ノ見ル所ニ依レバ、上奏權ハ議院ニ於テ重要ナル問題トシテ職務行為デアルト云フ風ニ答辯セラレタノデアリマス、議院ハ憲法變更ノ上奏モ爲シ得ル、隨テ上奏權ヲ行フ範圍ニ於テノミ合法性ヲ持ツノデアルト云フ、然

ラバ次デ起ル疑問ハ、院ノ内外ヲ通ジテ然ルカト云フ質問ガ起ッテ來ル、之ニ對シテ政府ハ議員ノ職務ハ院內ニ限ラレルノデアアル、院外ニ於テハ其職務ト認メラレナイ、職務行為デナイト言ハル、ノデアリマス、併ナガラ色々質問應答ノ結果ハ、政府ニ於キマシテハ此院內ニ於テ業務ヲ執行スル議員ガ、職責ヲ行フニ必然且ツ不分離ノ程度ニ於テノミ、院外ニ於テ認メラザル得ナイト云フコトニ相成ッテ來タノデアリマス、此事ハ議員ノ權能ニ關スル最も重大ナル事柄デアリマス故ニ、マア一度言返シマス、即チ院內ニ於テハ宣シ、院外ニ於テハ職務行為ニナラヌノデアアル、併ナガラ院內ハ職務ヲ行フニ即チ必然的デアアル、且ツ不分離ノ部分ニ限ッテハ免責行為ト相成ルト云フ風ニ答辯セラレテ居ルノデアリマス、先ヅ左様ナ風ニ此第一條ニ付テノ質問應答ガアッテデアリマス、要スルニ第一條ニ於ケル文字ガ頗ル抽象的ノ言葉デアリマシテ、一方ニ於テ彈力性ニ富ム同時ニ、一方ニ於テハ廣汎ノ解釋ヲバサレル虞ノアルコトモ亦已ムヲ得ザルコト、思フノデアリマス、次デ第二條ノ建議ト云フコトニ付テハ、協議ト云フコトハドウ云フコトヲ言フカ、常識的ニハ御互ノ協議ガ即チ協議デアリマスルガ、唯、一點御留意ヲ願ヒタイ點ハ、政體ヲ變革シヤウト云フコトヲ實行スルコトヲ目的ト致シマシテ、甲ナル者ガ乙ニ對シテ實行ヲシヤウデヤナイカト云フコトヲ協議ヲ申込ム、相手ガ之ニ應ズルト云フ場合ハ協議ニ疑ガナイノデアアル、相手ガ應ジナイ、甲ガ申込ミマシタガ、乙ガ應ジナイ時ハドウデアアルカト云ヘバ、政府ノ説明ニ依レバ應ゼザル乙ハ無論實行ノ意思モ何モ無イノデアリマスカラ、即チ協議ハ成立タナイ、協議デナイトデアアル、唯、申込ミシテハドウデアアル、是ハ相手ノ同意不同意ニ拘ラズ、左様ナ事ノ申込ミスルコトソレガ協議デアアル、之ヲ取締ルト云フコトガ矢張本法ノ目的デアルト説明セラレテ居ルノデアリマス、之ニ就キマシテハ本黨側ノ諸君ヨリ、此字ヨリハ勸誘ト云フ字ガ宜イノ

デハナイカト云フ御質問モアリマシタ、次デ矢張問題ニ相成リマス所ノ第三條ノ煽動ト云フコトニ付テ、煽動トハ何ゾヤト云フコトハ皆様御承知ノ通りデアリマスガ、煽動ト云フ字ハ如何ニモ紛レ易イ字デアアルカラ、煽動ト云フ字デナク、何トカ明ナ方法ガナイカト云フヤウナ質問ニ對シテ、政府ハ煽動ト云フ字ハ明デアアル、治安警察法第十七條ヲ廢止スル、廢止セスト云フ輿論ガヤカマシケレドモ、治安警察法第十七條ノ煽動ト云フ言葉ハ、言葉自身ガ惡イノデハナクテ、「ストライキ」即チ同盟罷工ト關聯シテ法律問題ニ相成ッテ居ルノデアアル、煽動ト云フ字ハ其他治安警察法第九條ニモアレバ、新聞紙法ノ第二十一條ニモアレバ、今回ノ選舉法ニモ使ッテ居ル言葉デアアル、疑ノナイ言葉デアアルト云フ風ニ言ハレテ居ルノデアアル、然ラバ煽動ト宣傳トハドウ違フカト云フコトニ對シテ、宣傳ト申セバ或事ヲ流布スル、或事ヲ傳播スルト云フコトガ宣傳デアリマス、此流布宣傳以上ニ、或事ヲ斯ウ云フ事柄ガ宜イノデアアルカラ斯ウ云フコトヲ行フノガ宜イト云フ風ニ、多クノ人々ノ感情ヲ刺戟シテ、實行ノ力ヲ與ヘルヤウナ事ヲセシメルコト、ソレガ即チ煽動デアルト申サル、ノデアリマス、次デ此自白スルナラバ減刑免除ノ規定ガアル、是ハ「スパイ」ヲ獎勵スル規定デハナイカト云フ質問ニ對シテ、政府ハ此法律ハ危險防止ノ爲ノ取締法デアリマスルガ故ニ、一人ニテモ半人ニテモ少ク、未然ニ危險ヲ防グ意味ヨリ拵ヘタノデ「スパイ」ノ眼中ニ置ク制度デナイト言フノデアアル、次デ此法律ノ附則ニ付キマシテ、此法律ガ出來タナラバ治安維持令ナル震災後ニ出サレタ緊急勅令ガ廢止セラル、ガ、此緊急勅令ノ治安維持令ト云フ所ガ違フノデアアルカト云フ質問ガ起ッテ來マシタガ、之ニ就テ治安維持令ハ其目的トスル所ガ頗ル廣イノデアアル、又其犯罪ノ手段トスル所ハ流布宣傳ニモ及ビ、流言浮説ニモ及ンデ居リ、頗ル廣イノデアアル、懲役ハ同十年以下デアリマスケレドモ、其目的、其手段ノ頗ル

廣汎ナルモノデアルト説明セラレテ居ルノデアリマス、然ラバ過激思想取締法案トド云フ所ガ違テ居ルカト申シマスレバ、過激思想取締法ヨリハ特種今回ノ方ガ狭クナッテ居ル、即チ朝憲案ト申スコトニ對シテ國憲——所謂國憲デアリマセヌ、國體ノ變革、政體ノ變革ト云フコト、ハ違テ居ル、朝憲ノ案ト云フコトハ信教ノ自由ヲ害スル、蹂躪スルコトモ入ルケレドモ、今回ハサウ云フコトハ入レテ居ナイ、斯ウ云フノデアリマス、又其他ノ點ニ付キマシテモ違フト云フ點ガアリマシタガ、是亦同様速記録ヲ御覽ヲ願フコトニ致シマス、次デ刑罰ハ重過ギヤセヌカト云フコトニ對シテ、此刑罰ヲ以テ相當トスルコト言ハレルデアリマス、是ニ於テ起ル問題ハ、國體變革ト私有財産制度ノ否認ヲ、同じ刑罰ニ依テ規定セラレテ居ルノハ何故デアルカト言ハレルデアリマス、之ニ對シテ政府ハ、成程國體ハ絕對的ノモノデアル、政體及私有財産制度ノ否認ト云フコトハ相對的ノコトデアル、其法益ノ價值固ヨリ同一ト論ズル譯デハナイ、併ナガラ此法案ノ目的トスル所ハ國體直接デナク、即チ國體ヲ害セントスル所ノ危險ヲ防グ、豫備ノ豫備ヲ罰スルト云フ所ノ規定デアッテ、此手段方法ノ程度ニ於テ同じ事ト見ル、終局ノ法益ノ價值ハ違テ居ルケレドモ、此法益ヲ害セントスル所ノ其手段方法ガ豫備ノ豫備ヲ罰スル程度ト云フニハ、同じ刑罰ヲ以テ取締ルノガ至當デアルト云フ答辯デアリマシタ、次デ清瀨君ヨリ陪審法トノ關係ハドウデアルカト云フ質問ニ對シマシテ、陪審法ノ法定陪審ニハ這入ラスガ、任意陪審申立——請求陪審ニ這入ルト云フ答辯デアリマシタ、次デ此法律ガ出來タナラハ労働問題ハドウナルデアるか、労働運動ハドウナルカ、労働者ノ運動ヲ壓迫スルコトニ相成ルノデハナイカト云フ質問ニ對シテ、政府ハ決シテサレコトナシ、労働運動ノ所謂労働者ノ地位ヲ向上シ、労働條件ノ改善ヲ圖ルト云フヤウナル純眞ナル労働運動ニ對シテ、固ヨリ取締ル意思ガ毫モ無イノデア

ル、斯様ニ答ヘテ居ルノデアル、併ナガラ更ニ論歩ハ進ミマシテ、此労働者終局ノ目的ハ、今日ノ私有財産制度ニ指ヲ染ムルト云フコトニ依ッテ、労働者ノ地位ハ改善セラル、ト見ナケレバナラス、然ラバ此普通選舉實施ノ後ニ於テ労働黨ガ起リ、新ニ労働黨ガ起テ新綱領トシテ私有財産制度ニ變更ヲ加ヘルト云フヤウナコトガアタラドウスルカ、ソレヲ防グト云フコトガ此法律ノ目的デアルカト云フ風ニ言ハレタノデアリマス、政府ハ普通選舉ノ實施ト同時ニ労働黨ハ起ルデアラウ、新政黨ノ樹立モ亦起ルデアラウ、併ナガラ此私有財産制度ノ變更ノ程度ハ、所有權ノ制限ノ程度デアラナラバ、吾々ハ法律ニ關係ハ無イノデアル、私有財産制度ノ否認、私有財産制度ノ根本的否認ト云フガ如キ事柄ガ問題トナルノデアル、所有權ヲ制限スルコト、或ル程度マデ私有財産制度ニ變更ヲ加ヘルト云フガ如キ事柄ハ、此法律ノ關スル所デ無イノデアル、労働黨ノ新綱領、労働黨ノ發生ヲ妨害スル爲ニ決シテ法律ヲ出シタノデハナイト云フ風ニ答ラレテ居ルノデアリマス、又労働政府ノ宣傳禁止條約ニ付テハ質問モアリマシタ、又無政府主義、共產主義ト何故爲サナカッタカト云フ質問モアリマシタ、是等ノ點モ同じ速記録ノ議會議政治ト一般投票ハ此日本ノ立憲政治、議會政治トシテ關係ヲ持ツノデアルカト云フ點ニ對シマシテハ、過日ノ本會議ニ於テ若槻內務大臣ヨリ答辯セラレタルト同じヤウナ答辯デアリマシタ、故ニ是亦省キマス、次デ思想ハ思想ヲ以テ法律スベキモノデアッテ、法律ヲ以テ法律スルコトハ宜クナイト云フ質問ニ對シマシテハ、政府ハ思想ハ決シテ罰スルノデハナイ、思想ハ全然自由デアアル、此思想ガ外形ニ現ハレテ結社ヲ作り、煽動トナリ、協議トナッテ殆メテ之ヲ罰スルノデアル、思想ハ自由デアアル、其思想ハ自由デアアル故ニ、學者ガ假ニ研究的ニ之ヲ研究スル、學生ガ之ヲ研究スル、研究ノ結果ヲ發表スルト云フコトハ自由デアアル、社會主義トハドウ云フモノデアアル、無政府主

義トハドウ云フモノデアアル、或ハ共產主義トハドウ云フモノデアッテ、私有財産制度ノ否認ハドウ云フモノデアルト云フコトヲ研究セラル、ノハ宜シイ、研究ノ結果ヲ發表セラル、ノモ宜シイノデアアル、此法律ノ目的トスル所ハ、斯ノ如キ事柄ヲ實行スルト云フ意思ヲ以テ或ル行爲ヲ爲スト云フコトニ依ッテ犯罪ハ成立ツノデアル、實行スル意思ナクシテ研究ヲシ、之ヲ發表スルト云フコトハ、決シテ法規ノ關セザル所デアアルト云ハレタノデアリマス、先ヅ大體斯様ナ事ニ相成ルノデアリマス、秘密會モ開キマシタ、秘密會ニ於テ今日其無政府主義、共產主義ガ果シテ何事ヲ爲シタカ、露西亞方面トノ關係如何ト云フヤウナ質問應答モアリマシタケレドモ、是ハ大體ニ於テ一言ニシテ之ヲ盡ケセバ、政府ハ本案提出ノ爲ニサウ云フコトモアッタト云フデアリマス、ト御諒論下サッテ宜シイノデアリマス、次デ討論ニ移リマシテ、横山金太郎君外數名ヨリ修正案ガ出マシテ、修正案ハ治安維持法ノ第一條ニ在ル所ノ政體ノ變革ト云フコト、即チ「若ハ政體」ト云フ四字ヲ削ルト云フ案デアリマシタ、之ニ對シマシテハ、其說明ト致シマシテ、政體ト云フ言葉ハ疑義ノ生ズル言葉デアアルシ、政府ノ說明ヲ聽クナラバ、無政府主義、共產主義ヲ律スル爲ニハ國體ノ變革、私有財産制度ノ否認ト云フ言葉ヲ以テ大體盡クルノデアアル、假ニ多少ノ脱漏ガ其所ニ生ズルコトシテモ、ソレハ決シテ無罪トナルノデナクテ、此法律ニ關係ハ無イト云フダケデアッテ、或ハ朝憲ノ紊亂トカ治安秩序ノ害トナル、此點ニ付テハ治安警察法、出版法、其他新聞紙法ニ關係ガアルノデアアル、自分トシテハ所謂政體ノ文字ヲ省クト云フ方ガ相當デアルト云フ御趣意デアリマシタ、次デ本黨ノ中村啓次郎君外數名ヨリ修正案ガ出サレマシタ、此修正案ニ依リマス、此「政體」ヲ削ルト云フコトハ同じデアリマス、次デ異ナル點ハ、非常ニ條文ニ於テ澤山變更ガアルヤウデアリマスガ、骨子ヲ爲スノハ刑罰ノ點デアリマス、國體ノ變革ガ十年デアッテ私有

財産制度ノ變革十年モ是ハオカシイ、國體ハ十年其儘デ宜シイガ、私有財産制度ノ變革ハ之ヲ七年ニ改メルト云フコトデアリマシタ、其結果ト致シマシテ、其次ニアリマシタ二條、三條、四條ノ手段モ、一方ガ七年デアラナラバ一方ハ五年ト云フ風ニ下デテ來タノデアリマス、又協議ト云フ字ハ先程申上デマシタ如クノ意味デアッテ、之ヲ勸誘シ、又ハ之ニ應ジテ者ト書ク方ガ適切デアラウト云フ御意見デ修正意見ガ出タノデアリマス、承リマスレバ此本會議ニ於テ本黨ノ諸君ヨリ修正案ノ御說明ガアルト云フコトデアリマスカラ、私ハ其點ハ省略シテ、其御趣意ノ在所ダケヲ此所デ御紹介申上デ置キマス、次デ清瀨一郎君ヨリ本案廢案ノ——本案ニ絕對反對ノ意見ガ出來マシタ、同氏多年御研究ニ相成タ所ノ總論ヲ傾倒セラレテ、非常ニ論ぜラレタノデアリマシタ、其要旨ハ本案ノ如キ事柄ガ、即チ私有財産制度ノ否認ト云フヤウナ事柄ガ、不法手段ト云フヤウナコトヲ入レズニ、合法的ニ斯ウ云フ事ヲヤツテモ尙ハ罰スルト云フガ如キコトハ、世界各國ト比シテ、我國ノ立法トシテ實ニ慨歎ニ堪ヘヌト云フヤウナ論デアリマシテ、將來此無產階級、労働者階級ノ進ムベキ途ハ私有財産制度ニ指ヲ染メルノデアアル、其指ヲ染メルト云フコトヲ今回禁止セラ、ノニ至ッテハ、大ナル時代ヲ解セザル所ノ立法デアルト云フ意味デアリマシタ、又此立法ノ技術ノ點ニ付テドウ云フ言葉ガイカヌ、ドウ云フ言葉ハ不穩當デアルト云フコトニ對シマシテモ、詳細ナル御演說ガアッタノデアリマス、ケレドモ、是亦清瀨君同志ノ諸君ヨリ何レ御演述ヲセラレルトデアリマセウカラ、私ハ此程度ニ於テ此報告ハ止メマス、次デ採決ニ移リマシタ、採決ノ結果横山金太郎君ノ修正意見、即チ三派ヨリ提案セラレタル修正意見ガ多數ヲ以テ成立シマシタ、中村君ノ修正意見ハ少數合決、清瀨君ノ意見モ同じク少數否決、次デ此横山金太郎君ノ修正意見ガ成立致シマシタ故ニ、此修正致シマシタ部分ヲ除イテ本案全體ヲ議題ト致シマシタ所

ガ、是亦多數ヲ以テ通過致シマシテ、委員會ニ於テハ此四字ヲ修正致シマシテ全部——本案全體ヲ是認スルコト云フコトニ相成タ次第デアリマス、諸君ハ宜シク御審議ヲ進メラレンコトヲ希望致シマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 本案ニ對シテ政府、委員長ニ質疑ガアリマス、並ニ賛否兩論多數ノ通告ガアリマス、先ツ順序ニ依テ質疑カラ之ヲ許シマス

〔田淵豐吉君登壇〕

○田淵豐吉君 諸君、私ハ此重大ナル法案ニ付キマシテ政府並ニ委員長ニ御尋致シタイノデアリマス、主トシテ政府ニ御尋致シタイノデアリマス、ドウカ暫ク御清聴ヲ願ヒタイノデアリマス、私ハ先ツ政府ニ向ヒマシテ、政府ハ此法案ヲ出ス時ニ日本ノ政治、日本ノ立憲主義、諸般ノ事ヲ御考ニナシテ之ヲ御提出ニナタカドウカト云フコトヲ豫メ御聴キ申シタイ、是ハ必シモ御答辯ヲ要シナイ、私ハ此法ハ或ハ國ガ始メテ成立ツトキニ、或ハ内亂ノ直前ニ於テ、革命ノ直後ニ於テ、非常ノ場合ニ於テ、法三章ヲ以テヤルト云フ所ノ舊式ナル方法ニ於テナレバ必要ガアルカモ知ラヌト思フノデアリマス、併ナガラ現在 法治國ノ日本ニ於テ、憲法ガ嚴然トシテアリ、諸法規ガ此ニアルノニ、何ガ故ニ斯ノ如キモノヲ出サレタト云フ所ノ此政治ノ理想ニ於テ、主義ニ於テ私ハ解シナイ所ガ多イノデアリマス、以下私ハ六箇條ニ互ニ先ツ政府ニ私ノ疑問ヲ質シタイト思フノデアリマス、私ハ何故ニ政府ハ斯ノ如キ廣汎ナル意味ヲ有スル所ノ抽象的ノ文字ヲ以テ此國民ヲ取扱フカト云フ、其根柢ヲ聽キタイノデアリマス、第一——私モ法學者デゴザイマセヌカラ、過チモ多アルデアラウト思ヒマス、テレドモ、私ハ私トシテ議員トシテ聽キタイノデアリマス、第一國體トハ何ゾヤ、是ハ實際上ノ問題カラ、或ハ政治學說ノ上カラ、或ハ政治哲學ノ上カラ色々論議ハゴザイマセウ、寡聞ナル私デゴザイマス、テレドモ、私ハ之ヲ明瞭ニシテ置クト云フコトハ必要デアラウト思フノデアリマス、國體トハ

何ヲ謂フカ、國體ト云フコト、政體ト云フコト、區別シテ居ル以上ハ、其間ニ截然タル所ノ區別ガアルカラ御出シニナタノデアラウト思フノデアリマス、無ケレバ此字ヲ加ヘル必要ハナカラウト思フ、故ニ國體ト云フノハ私ノ解釋ニ從ヒマス、統治權其他ノ重大ナル點ニ於テ外ノ關係ヲ持テ居ルモノヲ規定シ、內國ニ於テハ其統治權ノ主體及客體ノ點ニ於テ論ジテ居ル所ノ點ハ政體ニナル、君主ハ是ハ國體ニナツテ居ルノデハナイカト云フコトヲ私ハ御伺シタイノデアリマス、即チ單一ノ獨立國、其下ニ於ケル所ノ屬國、或ハ聯邦組織ト云フヤウナコトハ、是ハ國體ト言ウタガ適當デハナカラウト思フノデアリマス、政府ノ之ニ對スル御所見ハ如何デアラカト云フコトヲ第一問トシテ聽キタイ、第二問ト致シマシテ、日本ハ今日ニ於キマシテハ立憲君主政體デアルト云フコトヲ世間ノ人ガ能ク言フデ居ル、私ハサウデアラウト思フ、併ナカラ政府ノ見ラレテ居ル私ガ信ジテ居ル所ノ國體ト云フモノヲ、政府ノ言フヤウニ取りノ國體ト云フモノヲ、政府ニ及ボス所ノ關係、及其機關ヲ論ジタモノト致シマシテ、政府ノ言フ通りニナツテ私ハ聽キタイコトガアル、ドウ云フ點デアラカト云フコト、是ハ一ノ例ニ過ギマセヌケレドモ、例ハ政府ハ政體ヲ御説明ニナルトキニ、私ハ不在デゴザイマス、テレドモ、立法、司法、行政ノ三權ガ互ニ連絡ヲ持テ居ルト云フコトヲ十分ニ御承知ガナカ、タカモ知レマセヌカ、貴族院ヲ廢止シテモ宜イ、衆議院ダケアレバ宜イト云フコトヲ申サレタト云フコトヲ友人カラ聞イタ、然ラバ其政體ノ中ニ於テモ主ナルモノト從ナルモノガアルト云フコトハ明デアアルノデハナイカ、然ラバ國體ノ上ニ於テモ主ナルモノ、從ナルモノガアルノデハナイカ、私有財産制度ニ於テモ主ナルモノト從ナルモノガアルノデハナイカ、若シ無イトスルナラバ思想ノ一貫ヲ缺イテ居ルト私ハ固ク信ズルノデアリマス、故ニ大變ナハ森嚴ナ問題デゴザイマス、憲法上ノ大問題デゴザイ

イマス、ケレドモ、統治權ヲ有シテ居ル所ノ天皇、之ヲ攝政スル所ノ攝政官ニ於カレマシテハ、殆ド他ノ統治權ノ全部ト云フモノヲ御持チニナツテ居ルノデアリマス、ケレドモ、憲法ヲ改正スルコトハ攝政官ノオキデニナル間ハ出來ナイト云フコトニナツテ居ル、然ラバ 攝政官殿下ガ政治ヲ御總攬セラレテ居ル時ニ當テ、此憲法ト云フモノヲ改正出來ナイト云フコトガ此國體ノ主體デアラカ否カト云フコトニ付テ政府ノ御意見ヲ質シタイノデアリマス、萬世一系ノ天皇陛下ガ其男子ノ相續者ニ向テ、連綿トシテ盡キナイト云フコトハ此主體デハナカラウト思フ、故ニ固ヨリ重大ナル問題デゴザイマス、ケレドモ、此 攝政官殿下ガオキデニナル間ハ憲法改正ノ出來ナイト云フノガ其主ナル眼目デアラカ、否カト云フコトヲ聽キタイ、他ニ於テ果シテ主ナルモノト從ナルモノガアル、貴族院ハ要ラスケレドモ衆議院ハ要ルト云フ、斯ウ云フヤウナ亂暴ナ事ヲ爲サル所ノ人ハ、之ニ就テ如何ナル御考ヲ持テ居ルノデアラカ、否カト云フコトヲ私ハ聽キタイノデアリマス、故ニ斯ウ云フコトヲ論議スル者ハ如何ナル所ノ刑罰ニ遭フカト云フコトモ聽キタイノデアリマス、是ハ憲法ヲ紛淆セントスルモノデハナイカト思フ、是ハ重大ナル問題デアテ、憲法上ノ大問題デアルト私ハ思フノデアリマス、其點ヲ政府ニ聽キタイ、第二ニ政府ノ稱スル所ノ政體ハ何デアラカト云フ點デアアル、私ヲシテ言ハシムレバ、的確デアルトハ申シマセヌケレドモ、峻烈ニ之ヲ考ヘルマシレバ重大ナル所ノ或モノガ其處ニ潛シテ居ルノデハナイカ、多分惡意デハナカラウトケレドモ、思慮ガ足ラヌ爲ニ重大ナル事ガ起リハシナイカト思フノデアリマス、諸君、是ハ重大ナル問題デアアル、何デアラカト云ヒマス——何デアラカト云ヒマス、日本ハ立憲君主政體デゴザイマス、此立憲君主政體ト云フモノハ何ヲ以テ規定シテ居ルカト云フコト、天皇陛下ガ欽定憲法ニ依テ國民ニ與ヘラレタル所ノ御約束デハナカラウト私ハ思フノデアリマス

マス、其御約束ノ條文ガ彼ノ憲法ニ於テ列記サレテ居ルノデアリマス、皇室典範モ附イテ居ルト云フヤウナ狀態デゴザイマス、斯ウ云フヤウナ重大ナル國家ノ大本ヲ成ス憲法ニ向テ、衆議院ハ要ルケレドモ貴族院ハ要ラヌ、政府ハドウデモ宜イ、司法權ハドウデモ宜イト云フヤウナコトヲ爲サルノハ、憲法ヲ紛淆スル所ノ思想ガ振テ、サウ云フコトガ出來タノデアラカドウカ、多分サウデハナカラウト、十分ニ事ガ分ラヌカラサウ云フコトガ出來タノデアラウト思フガ、是ハ重大ナル事デアアル、吾々ハ憲法擁護ノ爲ニ斯ノ如キ思想ニ對シテ起タナケレバナラヌ、諸君、此衆議院、貴族院ハ即チ今日ニ於テ大體國民ノ代表機關ト貴族ノ代表機關ト云フモノガアツテ立法機關ヲ成シテ居ル、立法機關ハ今日ノ政治ノ進歩ニ依テ政黨内閣ヲ作タノデアリマス、カラ、加藤首相ハ之ヲ言フコトヲ恐レテ居リマス、ケレドモ、實體上デハサウデアルト私ハ思フ、故ニ立法ト云フモノト行政ト云フモノノ餘程混淆シテ居ルト云フコトハ、英國ノ例ニ見テモ分ルデアラウト思フ、又此司法ト云フモノト行政ト云フモノハ、或點カラ見レバ一種ノ「エキセキユーチーブ」デアツテ、執行機關ナリト云フヤウナ狀態デアアルデアアル、故ニ行政ト司法ト關係ヲ持チ、立法ト行政ト或ル關係ヲ持ツノデアリマス、三權分立論ト云フモノハ、或人ガ考ヘテ居ルヤウニ分立シテ居ルノデハナイノデアリマス、互ニ連絡ヲ取ツテ初メテ活動ヲ起シテ居ルノデアアル、其連絡ヲ規定シタノガ日本憲法デハナイカ、然ルニ何故ニ政府ハ衆議院ハ主デアツテ、貴族院ヤ行政府、司法部ハ從デアルト云フヤウナコトヲ言ハレタサウデアアル、憲法ノ如何ナル條章ニ照シテ、如何ナル考ヲ以テ斯様ナコトヲ言ハレタノデアラカ之ヲ伺ヒタイ、是レ政治學ヲ知ラヌ、憲法ノ大ナル意味ヲ知ラヌ部分ノ觀念カラヤタモノデアラウト思フ、私ハ甚ダ失禮デアアルケレドモサウ思ハザルヲ得ナイ狀態ガアル、第三ニ於キマシテ私有財産ノ問題デアリマス(三デヤナ

イ四ヲト呼フ者アリ)第四ニ於キマシテ私
有財産ノ問題デアリマス、諸君、憲法ニ於
テハ所有權ハ侵サレ、コトナシト云フコト
ヲ規定セラレテ居ル、但シ公益ト云フ但書
ガアル、諸君、所有ノ觀念ト云フモノハ必
モ代償ト云フコトバカリデハナイ、所有ノ
觀念ハ御存知ノ通り其處ニ人間ニ對スル
ツノ價值ガ存在シテ居ル、價值ニツアル、
主觀的價值ト客觀的價值、主觀的價值ノ狀
態ガ遂ニ客觀化サレテ其處ニ價格ガ出來ル
モノデアラウト思フ、世間的代償ガ其處ニ
起テ來ルノデアラウト思フ、故ニ我物ヲ
欲イト思フテ居ルノヲ政府ガソレヲ取ルト
云フコトハ、縱令代償ヲ與ヘテモ絶對的ニ
ハ所有權ト云フモノハ侵害サレテ居ルノデ
ゴザイマス、民法ノ所有權ノ觀念ハ使用、
收益、處分ト云フコトニナツテ居ル、而シ
テ公益其他ノ場合ニ於テ此三者ガ十分ニ結
合スルコトヲ得ズ完全圓滿ニ行ハレナイ
云フコトハ如何ナル國家デモアルコトデア
ルト思フ、然ラバ政府ハ此所有權ト云フモ
ノヲ何處マデ認メラレカ、間ク所ニ依レ
バ戰時中亞米利加ニ於テ所得稅約八割ヲ取
ラレト云フコトヲ間イテ居ルノデゴザイ
マス、九割取テ一割拂フノガ賠償デア
ルカ、其界限點ハ何ニ依テ之ヲ決セント
スルノデアアルカ、此法案ト云フモノハ何等
的確ナル上ニ立ツテ居ナイ、例ヘバ資本課
稅ノ問題ニ於テドゥアル、相續稅ノ問題
ニ於テドゥアル、土地增價稅ニ於テドゥ
アル、ソレデ直接稅ニ付テハ政府ハ衆議
院ノ決議權ヲ以テ之ヲ取ルト云フコトハ憲
法ガ認メテ居ルノデゴザイマスカラ、百分
ノ一ダケ殘タカラト云フテハ私有財産
制度トハ言ヘナイダラウト思フ、政府ハ其
界限點ヲドウ考ヘテ居ルカ、曖昧模稜デア
テ、何等之ニ對シテ規定スル所ハナイデア
ラウト私ハ固ク信ズル、又内國人ノ財産ト
外國人ノ財産トアツテ、此間ニ大ナル所ノ
困難ガ起ルト云フコトモ豫想シ得ルヤウナ
狀態デゴザイマス、吾々ハ斯ノ如キ「アン
ビギニアス」ナル曖昧ナルモノニ對シテ的

確ナル判斷ヲ誰ガ與ヘルカ、警官ガ與ヘル
カ、時ノ政府ガ與ヘルカ、是レ最も危ナイ
モノデ、吾々ノ權利ヲ放棄スルモノデア
ルト思フ、故ニ斯ウ云フヤウナ危ナイコトハ
最も注意シナケレバナラヌト思フ、諸君、
私ハ政府ノ所謂團體及ビ政體ニ付テハ、憲
法ノ條章ニ炳乎トシテ掲ゲテ居ル、併ナガ
ラ第三ノ此私有財産ノ問題ニ付テハ主トシ
テ法律ノ範圍内ニ屬スルヤウニ私ハ承テ
居ル、主トシテ法律ノ範圍内ニ屬スルモノ
ヲ間シテ、第二ノ此政體ノ變更ヲ罰シナイ
ト云フノハドウ云フ譯デアアルカ、是レ大ナ
ル所ノ矛盾者デハナカラウカト私ハ思フ
ノデゴザイマス、間ク所ニ依ルト政府ハ私
ハ此法案ハ決シテ普通選舉ガ樞密院デ審議
サレテ居ル間ニ考ヘタモノデナイ、モト
前ニ考ヘタト云ハレマスケレドモ、果シテ
ソレガ猜疑デアアルカモ知レマセヌケレド
モ、普通選舉ガ出ルト云フノデ、或ル話ガ
アテ先廻リヲシテ、昨年ノ夏頃カラソ
ノ「再ビ過激法案ノ燒直シヲ出サレタノデ
ハナイカト思フ、他ノ關係ニ於テ」故ニ其
處ニ動カサレタノデハナイカト私ハ恐レル
ノデアリマス、サウ云フヤウナ支離滅裂ナ
ルモノヲ以テ、本法三章ヲ以テ、此整然タ
ル憲法政治ヲ破壞セントスルト言ハレテモ
仕方ガナイデハナカラウカト私ハ思フノデ
アリマス、第五ニ於キマシテ私ハ結社ノ自
由ト云フコトヲ言ヒタイ、諸君、結社ノ自
由ト云フモノハ憲法ノ正條ニ掲ゲテアル、
併ナガラ法律ノ範圍内ト云フ但書ガアル、
此結社ノ自由、集會ノ自由、言論ノ自由ハ
世界ノ「デモクラシー」ノ精神トシテ最も必
要ナル大條項デナケレバナラヌ、唯其上ニ
法律ヲク「附ケタ」ハ其時ノ事情ニ從テ、
幾分カ制限シヤウト云フ御趣意デアルト拜
察スル、故ニ此結社ノ自由ハ成ルベク擴大
シナケレバナラヌ、然ルニ政府ハ平時ニ於
テ戒嚴令ヲ布クヤウナ此過激法ヲ以テ「ビ
スマルク」ガ何年カ前ニ鐵血政策ヲ行ヒ、
其當時ノ獨逸皇帝「カイザー」ガ「ビスマ
ルク」ノ政策ヲ否定シタト云フ歴史ガアル、
ソレヲ無視シテ、何等效果ナクシテ却テ大

害ヲ醸シタ歴史ヲ顧ミズシテ、社會黨鎮壓
令ヲ今日ニ於テ出スト云フ、其必要ヲ私ハ
認メナイト信ズルノデゴザイマス、諸君モ
御同感デアラウト思ヒマス、一體日本帝國
臣民ヲ因人ノ如ク取扱フト云フコトハ、立
憲政治ノ許セバカラザル所ノ法規デア
ル、ソレアリマス、今肺病ニ罹リテ熱ガ出テ居
ル、ソレニ對症藥トシテ熱冷シヤウナ所ガ
秘製結社トナツテ、大ニ茲ニ大ナル慘害ガ
起ル、茲ニ陰謀ガ起リ、惡辣ナル手段ヲ以
テ人ヲ毒殺シ、人ヲ殺害シ、國務大臣ヲ害
シ、大ナル革命ノ導火線トナリ、是ハ明ナル
事實デアハナカラウカト思フノデアリマス、故
ニ此結社ト云フモノハ成タケ自由ニシナケ
レバナラヌ、上奏權ヲ天皇陛下カラ憲法ニ
發議セラレタ時ニ議員諸君ハ政黨ヲ以テモ
テ居ル、政黨ニハ金錢ヲ贈與シテ其政黨ヲ
援ケテ居ルト云フ連絡ガアルデハナイカ、
主義主張ガナイ諸君ガ、津々浦々ニ廻ル時
ニ何ヲ政綱トシテ諸君ハ行カレノデア
ルカ、諸君ハ此議會ニ來タ時ハ議員デア
テ、外ニ出タナラバ議員デナイト云フ官僚的、
專制的思想ハ吾々ハ大ニ忌ム所デアリマ
ス、是ニ於テ上奏權ガアリ、是ニ於テ或ハ
議會ノ決議權ガアル、人民ガ議會ニ請願權
ヲ有シテ居ルナラバ、議會ノ内部ノ政黨ト、
外部ノ政黨、或ハ其他ノ結社トノ連絡ヲ保
タナケレバ日本帝國ヲドウシテ眞直ニ進
メテ行クコトガ出來マセウカ、若シソレガ出
來ナケレバ一種ノ間隙ガ起テ陰謀トナツテ、
大ナル動亂ヲ起シテ居ルト云フコトハ、世
界各國ノ歴史ニ於テ昭々乎トシテ明デア
ル、斯ノ如キ治安維持法ヲ布イテ、而シテ
此伸ントスル所ノ「デモクラシー」ヲ抑ヘ、
諸君ハ露國政府承認ニ反對シタノデゴザイ
マス、二年前デシタカ、時ノ政友會ノ廣岡
宇一郎君ガ起テ露國ヲ承認シテハイカヌ、
國ガ亡ビルト云ヒ、今日ハ諸君ガ數日前ニ
滿場一致ヲ以テ決議案ヲ可決シタノハドウ
云フコトデアアルカ、數年前ニハ國ガ亡ビ
カラ承認シテハイカヌト云フテ居ルデナイ

カ、又一二年前マデ普選ヲ布ケバ亡國ニナ
ルト叫ンダ政友會ハ、豹變シテ普選賛成ヲ
シテ居ル、此「デモクラシー」ノ「マーチ」ヲ
諸君ハ何ト見ルカ、此直隨ヲ知ラズシテ、
政治ノ理想ヲ知ラズシテ、而シテ斯ノ如キ
過激法案ニ寢返リヲ打ツテ、政府ニ盲從ス
ルノ政策デナカラウカト私ハ堅ク信ジテ疑
ハナイノデアリマス、故ニ政府ハ大ニ結社
ノ自由ヲ盛ニシテ、斯ノ如キ鎮壓法ヲ以テヤ
ルト云フコトハ、平時中ニ戒嚴令ヲ布クヤ
ウナモノデ、國民ヲ仇敵スルモノデア
ル、國民ヲ仇敵トシテ戰フ政府ハ民ヲ度外視
スル、之ヲ度外視スルト云フコトハ穩當デナ
イ、非常ニ危イノデゴザイマス、諸君、
テ思ヘ、此政體ヲ無視シ、立憲政治ノ根幹
ヲ成ス所ノ政體ハ之ヲ度外シテ、私有財産
制度、及國體ノ尊嚴ヲドウシテ保ツコトガ
出來ルカ、之ニ依テ始メテ兩者ノ聯絡ヲ
有シテ行クノデナカラウカ、私ハ政府ノ此
見解ハ或意味ニ於テ正シトモ云ヘル、政府
ハ何故ニ政體ノミニ點ノミヲ削リタルカ、
而シテソレヲ他ノ法規ニ依テ罰セントス
ルカ、又委員長ニ御問シマス、此修正案ハ
非常ニ間違テ居ルト私ハ思フ、サウ云フ
ヤウナ意味ヲ以テ政府ガ國民ヲ鎮壓スルコ
トニナルト、大ナル所ノ暴動トナツタ時ニ
諸公ハドウ云フヤウナ面目ヲ以テ國民ニ見
ユルコトガ出來マセウカ、故ニ私ハ斯ウ云
フヤウナ點カラ、或ハ治安警察法ノ問題ガ
アル、サウシテ國民ヲ既ニ壓迫シテ居ルカ
ラ、國民ガ非常ニ怒リテ非常ナル所ノ亂暴
ヲ働クト云フコトガ歴史アル所ノ日本帝國
ニ起タナラバ、是レ政府ノ大ナル責任デ
ハナカラウカ、其責任ヲ自覺セズシテ、間
違タ藥ヲ投藥シタコトニ依ツテ、サウシテ
段々ト過激思想ガ醸成シ、尙ホ其上ニモ肺
病ヲ直サントシテ唯、熱冷マシヤウナ、
社會政策ヲ行ハズ、民ト共ニ政治ヲシナイ、
官僚政治、保守黨政治ヲ以テ之ニ臨ンデ、
熱ガ下ラヌカラト云フノデ鎮壓法ト云フ熱
冷シヤウナ、之ヲ鎮壓スルナラバ、日本
帝國臣民ハ非常ニ無道ニ反抗ノ精神ヲ有
テ居ルノデゴザイマス、之ヲ豫期シナケレ

政治ノ要道ハ立タヌ、柔順デアアルケレドモ同時ニ反抗ヲ以テシタト云フコトハ、過去ノ歴史ニ於テ日本帝國ノ國民ハ有テ居ル、是ガ爲ニ外國ニ對シテ強イノデアアル、故ニ吾々ハ軍備ヲ擴張シテ外國ニ對抗スルノモ宜シイケレドモ、今日ハ非常ナル所ノ「デモクラシー」ノ「マーチ」デアッテ、段々勞働黨ガ起テ來ル、或ハ社會黨ガ起テ來ルダラウ、之ヲ良イ方ニ導イテ、サウシテ吾々ハ其誤テ居ルコトヲ指摘シテ、始メテ、大義公道ノ上ニ日本帝國ノ國民ノ政治ヲヤラナケレバナラヌ、官僚政治ガ一時ノ投藥ヲ以テシテハ到底ハ直ルモノデナイカラ、政府ハ茲ニ大ニ鑑ミテ速ニ此議案ヲ撤回サレシコトヲ願フデアリマス、政府ノ之ニ對スル所ノ御處置ハドウデゴザイマス、聞ク所ニ依ルト委員會ニ於キマシテハ、小川司法大臣ハ若シ三派ノ多數ヲ以テ此法案ノ修正案ガ通りマシタ時ニハ、政府ハ考慮スルト言ハナイデ、政府ハ同意スルト云フコトヲ言ハレマシタ、何ガ故ニ御同意ナサルノデアアルカ、政府ノ原案ガ惡カッタガ爲ニ御同意ナサルカ、多數デ仕様ガナイカラ政府ヲ維持スルノ困難デアアル、此憲法ニ大ナル關係アル問題ヲ其多數ニ依テ唯、單ニ少シモ疑ハナイデ委員會ノ修正ニ同意サルト云フノハ、如何ナル點デアアルカ、貴族院ノ反響ヲ恐レタ爲デアアルカ、最初ノ原案ガ杜撰デアッタ爲デアアルカ、如何ナル爲デアアルカト云フコトヲ國民ノ前ニ明ニスルト云フコトハ、大ナル責任ガアルト私ハ感ズル、其他私ハ委員長ニ向テ何ガ此修正案ガ——修正案ガ如何ナル理由ニ於テ可決サレタカト云フ所ノ詳細ヲ御説明ヲ願ヒタイ、其間ニ於テ色々「デベート」ガアリ、サウシテ色々問題ガアッタト思ヒマス、發言ガアッタト思ヒマス、然ラバ是ハ如何ナル徑路ヲ經テ此修正案ニ同意スルニ至ラタカト云フ所ノ徑路ヲ、先ニモ申述ベラレマシタケレドモ、今一應詳細ニ御説明アラシコトヲ私ハ願フデアリマス、之ヲ要スルニ私ハ小サイ問題ヲ取出サナイデ、憲法ノ條章ヲ不法ノ行爲ニ依テ

改正セントスル者、法律ヲ不法ノ行爲ニ依テ改正セントスル者、暴力ヲ以テ壓迫セントスル者ニハ此結社ノ自由ヲ——結社ヲ解散セシメル、或ハ刑罰ヲ或ル程度マデ科スルト云フ必要ハアルカモ知レマセヌ、私ハ此憲法ノ大ナル精神カラ言フテ、此法第三章ヲ以テ之ヲ擊破セントスルコトハ大ナル憲法ノ逆轉デハナカラウカト思ヒマシテ、政府ハ本案ヲ撤回スベシト論ズルデアリマス、茲ニ一種ノ憲法擁護論ヲ致シマシテ、内閣諸公ノ大ナル反省ヲ促シ、其答辯ヲ聞イタ上デ、尙又質問致シタイト思フデアリマス(拍手)

(國務大臣小川平吉君登壇)

○國務大臣(小川平吉君) 田淵君ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、國體ト云フ文字ノ意味ハ即チ憲法第一條ニアリマス所ノ「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇ヲ統治ス」是ガ即チ日本ノ國體デアリマシテ、其國體ヲ憲法第一條ニ言現ノシタニ過ギナイデアリマス、政治上ニ於テ日本帝國ノ國體ト申シマスレバ、極メテ明ナル事デアルト政府ハ考ヘテ居ルノデアリマス(ヒヤ)而シテ此文字ノ事ニ付キマシテ田淵君ヨリモ只今御話ガゴザイマシタ、其他ニモ往々斯ノ如キ問ガ起ルノデアリマス、或ハ國體ト云ヒ、或ハ私有財産制度ノ否認ト云ヒ、文字ガ抽象的デ漠然トシテ居ルデハナイカト云フ御話デアリマス、私有財産制度ノ否認ト云フコトモ可ナリ私ハ明瞭デアルト思フ、世ノ中ノ事ハ毎日々々變化シ進歩シテ參ルデアリマスカラ、初テ法律ヲ作リマスル時分ニ、其言葉ガ段々細カク研究ヲスルト、中々是ハ限界ノムツカシイコトガアル、今日ノ刑法ニ於キマシテモ、或ハ朝憲ヲ紊亂シタト云フ言葉モ段々研究シテ行キマシタラバ、中々是ハムツカシイ言葉デアラウト思フ、或ハ安寧秩序ヲ紊亂者——安寧ノ秩序ヲ紊亂ト云フコトハ先般ノ地震ノ際ニ發布シタ緊急勅令ニモアッタ、而シテ十年以下ノ懲役ニ之ヲ處スルト云フコトニナツテ居ル、安寧秩序ヲ害スル事項ヲ宣

傳シタ者モ、流布シタ者モ罰スルト云フコトニナツテ居ル、サウ云フ字ニ比レバ、此私有財産ノ制度ヲ否認スル、根本ヨリ之ヲ認メナイト云フ言葉ハ可ナリ明デアラウト思フ、況ヤ國體ト云フ文字ガ道徳上其他ノ點カラハ色々事モアルカ知リマセヌガ、政治上ニ於テハ大日本帝國ノ國體ト申シマスレバ、則チ神武天皇以來ノ國體ヲ憲法第一條ニ言現ハシタ、大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇ヲ統治ス、是ヨリ私ハ明ナ事ハ無イト考ヘテ居ルノデアリマス、次ニ政體ノコトデアリマス、是ハ度々申シマスル通り、政體ノコトハ即チ日本ガ立憲君主政體デアアル、此政體ヲ變革スル者ハ宜シクナイ、斯ウ云フ趣意デアリマス、田淵君ノ御質問ノ中ニ貴族院ハ要ラナイ、衆議院ガアレバ宜シイト云フヤウナ意見ヲ政府ガ述ベタカノ如キ御言葉ガゴザイマシタガ、是ハ大變ナ違ヒデアリマス、政府ハ委員會ニ於キマシテモ、今日ノ我ガ憲法ニ規定シテアル所ノ二院制度、即チ貴族院、衆議院、此兩院ノ制度ト云フモノハ海ニ結構ナ制度デアアル、二院制度ノ妙用ハ憲政有終ノ美ヲ濟スニ付テ海ニ結構ナモノデアルト申シテ居ルノデアリマス、唯、今日ノ事情ニ照シテ此立憲君主政體ヲ變革セントスル者ヲ罰スルト云フノハ、即チ議會否認ト云フコトガ今日始メテ居ル、此政體ノ根本ハ何處マデモ此議會制度、即チ國民ノ代表ヲ政治ニ參與サセルト云フ所ノ、明治天皇ノ恩召ニ依テ出來タ所ノ憲法ノ精神デアリマス、之ニ對シテ今日動モスレバ斯ノ如キ議論ガアリマスカラ、之ヲ罰スルト云フノデアアル、決シテ今日貴族院ガ必要デナイナドト云フコトヲ申シタコトハ無イノデアアル、最モ必要デアッテ、兩院ノ制度ト云フモノハ實ニ此憲政ノ妙デアリマス、此妙用ヲ發揮スルト云フコトハ、即チ憲政有終ノ美ヲ濟ス所以デアルト云フコトヲ度々明ニ申上ゲテアルノデアリマス、第三ノ私有財産制度ノ事ニ付テ色々例ヲ御舉ゲニナリマシタガ是モ度々申上ゲマスル通り、私有財産制度、即チ人ノ所有權ト云フモノヲ認メテ、

サウシテ或ハ其所有物ヲ甲ヨリ乙ニ移ストカ、或ハ國民ノ手ヨリシテ之ヲ國ニ移ストカ、公有ニスルトカト云フコトニナリマシテモ、所有權ヲ認メテ相當ノ賠償ヲスル、斯ウ云フコトデアリマスレバ、ソレハ即チ私有財産制度ヲ認メテ居ルノデアリマス、決シテ本法ニ觸レモノデハナイ、私有財産制度ヲ否認シテ所有權ト云フモノハ認メナイ、總テノ財產ヲ取上ゲテシマッテ勞働者ノ共有ニスルトカ、或ハ公有ニスルト云フノガ惡イノデアアル、故ニ賠償ヲスルト云フコトハ所有權ヲ認メテ掛カルノデアアルカラ、本法ニハ觸レナイ、斯ウ云フ次第デアリマス、第四ニ普通選舉、即チ衆議院議員選舉法改正案ト本法トノ關係ニ付テ述ベラレタノデアリマス、是モ度々御答申シタ通り、普通選舉ノ法案ニハ本案ハ何等關係ハ無イノデアリマス、普通選舉ガ實施サレマセウト、サレナカラウト、今日ノ日本ノ狀態ニ顧ミテ無政府主義、共產主義ノ如キモノガ往住出テ參リマシタ、甚ダ遺憾ナ次第デアリマスケレドモ——之ヲ今日ニ於テ蔓延致サナイヤウニ防ギタイト云フノガ本法ノ目的デアリマス、普通選舉案ガ出マセウト出マスマイト、ソレニハ何等關係ハ無イノデアリマス、第五ハ結社ノ自由ヲ何故認メナイカ、結社ノ自由ト云フコトハ一應ハ皆認メテ居ルノデアリマス、併ナガラ結社ノ自由ハ法律規則ニ從テ安寧秩序ヲ紊亂ス、而シテ政治上ナリ社會上ノ向上進歩ヲ圖ル爲ニハ結社ノ自由ヲ許ス、併ナガラ社會ノ組織ヲ破壞シ、國家ヲ根本カラ覆スト云フコトヲ目的トシテ之ヲ實行スル結社ヲ許スト云フ譯ニハ參リマセヌ、苟モ國家一日モ存在スル以上ハ、斯ノ如キ結社ニ向テハ嚴重ニ之ヲ差止メナケレバナラヌノデアリマス、即チ結社ノ目的如何ニ依ルノデアリマス、社會ノ向上、人類ノ進歩ト云フモノヲ目的ニ致スカラシテ、結社ノ自由ヲ許スノデアアル、之ヲ破壞スルト云フモノデアリマスレバ、ドウシテ斯様ナ者ニ結社ノ自由ヲ與ヘルコトガ出來マセウ、是ハ絕對ニ禁壓シナケレバナラヌモノデアリマスカラ、即チ斯

様ニ致シタノデアリマス、最後ニ修正案ニ付テ同意云々ノ御尋ガゴザイマシタ、是ハ政府ハ固ヨリ本案ヲ以テ適當ナリト信ジテ提出ヲ致シタノデアリマス、併ナガラ立法府ニ在ル所ノ協賛ノ任ニ當ラレル所ノ諸君ノ大多數ガ——諸君ノ多數ガ之ヲ修正スルガ宜シト云フコトニナリマスレバ、政府ハ是ハ考ヘナケレバナラヌ、立法府ニ於ケル多數ノ意思ヲ尊重スルコト云フコトハ、政府トシテ當然ノ事デアルト考ヘマス、故ニ多數ノ諸君ガ若シ修正セラレルト云フコトデアラナラバ、此多數ノ御決議ヲ尊重ヲ致シテ、其場合ニ至テハ同意スルデアラウト云フコトヲ申上ダタノデアリマス(拍手)

○田淵吉吉君 議長——議長

○副議長(小泉又次郎君) 田淵君簡單デスカ

〔無用〕無用ト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 田淵君——簡單ダサウデアリマスカラ發言ヲ許可致シマス

〔田淵吉吉君登壇〕

○田淵吉吉君 今ノハ拔ケテ居リマスカラ一寸御尋シタイ、言ウタ事デアリマスカラドウカ御許ヲ願ヒマス、今ノ主タルモノト從タルモノト云フコトヲ大分言ハレタヤウデスガ、其時ニ國體ニ關シテ其統治權ノ主體ト云フコトニ付テ、其點ニ付テ從タルモノガナイカト云フコトヲ御尋シタノデアリマス、ソレニ對シテ從タルモノノ主タルモノト分ケルカラ、國體ノ上ニ於テハ從タルモノハナシ、攝政殿下ノ御位ニ即カレテ居ル間ニ、憲法ノ改正ガ出來ルカ否ヤト云フヤウナ事ヲ論議シタ者ハイカナイノデアアルカト云フコトヲ御尋シタノデ、何等之ニ觸レナイト云フコトハ、國務大臣トシテノ職務ノ重大ナルコトヲ自覺シナイ所以デナイカト思ヒマス、能ク分テ居ル筈ト思ヒマ

ス、第二ニ於テハ私有財産制度ヲ労働者ガ總テノ財産、即チ財産百分ノ百ヲ取テモ總テノ財産カ、百分ノ八十ヲ取テラ總テノ財産カ、總テノ物ヲ取ラナイデ、財産百方圓ヲ持テ居テ、數年前露國國金ヲ預ケヨト言、タカラ之ヲ銀行ニ差出スト紙幣デ吳レル、紙幣ハ芝ノ葉ノ如キモノデ三文ノ値打モナイ、併シ一錢カ二錢ノ値打ガアルカ知レヌガ——又所有權ト云フモノヲサウ云フ明確デナイ所ノ法律デ、非常ナル間違ヲ適用ノ上ニ起サマルカ、之ヲ聞イタ、總テトハ如何ナル意味デアアルカ、九十「パーセント」ダケデソレデ宜イカト云フコトヲ國務大臣ニ聽キタイ、其他色々ノ點ニ於テ不滿ノ點ガアリマスガ、茲ニ論議ヲ省クコトニ致シマス

〔國務大臣小川平吉君登壇〕

○國務大臣(小川平吉君) 國體ニハ主モ從モナイノデアリマス、國體ハ唯一ニシテ是ニ主從ノアルベキ道理ハナシ、又攝政殿下ノ御治政ニ於テハ憲法ヲ變更スルト云フコトハ出來ナイト云フコトハ、憲法ノ規定デアリマス、憲法ヲ如何ニ改正スベキカト云フコトヲ定メラレタル條項デアリマス、國體其モノニハ何モ關係ハアリマセヌ

〔清瀨一郎君登壇〕

○清瀨一郎君 前田委員長ノ寬大ナ處置ニ依リマシテ、多數ノ質問ヲ委員會ニ於テ私ニ御許シ下サテ居リマス、唯、一ツダケ未ダ質問ヲ了セナイ點ガアリマスガ故ニ、茲ニ之ヲ政府ニ質スノ機會ヲ得セシメラレンコトヲ望ミマス、ソレハ本法第一條ハ國體ノ變革ヲ目的トスル結社ヲ處罰シテ居ル、國體トハ委員長報告ノ通り、天皇ノ統治權ノコトデアアル、天皇ガ我國ヲ統治在マスコトニ向テ變革ヲ加ヘルト云フコトハ、天皇自身ニ危害ヲ加ヘ奉ラントスルコト、相表裏致スノデアリマス、此事ハ既ニ委員會

ニ於テ山折委員ヨリ御質問ニナリ、政府委員モ大體之ヲ承認サレテ、刑法七十三條ト治安維持法第一條ハ觀念ニ於テハ違フケレドモ、物ノ實體ニ於テハ殆ド合致スル場合アルコトヲ承認サレテ居リマス、ソコデ刑法第七十三條ノ犯罪ハ、内亂、又ハ内亂ノ陰謀罪ト共ニ大審院ノ特別管轄ニ屬シテ居ル、事重大ナリト見テ地方裁判所、控訴院ノ管轄ヲ廢排シマシテ、天皇ニ對シテ苟且ニモ危害ヲ加ヘ奉ラントスル豫備ノ又豫備ヲモ大審院ノ特別管轄ト致シテ居ル、本制ノ結社モ亦其罪質ニ於テ是ト相違フ所ガナイノデアリマス、内亂ノ陰謀罪マデモ之ヲ大審院ノ特別管轄ニ致ス以上ハ、我國ノ統治權ニ向テ變革ヲ試ミント欲スル所ノ結社ヲ組織スル者ノ犯罪ハ、矢張は大審院ノ特別管轄ニスルニ非ズンバ、我國ノ法制ヲ貫カナイコト、思ヒマス、然ルニ本法ダケヲ以テ終リマススト云フト、場合ニ依テハ區裁判所ノ管轄ニモ屬シ、豫審ヲ經タトキニ限り地方裁判所ノ管轄ニ屬スル、私有財産否認ノ場合ハサモアルベキ事デアリマス、私有財産否認ノ犯罪ハソレデ宜シイガ、假ニモ我國ノ皇室ノ大權ニ關スル犯罪ヲ區裁判所デ審理サル、ト云フコトハ、如何ナル事デアリマセウカ、吾々法律家ト致シテモ、國民ノ一人ト致シテモ、洵ニ諒解シ兼ねル點デアリマス、此結果ヲ承認サレテ本案ヲ立案サレマシタカ、ソレトモ他ニ御解釋ノ餘地デモアルコトデアリマスガ、此點ニ關シテ國務大臣ヨリ御答辯ヲ一言御伺致シマス

〔國務大臣小川平吉君登壇〕

○國務大臣(小川平吉君) 只今清瀨君ハ、國體ノ變革ハ洵ニ大事デアアル、上皇室ニ對シテ危害ヲ加ヘ奉ル事柄ト表裏スルコトニナル、斯様ニ御述ベニナリマシタ、皇室ニ對シテ危害ヲ加ヘ奉ルト云フコトハ、洵ニ

申スモ畏イ事デアリマス、是ハ刑法ニ規定ヲ致シテアル、國體ノ變革其モノハ或ハ場合ニ於テハ左様ナ場合モゴザイマセウケレドモ、必シモ皇室ノ御身上ニ對シテ危害ヲ加ヘルコトノ關係ガ無クシテ、國體ノ變革ハ企テラレルノデアリマス、是ハ此處ニ申スマデモナイ、單ニ國體ヲ變革シテ天皇ノ統治權ニ手ヲ觸レル、斯ウシ場合ハ澤山ニ有リ得ルノデアリマス、必ズ皇室ニ危害ヲ加ヘルト云フコト、國體ノ變革トガ表裏ヲ爲スモノトハ考ヘマセヌ、而シテ何故ニ本案ノ國體變革ノ罪ヲ大審院ノ管轄ニセスカ、皇室ノ事ニ付キマシテハ洵ニ畏多イ、實ニ重大極リナキ事件デアリマス、日本トシテハ此上ナキ大事件、是ハ大審院ノ管轄ニ歸セシムルコトガ當然デアルト信ジマス、今回ノ治安維持法ニ依テ罰セントスル罪ハ、國體ノ變革ヲ以テ目的トスル、サウシテ或ハ結社シ、或ハ文書、演說等ヲ以テ煽動ヲスル、此結社煽動ト云フ如キコトヲ罰スルノデアリマス、故ニ是ハ皇室ニ對シテ危害ヲ加ヘル罪トハ餘程輕重ノ別ガアルコト、考ヘマシテ、此程度デアリマスレバ通常ノ裁判所デ、通常ノ法律ニ從テ審理スルコトガ相當デアルト考ヘマシタ次第デアリマス

〔清瀨一郎君登壇〕

○清瀨一郎君 私ハ刑法第七十三條ノ罪ト、本法第一條ノ罪トガ表裏一致スルト云フノデナイ、一致スル場合モアルト云フノデアアル、小川司法大臣又一一致スル場合アルコトヲ認メラレテ居ル、必ズ表裏スルモノデハナシガ、表裏スル場合モアルト云フコトハ小川君ト雖モ否定ノ出來ナイ事デアアル、既ニ是ハ委員會ニ於テ承認サレタ事實ナノデアアル、今ソレヲ否定サレルコトハ私ハ信義ニ反スルト思フ、尤モ前ノ過チヲ改メラレルナラバ別デアリマスケレドモ、其

儘ニシテ外ノ言葉ハ用キラレマイト思ヒマス、サウ致シマス、假ニ百中一ツデモ刑法第七十三條ト表裏スルヤウナル第一條ノ罪ガ起ク場合、是亦同ジク區裁判所デ審理サル、コトヲ承認サル、ノデアアラウカドウデアアラウカ、是ハ我國ノ如キ萬世不易ノ國體デアアル、日本タケノ事デハナ、何處ノ國デモ國體ニ關スル問題ニ付テハ非常ニ心配ヲ致シマシテ、英吉利ハ之ヲ「ハイツリズン」ト稱シ、此國體ニ關スル問題ヲ區裁判所デ審理スルナドト云フ法律ハ、世界廣シト雖モ未ダ曾テ無イノデアアル、時ノ古今ヲ問ハズ、皇室ニ對スル罪ヲ區裁判所デ裁判シタト云フ事件ハ私寡聞ニシテ未ダ聞キマセヌ、大戰後ニ出マシタ所ノ獨逸ノ共和擁護法ト云フモノガアル、此共和擁護法ノ第四條ト云フモノガ丁度今度ノ第一條ト同一ノモノデアアル、獨逸國若クハ聯邦ノ憲法ニ依リ確保セラレタル共和政體ヲ破壞スルコトヲ以テ目的トスル秘密結社、若クハ反國家の結合ニ參加シ、又ハ其結合若クハ目的遂行ニ於テ、其會員ヲ言語若クハ行為、特ニ金ヲ以テ援助スル者ハ五年以下ノ禁錮ニ處スト云フノデアリマス、我國ノ治安維持法第一條ト同一ノモノデアアル、之ヲ獨逸ノ國デ如何ニ拔クカト申スノニ、彼ノ國デハ大審院內ニ共和擁護裁判所ヲ設置致シテ、大審院ノ判事三名ト全國民カラ選バレタ者六名ト、大審院內ニ特別裁判所ヲ作デ、斯ノ如キ秘密結社ヲ處罰スルコトニ致シテ居ル、共和國タル獨逸ニ於テ共和擁護スルコト云フコトハ、君主國タル日本ニ於テ君主政體ヲ擁護スルコト少シモ選バナイ、政府ハ之ニ心付イテ斯ノ如キ輕率ナル案ヲ出サレタトスレバ——(「ノウ」)「何ヲ言フ」ト呼フ者アリ)若シ又之ヲ知ラズシテ出サレタナラバ、洵ニ輕率千萬ナル案ト思フノデアリマス(「取消セ」)「議

長々々」ト呼ビ發言者多シ)今ノ演說ノ中デ——ト云フ言葉ハ假定デアリマスルケレドモ、不穩當デアリマスルカラ取消シマス(發言者多シ)

○副議長(小泉又次郎君) 取消ニナリマシタ

○清瀬一郎君(續) 言葉ハ執レニ致シマシテモ、此法案ガ此通りニ確定致シマスルト、我國ノ統治權ニ一指ヲ指ス所ノ犯罪ガ、區裁判所又ハ地方裁判所ニ管轄サル、ト云フ結果ヲ生ズル、政府ハ宜シク反省セラレテ、此案ニ對シテ再思三考サレ、此案ヲ審議ノ上次ノ議會ニ提出アラシコトヲ希望スルノデアリマス

○副議長(小泉又次郎君) 小川司法大臣(發言者多シ)

○副議長(小泉又次郎君) 靜肅ニ願ヒマス(國務大臣小川平吉君登壇)

○國務大臣(小川平吉君) 更ニ御答ヲ申上ダマス、只今再ビ御質問デゴザイマシタガ、國體ノ變革ヲ目的ト致シマシテ、是ガ豫備トシテ煽動若クハ結社ヲスルコトヲ罰スルノガ本案ノ目的デアリマス、是ガ實行セララル、ト云フ場合ハ、無論內亂ニ依ルヨリ外ニハ出來ナカラウト思フ、内亂罪ハ御承知ノ通り大審院デ審理スルノデアリマス、本法ニ規定スル所ノ事柄ハマダ其所マデ進マザル中ニ、事柄トシテハ結社、協議、若クハ文書ノ煽動ト云フコトデアリマスカラ、洵ニ豫備ノ初步デアリマスガ、之ヲ罰スルノデアアル、進ンデ行キマシタ場合ニ、皇室ニ對シテ云々ト云フヤウナ異多イ事ガ出テ參リマスレバ、無論ソレハ大審院ニ行クノデアアル、ソレヲ御混同ニナルカラシテ問違ガ生ズル、又清瀬君ハ區裁判區裁判ト云フ御質問ニナッタノデアアルガ、何所ニ區裁判所ニ行クト云フコトガアルカ、區裁判所ニハ參リマセヌ、重大ナ事件デアリマス

カラ地方裁判所デ審理スル、又只今皇室云云ト仰セニナリマシタガ、私ハ餘リ濫ニ皇室ヲ引合ニ出シテ御議論ニナルコトハ忠誠デナイト思フ

○副議長(小泉又次郎君) 菊池謙二郎君(田淵豐吉君「議長——議長私ハ先ニ保留シテ居ル」ト呼フ)

○副議長(小泉又次郎君) 菊池君ニ發言ヲ許シマシタ

○菊池謙二郎君(續) 諸君、私ハ此本案ノ大體ニ付キマシテ政府ト委員長ニ御尋ヲシタイノデアリマス、第一ニ國體ト云フコトニ付テ政府ニ御尋ヲシタイノデアリマスガ、若槻內務大臣ハ我國ノ國體ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス、是ガ即チ我國ノ國體デアアルト云フ御説明デアリマシタ、然ルニ是ハ勿論政治上ヨリシテ斯ノ如キ解釋ヲサレタコトト考ヘマスガ、吾々國民ガ國體ニ關スル觀念ト云フモノハ、憲法第一條ニ規定サレテ居ル事柄ト密接ノ關係ヲ有シ、且ツ廣イモノニ考ヘテ居ル、デ私ハ第一ニ今般政府委員ノ言フ所ニ依ルト、國體ト云フ文字ヲ始メテ法律ノ中ニ用ユルコトニナシタト云フコトデアアル、始メテ法律ニ國體ト云フ文字ヲ用ユル際ニハ、餘程慎重ナル注意ヲ要セネバナラスト思フノデアリマス、今回此法案ニ國體ト云フ文字ヲ憲法第一條ノ範圍內ニ止メテ、其意味ヲ以テ用ユルト云フコトニナルト、吾々ノ從來ノ國體觀念ト云フモノガ、自然ト狹クナルヤウニ取扱ハレルヤウニナリハシナイカト云フコトヲ、私ハ憂フルノデアリマス(心配無用)ト呼フ者アリ)是ガ第一ノ疑問デアアルガ、第二ニハ何故故ラニ國體ト云フ語ヲ用キナケレバナラヌカ、斯ノ如キ文字ヲ何故用キナケレバナラヌカト云フコトヲ質問スルノデアリマス、政府案ニハ「國體若ハ政體ヲ」トアル、二ツ

並ベデアリマス、修正案ニハ「政體ヲ」ト云フモノヲ削リテ國體ノミヲ存シテアル、之ニ就テ政府並ニ委員長ニ伺ヒタイ、我國ノ政體ハ申スマデモナク立憲君主政體デアアル、此立憲君主政體ハ何カラ出テ來テ居ルカ、謂フマデモナク憲法カラ出テ來テ居ル、其憲法カラ此政體ガ出テ來テ居ル、憲法ノ第一條ニ「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス」即チ若槻內相ノ所謂國體デアアル、私ハ憲法ニ依リテ立憲君主政體ト云フモノガ確立シテ居ル以上ハ、此憲法ノ中ニ政體、國體ト云フモノヲ區別スル必要ハ無イト思フノデアリマス、政體ノ中ノ所謂國體デアアル、所謂國體ト云フモノガ含マレテ居ル、國體ト政體ト云フモノト全然區別ハ何所デスル、區別スル必要ハ何所ニア

ル、之ヲ伺ヒタイ、ソレハ或ル博士ノ一家言トシテ、政治上ノ國體トシテハ憲法第一條ガソレデアアル、斯ウ云フ事ヲ十數年前ニ述ベテ居ル、其博士ノ一家言トシテ私ハ考ヘル、政體ト國體トノ區別ヲ憲法ニ依リテ何故ニ區別スルカ、區別スルコトハ出來ナイ(「ノウ」)憲法ニ於テハ、立憲君主政體ト云フ中ニ、即チ憲法第一條ノ意義ガ當然含マレテ居ル、萬世一系ノ君主デナケレバ、我國ヲ統治スルコトハ出來ナイ、ソレガ即チ立憲君主政體ノ眼目デアアル、此立憲君主政體ヲ外ニシテ憲法第一條ノ國體ト云フモノガ何所ニアアル(誰モアルトハ言ヒハシナイ)ト呼フ者アリ)アルカラ區別シテ居ルノデアリマセウ、是ガ第二ノ疑問デアアル、又假ニ若槻內相ノ言フ如ク國體トスル、吾々國民ノ感情トシマシテハ、憲法ニ既ニ皇室若クハ朝憲紊亂ニ對スル規定ガアル、吾々國民ノ感情ハ國體トカ皇室トカ云フモノヲ單獨ノ法律トシテ之ヲ規定シ、其中ニ皇室若クハ國體ヲ犯罪ノ對照若クハ目標トシテ記載サレルコトヲ好マヌノデアアル、斯ウ云

フ點カラ言ヒマシテモ、特別ノ法律ニ國體ト云フ文字ヲ故ラニ使フコトハ餘程注意シナケレバナラヌト私ハ考ヘル、政體ト云フ文字ヲ使フ其中心ニ天皇ノ統治權ト云フ事ガ明ニ含マレテ居ルノデアルカラ、故ラニ國體ト云フ文字ヲ用ユル必要ガ無イト思フ、殊ニ修正案ニ於テハ政體ト云フ文字ヲ創シ、國體ト云フ文字ヲ現ハシテ居ル、之ニ就テハ政府案ヨリモ尙更ニ私ハ疑ヲ懷ク者デアリマス、論理ノ上カラ見テ、法律ノ條文トシテ憲法ヲ規定スル以上ハ、ドウシテモ此政體ト國體ト云フモノヲ區別スルコトガ出來ナイト思フ、吾々ノ國體ノ觀念ト云フモノハ、憲法第一條ガ基本デアルクレドモ、他ノ倫理的、情操的ノ觀念ガアル、第三ニ伺ヒタイノハ私有財産制度ト云フコトガアリマスガ、此中ニハ帝室ノ財産ハ含蓄サレテ居ルカ否カト云フコトヲ承リタイ、是ハ諸君モ御存知ノ通り、獨リ日本ノ帝室ノミナラズ、外國ノ皇室ノ財産ニ付テモ近來吾々ハ論議ヲ開クノデアリマス、此論議ニ對シテ吾々ハ餘程注意ヲシナケレバナラヌト思フ、斯ウ云フ心配カラ私有財産ノ中ニドウモ私ハ含蓄サレテ居ラヌト思フノデアリマスガ、財産制度ノ根本ト云フ所カラ見テ、帝室ノ財産モ含マレテ居リハシイナカト云フ疑ヲ持テ居ル、全然ハ疑デアリマスガ、政府ハ如何ナル考フ之ニ對シテ御持チニナルノデアルカ、委員會ニ於テモ此疑問ハ會テ出ナイヤウニ考ヘテ居ル、第四ニ政府ハ外來思想ノ爲ニ無政府主義者、或ハ共產主義者ガ段々出來テ來ル、殊ニ露國トノ交際ガ恢復シタ以上、兩國ノ國民ガ往來スレバ無政府主義者、共產主義者ガ益々殖エテ來ルデアラウト云フヤウナ心配ヲ持テ居ラレル、或ハサウ云フ事ガナイトモ限ラヌノデアリマスケレド

モ、私ハ外來思想、或ハ露國ノ過激思想、サウ云フモノガ健全ナル國民ノ腦裡ニハ容易ニ這入ルベキモノデナイト思フ、樹木ガ朽チテ然ル後ニ蟲之ニ生ズ、國民ニ不平ノ無イモノハ少イ、必ズ人モ不平ガアル、サウシテ其不平タル原因ハ一デハナイケレドモ、大體生活上ヨリ來ル不平ト云フモノガ多カラウト思フ、國民ニ不平ヲ生ゼシメナイノハ即チ政治ニアル、政治ガ斯ノ如キ過激ナル思想ヲ豫防スル第一ノモノデアラネバナラヌ、殊ニ從來——今ノ内閣トハ言ハナイ、從來ノ政府ノ遣方ヲ見ルト、社會主義者、共產主義者ト云フヤウナ者ガ、若クハ其嫌疑者ガ一度「ブラツクリスト」ノ中ニ這入ルト云フト、斯ノ如キ者ニ對シテ官憲ハ如何ナル處置ヲ執ツタカ、之ニ向テハ日々夜々壓迫ヲ加ヘテ居ルヤウナ形跡ガアツタ、一度「ブラツクリスト」ニ、這入ルモノハ眼ヲ灰テ袖ヲ引イテ國民モ之ヲ視ル、官憲ノ如キハ殊ニ其生活ヲ脅迫スルヤウナ壓迫ヲ加ヘテ居ル實例ガ澤山アルノデアル、斯ノ如キコトヲ爲シテ彼等ヲ窮地ニ陷レシメテ、ドウシテ之ヲ善政ト云フコトガ出來ヤウカ、無政府主義者、共產主義者ヲ益々多カラシメ、或ハ又彼等ノ徒ヲ激發セシムルノデアアル簡單ナ例ヲ以テ言フナラバ、中國某ガ原總理大臣ヲ殺シタ、彼ノ考ハ誤テ居リマシタラウ、誤テ居リマシタラウガ、蓋シ國家ノ爲ニ殺スト云フ動機デアツタ、又甘粕某ガ大杉外二名ヲ殺シタ、是モ其考ハ誤テ居リマシタラウ、國家ノ爲メト云フコトデアアル、動機ハ同ジデアアル、其是非ハ今姑ク論ズル要ハナイ、然ルニ其結果ハドウデアアル、中國ハ無期徒刑、甘粕ハ懲役十年、斯ノ如キ差ノアルト云フコトハ、其間ニ種々ナ込入ラタ事情モアツタカモ知レヌケレドモ、非常ナ差ノアルト云フコト

ハ、私ハ決シテ是ハ公明正大ナル裁判ト云フコトハ出來ナイト思フ、是ハ彼等ノ社會主義者、若クハ無政府主義者ヲ非常ニ激發セシメタ一例デアアル、政治ト云フモノハ、最モ公明正大ニ行ハナケレバナラヌコトデアアル、是ハ眞ノ一例デアルクレドモ、其外隱レタル不公明ナ、不正大ナ政治ト云フモノガドレ位アルカモ分ラヌ、斯ノ如キコトヲ矯正シナイノデ、單ニ露國トノ交際、或ハ外來思想ガ國民ノ思想ヲ惡化スルト云フコトハ、ドウモ其誤テ居ルヤウニ私ハ考ヘル、昔ノ言葉ニ四海困窮スルバ天祿永ク亡ント云フコトガアル、政府ノ御方ハ此事ニ對シテ、十分ニ將來公明正大ナル政治ヲ行フト云フ考ガアルノニハ相違ナイト思フノデアリマスケレドモ、徒ニ外來思想ノ輸入、或ハ露西亞トノ交際ニ社會主義者、共產主義者ヲ出スコトニ罪ヲ著セルト云フコトハ、私ノ大ニ取ラヌ所デアリマスガ、斯ウ云フコトニ付テノ御考ヲ承リタイ、隨テ政治ガ公明ニナレバ、斯ノ如キ法律ト云フモノハ必要ガ無イコト、私ハ考ヘル、要スルニ此聖世ニ於テ、大正ノ今日ニ於テ、昔ノ砂上偶語ノ有様ヲ呈スルヤウニナルト云フコトハ、私ノ甚ダ取ラナイ所デアリマス、斯ウ云フコトニ對シテモ政府當局者ノ十分ナル御答辯ヲ戴キタイノデアリマス、之ヲ以テ終リトシマス

○副議長(小泉又次郎君) 小川司法大臣

(國務大臣小川平吉君登壇)

○國務大臣(小川平吉君) 菊池君ニ御答ヲ致シマス、菊池君ハ國體ト政體ト同ジデアアルカノ如キ御意見ヲ述ベラレタヤウデアリマス、是ハ私ハ初メ伺フ御意見デアリマス、國體ハ絕對ノモノデアリマス、憲法ガアツテ始メテ出來タモノデハナイ、即チ建國以來、我國ノ政治上カラ云フ所ノ國體

ナルモノハ、萬世一系ノ天皇大日本帝國ヲ統治スルト云フノガ國體デアリマス、是ハ絕對ノモノデアアル、政體ハ即チ、立憲君主政體モアリマセウ、又ハ君主專制ノ政體モゴザイマセウ、是ハ天皇ノ大權ノ働ク所ノ働キ方、即チ大權ノ行使ノ様式ガ違フ、大權其モノニ至ッテハ少シモ變ラナイノデアリマス、國體ヲ變革スルト申シマスノハ、即チ此天皇ノ大權ニ觸レルカラ國體ヲ變革スルト云フ、政體ニ至ッテハ或ハ代議制度モ一ツノ政體デアリマセウ、或ハ君主專制ノ政體モ一ツノ政體デアリマセウ、大權其モノニハ何等ノ變更ハナイ、唯、大權ノ働ク所ノ、即チ行使ノ様式ガ違フノデアリマス、之ヲ混同スルト云フコトハ、私ハ初メテ伺フタノデアリマスルガ、此以上ハ意見ノ相違ニナリマスカラ申上ゲマセヌ、ソレカラ其次ハ帝室ノ財産ニ付テハ此法律ニ這入ラヌカト云フ御問ノヤウニ伺ヒマシタガ、若シ誤解デアレバ又更ニ答辯ヲ致シマス、其通りノ御問デアレバ餘程不思議ナ御問デアルト思フ、一般國民ノ私有財産ヲ否認スルコトヲスラ罰スルノデアリマス、帝室ノ御所有ノ財産ニ對シテ所有權ヲ認メナイト云フコトハ——例外ヲ置クト云フヤウナコトハ想像モ出來ヌ話、所有權ハ帝室デゴザイマセウトモ、國民デアリマセウトモ、所有權ト云フコトハ同ジコト、私有財産ノ制度ハ同ジコトデアリマス、帝室ノ御所有ト云フコトモ所有其モノニ至ッテハ少シモ變リハナイト考ヘテ居リマス、ソレカラ最後ニ今日斯ノ如キ法律ヲ設ケル必要ガ無イデハナイカ、日本ノ國民ハ健全デアアル、斯様ナコトヲ基礎トシテノ御質問ト承知致シマシタ、菊池君モ既ニ御承知ノ通り、甚ダ遺憾ナ事デゴザイマスルガ、我國ニ於テモ無政府主義者ガ段々ト出テ參ッタ、最モ怖

ルベキ共產黨ナドト云フモノモ出テ參ッテ、
而モ眞ニ吾々ノ戰慄スベキ大逆無道ノ事件
難波大助、彼ハ共產黨ノ前衛トシテ急先鋒
トシテ、共產主義ノ爲ニ之ヲ決行スルト言ウ
テ居ルデアリマセヌカ、斯様ナ恐ルベキ
事實ガ目前ニ到來致シマシテモ、尙且ツ我
ガ國民ハ健全ナリト稱シテ、何等取締ノ必
要ガ無イト言ハレコトデアアルナラバ、是
ハ實ニ私ハ其樂觀ニ驚カザルヲ得ヌ、全然
政府トシテハ不同意デアルト云フコトヲ申
上デマス

○副議長(小泉又次郎君) 原惣兵衛君

〔原惣兵衛君登壇〕

○原惣兵衛君 簡單ニ一二私ノドウシテモ
御聽キ申シテ見タイト云フ點ヲ政府ニ御質
問致シテ見タイト思フデアリマス、此法
律案ハ國民ノ思想ヲ取締ル法案デアリマス
ルガ故ニ、私ハ「サウヂヤナイ」ト呼フ者
アリ。無論デス、思想ガ基礎デアリマス、
私ハ此法律案——思想ノ取締ト云フコトニ
對シテ三ツノ方法ガアル、即チ外部ノ行動
ニ現ハレテソレヲ取締ルノガ即チ此法案デ
アリマスルガ、ソレヨリモ前ニ内部の二思
想ヲ受入レタトキニ之ヲ如何ニ善導シ、如
何ニ之ヲ導クカト云フコトガ一ツノ方法
デアルト私ハ思フデアリマス、ソコデ此外
部ニ出マシタル私ハ法案其モノヲ基礎ニス
ルヨリモ、他ノ一ツノサウヂヤウナ國民
思想ヲ善導スルト云フ根本問題ニ對シテ、
政府ノ御當局ハ如何ナル御施設ヲ致シテ居
ラル、カト云フコトヲ承リタイノデアリマ
ス、サウシテ此頃殊ニ小川司法大臣ノ御言
葉ヲ委員會デ承リマシタリシマス、共產
主義ヤ或ハ無政府主義ト云フモノガ出來ル
ガ故ニ、ト仰セラレマシタ、併ナガラソレ
ハ外來ノ思潮デアッテ、外部のニ受入レテ
來タ問題デアリマスガ、ソレヨリモ根本ニ

我が國內ノ國民ノ生活狀態ガ、現實ノ國民
トシテノ生活ガ非常ニ困タ時ニ於テ、此
外來ノ思想ト結合シテ、國民ノ思想ガ惡化
スルト云フ一ツノ問題ヲ私等ハ考ヘナケレ
バナラヌト思フデアリマス、ソコデ此頃
ノ財政ノ整理、行政整理ニ件ヒマシテ、多
クノ失業問題ガ起テ來タノデアリマスガ、
斯ウ云フヤウナ問題ハ頃々トシテ起リマシ
テ、殊ニ此等都ニ於キマシテモ白晝強盜、
有ユル犯罪ガ起テ居ルト云フ狀態デアリ
マス、隨テ内務大臣ニ於カレマシテハ、斯
様ナル外來ノ思潮、有ユル思想ヲ受入レテ
來ル所ノ國民自身ノ失業、其他ノ斯ウ云フ
惡化シナイヤウナ施設ト云フコトガ、又此
法案ヲ出ス所ノ前ニ來ルベキ根本問題デア
ルト私ハ思フデアリマス(拍手)斯ウ云フ
施設ニ對シテ若槻總理大臣ハ如何ナル(笑
聲起ル)若槻内務大臣ハ如何ナル御考ヲ持
テ居ルノデアリマセウカト云フコトヲ御聽
キ申シタイノデアリマス、私等ハ此失業者
問題ト云フコトニ對シマシテ、最モ恐レル
ノハ筋肉労働者ノ有ユル思想ノ惡化ヲ恐レ
ルヨリモ、精神労働者ノ此生活ニ困テ居
ル者ガ、是ガ外部ヨリ來ル所ノ思想ヲ受入
レテ來テ、最モ惡化スルト云フコトガ私等
ハ恐ロシイノデアリマス(拍手)隨テ斯ウ云
フヤウナ失業問題ニ對シ、有ユル國民ノ思
想ヲ善導スルト云フヤウナ御施設ヲ何等待
タナイデ、單ニ其思想ガ外部ニ出タ人間ダ
ケヲ之ヲ罰シテ、而モ我ガ國內ノ總テノ思
想ガ安定スルモノダト思ウタラ大キナ間違
ヒダト私ハ思フデアリマス、ソレデアリ
マスルカラ殊ニ加藤總理大臣ニ於カレテハ、
國民ノ思想ト云フモノ、取締、思想ノ善導
ニ對シテハ何等總理大臣ノ施設ノ御方針中
ニモ見受ケ得ナイノデアリマス、殊ニ總理
大臣ハ該憲ニ派ト稱セラレタ當時ニ、清浦

ガ宗教的ニ、依ッテ思想ノ善導ヲスルト云
フコトハ洵ニ無能デアアル、斯様ナ腐敗シタ
ル宗教家ニ依ッテ現在ノ國民ヲ指導スルコ
トハ出來ナイト仰シヤリマシタガ、何等國
民ノ思想ヲ善導スル所ノ施設方針ヲ立テナ
イヨリモ、清浦サンノ方ガ私ハ餘程偉イト
思フノデアリマス(拍手)斯様ニ何等國民ノ
思想問題ニ對シテ根本的ニ直スト云フコト
ヲ考ヘナイデ、單ニ此法案ヲ出シテ、而モ
國民ヲ十分ニ此法律ノ——國法ノ力ニ依
テ之ヲ強壓シテ足レリト云フ御考ハ、根本
的ニ私ハ其點ニ於テ足ラナイ點ヲ甚ダ憾ミ
トスル次第デアリマス、其次ニ御伺シタイ
ノハ、小川司法大臣ニ御伺シタイ——今度
ハ間違ヒマセヌカラ(笑聲起ル)先ヅ本案ノ
適用ニ付テマアリマスルガ、屢、共產主義ヤ
無政府主義ヲ取締ル法案デアルト仰シヤリ
マシタガ、此條文ヲ見マシタナラバ、現下國
家ヲ前提トスル社會制度ノ否認、即チ私有
財産ノ否認ト云フコトガ法文ニ出テ居マスル
ガ、私有財産制度ノ否認ト云フコトハ、國家
ヲ前提トスル社會主義者モ亦其結論ニ於テ
私有財産制度ヲ否認スルト云フ結果ヲ惹起
スノデアリマス、隨テ現在ノ有ユル日本ニ
於ケル労働組合、其他ノ労働總同盟ト云フ
ヤウナ社會主義ノ前提トシテ、國家ヲ前提
トシテノ社會主義ノ此労働者ノ組合ガ、若
モ其社會主義ト云フ「ソシヤリズム」ノ學說
ヲ基礎ニシテ有ユル申合セラシタナラバ、
遂ニ此法案ニ引掛カルト云フコトニナルノ
デアリマス、隨テ國家社會主義ト云フモノ
ノ此労働組合ナドニ、若モ立法ノ精神ガ本
當ニ大ナル點ニ於テ取締ラナケレバナラヌ
ト云フ御考ガナクテ、若モ簡單ニ之ヲ取締
レバ宜イト此法文カラ適用シタナラバ、日
本ノ此労働組合其他ニモ非常ニ引掛ッテ來
ルト思フノデアリマスルガ、法ノ適用ノ範

圍ニ於テ如何ナル理想ト如何ナル刑罰法規
ノ目的ヲ御考ヘニナッテ、此法ヲ適用セン
トセラル、ノカ、是ガ所謂最モ危險ナル點
デアルト私ハ思フデアリマス、ドウゾ此
二點ニ付テ明快ナル御答辯ヲ願ヒタイノデ
アリマス、特ニ若槻サンニ於カレマシテハ、
此現在ノ失業者ニ對スル施設、竝ニ國民思
想ヲ如何ニ善導スルカト云フ、先ヅ根本ノ
問題ニ付テドウ云フ御考ガアルカ、是ハ到
底加藤總理大臣ガ御答ニナルカガ無イト私
ハ思ヒマス(巫山戯ルナ)ト呼フ者アリ)ソ
レデ若槻内務大臣ニ御答辯ヲ求メマス

○副議長(小泉又次郎君) 若槻内務大臣

〔國務大臣若槻禮次郎君登壇〕

○國務大臣(若槻禮次郎君) 思想ノ善導ニ
付テ御尋デアリマシタ、思想ノ善導ハ教育
ノ力ニモ俟タナケレバナリマセヌ、宗教ノ
力ニモ俟タナケレバナリマセヌ、同時ニ政
治上ノ施設ニモ俟タナケレバナリマセヌ、
總テ各方面ノ協力ニ依ッテ思想ノ善導ハ出
來得ルコト、思ウテ居ルノデアリマス、而
シテ政府ノ施設ハ何ト云フ、テモ政治上ニ於
テ、不正ナル政治ガ行ハレテ居リマスコ
トニ於テハ、思想ハ健全ニ至リマセヌ、故
ニ現内閣ハ成立以來第一ニ綱紀ヲ肅正スル
コトニ努メタノデアリマス(拍手)而シテソ
レノミナラズ財政ガ今日ノヤウナ不況ナ狀
態、又財政ガ行詰テ居ル狀態ガ其儘水ク
繼續シマスト云フ、矢張各人ノ生活ニ影
響ヲ及ボス、生活ニ影響ヲ及ボセバ決シテ
思想ノ上ニモ良イ影響ガナイノデアリマス
カラ、政府ハ財政行政ノ整理ニ努メテ左様
ナ狀態ノ改善ニ努メテ居ルノデアリマス、
行政財政ノ整理ニ伴ッテ失業ガ生ジタ、
是ハ却テ思想ヲ險惡ニスル事デハナイカ、
全般ノ財界ノ恢復ヲ圖ル爲ニ行政財政ノ整
理ノ必要ガアリマス以上ハ、行政財政ノ整

理ヲスルコトハ已ムヲ得マセヌ、而シテ是ガ爲ニ職ヲ失フ者ニ對シテハ、政府ハ相當ナル資金ノ給與ヲ致シテ、一時職ヲ得ルマデノ間ハ生活ニ困ラナイダケノ仕組ハ立テテアルノデアリマス、其他現内閣ノ豫算ニ現ハレタ各種ノ施設ヲ御覽ニナレバ、大體現内閣ガ思想ノ善導ノ上ニ如何ナル事ヲ施設シテ居ルカト云フコトガ御分リニナラウト思ヒマス、帝都ノ真中ニ強盜ガ出タカラ非常ニ警察ノ取締ガ立タヌデ居ルト云フヤウナ仰セガアリマシタ、帝都ノ中ニ強盜強盜ノアリマスコトハ洵ニ宜クナイコトデ、是ハ十分ナル取締ヲ立テナケレバナラズ、立テツ、アルノデアリマス、併シ如何ナル時代ニ於テモ刑事ノ罪人ガ無イト云フ譯ニハ參リマセヌ、ソレ故ニ政府ハ十分是ガ取締ニ力ヲ入レテ、只今御心配ニナツタヤウナ事ノナイヤウニ努メル積リデアリマス

ニ對スル施設ノ根本ニ對シテ何モ御答辯ガアリマセヌガ、如何ナルモノデアルカ、ソレカラ小川司法大臣モ亦之ニ對シテ御答辯ヲ無論願ヒタイノデアリマス、ソレカラ今承リマス、綱紀肅正其他ト仰シヤリマシタガ、綱紀肅正ハ六月二十四日ノ官報デ加藤總理大臣ガ訓示ヲ發シテ居ラレマス、是ガ恐ラク國民思想ニ對スル一ツノ根本ノ規矩ダト思召シテ居ラレコト、思ヒマスガ、其綱紀肅正ト云フ其訓示ヲ見マシタナラバ、六月二十四日ノ官報デアリマスカラ明デアリマスガ、其内容ハ根本ノ國民思想ノ流レニ對シテ如何ニ爲スカト云フ大ナル一ツノ抽象的理想ノ、確言ノ御言葉ガ何モ出テ居ナイデ、唯、單ニ朝早く出テ來イトカ、或ハ親類デアルトカ、故舊ノ者ニ對シテ、依怙顯肩ヲシテハイケナイト云フヤウナコトデ、マルキリ巡查ヲ集メテ署長ガ訓示ヲスル如キモノデアリマス(拍手)恐ラク歴代ノ總理大臣中綱紀肅正ノ訓示ナリト言ッテ、此位實ニ低級ナル御訓示ヲ私ハ見タコトハナイノデアリマス

ラ正シクスルコトニ心懸ケルト共ニ、部下ヲ戒飭シテ今日デハ何カ原君ノ御氣ニ入ラヌヤウナ、何等カノ不正ナ事ガアルノデアリマス十分ニ綱紀ノ肅正ニハ努メテ居ルノデアリマス、失業者ニ對シマシテハ、是ハ御承知ノ通り失業者ハ季節ニ依ッテ生ズル失業者、又周期的ニ來ル所ノ失業者、是ハ經濟上ノ今日ノヤウナ大量生産ヲシテ居リマス時ニハ、失業者ノ周期的ニ來ルコトハ免レマセヌ況ヤ戰時中好景氣デアッテ非常ニ事業ガ勃興シタ、其反動ノ後ニ於テ經濟界ノ不況ノ場合ニ失業者ノ生ジマシタコトハ、洵ニ遺憾千萬デアリマスガ、同時ニ已ムヲ得ナイ事實デアリマス、之ヲ匡濟スルノハ財界ノ恢復ヲ速ナラシメテ、彼等ヲシテ職ヲ得セシメル事ニ努メルノガ第一デアリマス、ソレガ現内閣成立以來財界ノ恢復ニ努メル爲ニ諸種ノ經濟政策ヲ行フタ所以デアリマス、若夫一時期季節ニ依ッテ生ジタル失業者ノ困テ居ル者ニ對シテハ、先回モ此席上ニ於テモ私申上ゲマシタガ、年末カラ年初ニ掛ケテ市内ノ自由労働者ノ失業者ニ對シテ、成ベク之ニ職ヲ得セシメルガ爲ニ市ニ於テ行フベキ事業ヲ促進シ、政府ニ於テ行フベキ仕事ヲ成ベクヤッテ、職ヲ得セシメルト云フコトニ努メタノデアリマス、而シテ尙ホ衣食ニ窮スル自由労働者ニ對シテハ一時若干ノ食事場、竝ニ宿泊場ノ便宜ヲ與ヘル方法ヲ講ジタノデアリマス、大體是ガ失業者ニ對スル是マデ努メテ來ッタ所デアアルノデアリマス

質疑ハ終了致シマシタ、是ヨリ討論ニ移リマス、湯淺凡平君

(湯淺凡平君登壇)

○湯淺凡平君 我ハ與黨ノ一人トシテ政府提出ノ本案ニ對シテ反對ノ意見ヲ述ブルノ已ムナキヲ甚ダ遺憾トスル者デアリマス、吾々ノ反對ノ意見ニ付キマシテ、昨日ノ本案ノ委員會ニ於キマシテ、同僚清瀬一郎君ヨリ或ハ之ヲ法律の、或ハ之ヲ學術の、極メテ詳細ニ論議ヲ致シ、其議論ノ大體ハ今朝ノ新聞紙ニ依ッテ傳ヘラレ、尙ホ其内容ハ委員會ノ速記錄ニ掲載シテアル次第デアリマスルガ故ニ、私ハ茲ニ今日現ニ吾々ガ見ル所、若クハ近キ將來ニ於テ吾々ガ見ルコトヲ確實ニ豫想スベキ事實ノ上ニ立脚ヲ致シマシテ、大體ヨリ本案反對ノ意見ヲ述ベサセテ貰ヒタイ積リデアリマス、諸君、吾々ハ衆議院ノ面目ヲ保ツガ爲ニ此案ニ反對ヲ致サナケレバナリマセヌ、諸君ノ御承知ノ通り第四十五議會ニ於キマシテハ、過激社會運動取締法案ナル名ノ下ニ殆ド本案ト其趣旨目的及思想ニ於テ全ク同一デアアル所ノ法案ガ提出致サレマシタ、而シテ此法案ノ提出ザレルニ當ッテ、國論ハ囂囂トシテ之ニ反對ヲ唱ヘ、其結果カ、アラヌカ、貴族院ニ於キマシテハ大斧鉞ヲ加ヘラレ、刑ノ適用ノ範圍ニ於キマシテモ著シク制限ヲ被リ、又刑期ノ上ニ於キマシテモ大ナル所ノ減縮ヲ行ハレタ、而シテ之ヲ我が衆議院ニ送付サレタ時ニ、我が衆議院ハ果シテ之ヲ如何ニ取扱ヒマシタカ、殆ド一顧ダモ與ヘズシテ之ヲ葬リ去ッタノデアアル、即チ此過激法案ナルモノハ、貴族院ニ於テ大修正ヲ加ヘラレタケレドモ、衆議院ニ於テ消滅ヲ致シタル所ノ案件デアリマス、衆議院ガ過激法案ヲ葬リ去リマシタル所ノ理由ハ、本案ニ於テ屢、繰返サレルガ如キ

○副議長(小泉又次郎君) 井本常作君

○井本常作君 本案ニ關シテ政府及委員長ニ對スル質疑ハ此程度ニ止メラレンコトヲ望ミマス

○副議長(小泉又次郎君) 若槻內務大臣

(國務大臣若槻禮次郎君登壇)

○國務大臣(若槻禮次郎君) 原君ヨリ綱紀肅正ト失業ノコトニ對シ再質問ガアリマシタ、現内閣ハ人ヲ正サントスレバ先ヅ自ラ正サナケレバナラヌト云フコトヲ心懸ケテ居ルノデアリマス(拍手)現内閣成立以來ニ於テハ、閣員ヲ首メ、總テノ者ガ政務ノ上ニ於テハ、總テ公正公平ニ政治ヲスルコトニ努メテ居ルノデアリマス、若シ之ニ違フコトガアリマスナラバ、原君ハ茲ニ指摘シテ何デモ御指摘ナサッテモ宜イノデアアル(發言スル者多シ)

○副議長(小泉又次郎君) 靜肅ニ願ヒマス

○國務大臣(若槻禮次郎君)(續) 而シテ自

○副議長(小泉又次郎君) 起立多數、仍テ

○原惣兵衛君 議長

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ハ暫時保留ヲ願ヒマス、原君何デスカ

○原惣兵衛君 一才マダモウ一遍……

○副議長(小泉又次郎君) 極メテ簡單ナラバ議席デ願ヒマス

○原惣兵衛君 自席カラ一寸簡單デスカラ——司法大臣ニ御伺致シマスガ(無用無用)ト呼ヒ發言スル者多シ

○副議長(小泉又次郎君) 原君ニ發言ヲ許シマシタ

○原惣兵衛君 議長

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ハ暫時保留ヲ願ヒマス、原君何デスカ

○原惣兵衛君 議長

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ハ暫時保留ヲ願ヒマス、原君何デスカ

○原惣兵衛君 一才マダモウ一遍……

○副議長(小泉又次郎君) 極メテ簡單ナラバ議席デ願ヒマス

○原惣兵衛君 自席カラ一寸簡單デスカラ——司法大臣ニ御伺致シマスガ(無用無用)ト呼ヒ發言スル者多シ

○副議長(小泉又次郎君) 原君ニ發言ヲ許シマシタ

○原惣兵衛君 議長

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ハ暫時保留ヲ願ヒマス、原君何デスカ

○原惣兵衛君 議長

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ハ暫時保留ヲ願ヒマス、原君何デスカ

○原惣兵衛君 一才マダモウ一遍……

○副議長(小泉又次郎君) 極メテ簡單ナラバ議席デ願ヒマス

○原惣兵衛君 自席カラ一寸簡單デスカラ——司法大臣ニ御伺致シマスガ(無用無用)ト呼ヒ發言スル者多シ

○副議長(小泉又次郎君) 原君ニ發言ヲ許シマシタ

○原惣兵衛君 議長

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ハ暫時保留ヲ願ヒマス、原君何デスカ

○原惣兵衛君 議長

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ハ暫時保留ヲ願ヒマス、原君何デスカ

○原惣兵衛君 一才マダモウ一遍……

○副議長(小泉又次郎君) 極メテ簡單ナラバ議席デ願ヒマス

○原惣兵衛君 自席カラ一寸簡單デスカラ——司法大臣ニ御伺致シマスガ(無用無用)ト呼ヒ發言スル者多シ

○副議長(小泉又次郎君) 原君ニ發言ヲ許シマシタ

○原惣兵衛君 議長

○副議長(小泉又次郎君) 井本君ノ動議ハ暫時保留ヲ願ヒマス、原君何デスカ

本案ノ内容ニ關スル枝葉末節ノ議論デハナ
イノデアリマス、要スルニ我國ノ社會ノ現
實ニ對シテ、斯ノ如キ法案ヲ制定スルノ必
要ヲ認メズ、既ニ必要ヲ認メザル所ノ法
案、此法案ガ公布サレタ曉ニ於キマシテハ、
其結果ハ我國ノ言論ハ著シキ壓迫ヲ被リ、
我國ノ無産階級ノ活動ハ殆ド根柢ヨリ阻止
サル、ト云フコトヲ恐レテ、此法案ニハ反
對ヲ致シタノデアアル、而モ此事實ヲ以テ當
時ノ國論ハ國論ノ勝利ナリトシテ、一大痛
快事ナリト喜シタルコトハ、諸君ノ記憶ニ
尙ホ新ナル所デアリマセウ、然ルニ此過激
法案ト此法案トヲ對照致シマシテ、政府ト
説明スル所ヲ承リマスレバ、同ジモノデナ
イト云フ、成程用ヒラレテ居ル所ノ用語ハ異
テ居ル、併ナガラ其目的トスル所、其趣旨
トスル所、其思想、是等ノ點ニ至リマシテハ
全ク一貫シテ變ル所ハ無イノデアリマス、
諸君、過激法案ニハ或ハ朝憲案亂ノ文字
アリ、或ハ社會ノ根本組織云々ノ文字ア
リ、甚ダ明確ヲ缺タ所ノ文字アリト雖モ、
而モ朝憲案亂ノ文字ノ如キハ久シク我國ノ
法律上ノ用語トナリ、之ニ對シテハ大審院
ノ判決例モアリマシタ、稍、其字義ハ明確
ニナツテ居ルノデアアル、然ルニ之ニ對シテ
本案ニ謂フ所ノ國體、政體、或ハ私有財產
制度ト云フガ如キモノハ、同ジク曖昧ニシ
テ全ク茫漠タル所ノ文字デアアルト云フコト
ハ、既ニ委員會ニ於キマシテ、又本會議ニ
於キマシテ、質問應答ノ間ニ於テ吾々ハ窺
フコトガ出來ルノデアアル、既ニ此文字ノ字
義ニ關シテ政府ノ答辯スル所、動モスレバ
或ハ矛盾シ、或ハ撞著ヲシ、其結果訂正ヲ
爲シ、取消ヲ爲サレタル所ノ例ハ、一二ニ
シテ足ラヌノデアリマス、殊ニ此法案ガ最
後ニ至リテ非常ニ大ナル修正ヲ蒙リテ居ル、
本案ハ申スマデモナク三ツノ要點ヨリ

成立ッテ居ル、即チ國體、政體、私有
財產ノ制度デアアル、此三ツノモノヲ併
セテ取締ルニ非ザレバ——若シ取締ノ
必要アリトスルナラバ、此三者ヲ併セテ共
ニ取締ルニ非ザレバ、完全ナモノハナラナ
イノデアアル、然ルニ其中ノ極メテ重要ナル
一點ガ骨格ノ修正ヲ加ヘラレ、之ニ對シ
テ政府ハ唯々諾々トシテ屈從シナケレバナ
ラヌト云フガ如キ破目ニ陥リマシタルコト
ハ、即チ其事實如何ニ本法案ノ文字ガ不明
瞭デアアルカト云フコトヲ物語ッテ居ルモ
デアリマス、又若シ違フ所ガアル——何所
ニ違フ所ガアルカト云フコトヲ強テ釋ネ
テ見タナラバ、即チ本案ハ其憲法タル所ノ
性質及色彩ニ於テハ、會テ吾々ガ葬リ去
タル所ノ過激社會運動取締法案ヨリモ、更ニ
一層濃厚ナルモノデアアルト云フコトヨリ
外、違フテ居ル所ハナイノデアリマス、諸
君、過激法案ハ諸君御承知デモアリマセウ、
貴族院ニ於テ修正サレ衆議院ニ廻付サレタ
ル所ノ此過激法案ハ、刑ノ適用ノ範圍ハ極
メテ限局サレテ居ル、即チ外國人ト連絡ヲ
スルカ、若クハ外國ニ在ル者ト連絡シタル
所ノ犯罪ノミヲ取締ルト云フコトニナツ
テ居ルノデアリマス、而シテ刑期ニ於キマシ
テモ、最長三年トナツテ居ルノデアアル、然ル
ニ本案ハ此適用ノ範圍ハ全ク無制限デア
リ、且ツ刑期ニ於テハ是ガ十年トナツテ居
ルノデス、ソレバカリデナイ、過激法案ハ
所謂暴行、脅迫、若クハ不法ノ手段ニ依ル
所ノ行為ヲ罰シテ居ルガ、本案ハソレ等ノ
制限ナク、總テノ行為ガ罰セラル、ト云フコ
トニナツテ居ル、内容ヲ比較シテ見マスレ
バ、若シ違フト云フナラバ、過激法案ヨリ
ハ本案ノ方ガ遙ニ苛酷デアアル、辛辣デア
ルト云フコトハ言ハル、ノデアアル、斯ノ如ク
ヨク緩和シタル所ノ過激法案スラモ、衆議

院ガ既ニ葬リ去ッテ居ル以上ハ、議院ノ體
面、議院ノ權威ノ上カラ申シマシテモ、今
更本案ヲ通過セシムルト云フコトハ、斷ジ
テ出來ナイコト、私ハ確信ヲ致シマス、殊
ニ又此過激法案ノ制定セラレタル所ノ時代
ハ如何、當時歐洲戰爭ノ直後、世界ノ人類
ノ人心思想ハ餘程混亂ヲ致シマシタ、即チ
無産階級ノ自覺擡頭ニ依リテ種々ナル新シ
キ運動ガ、起リ、新シキ思想ガ宣傳サレマ
シタル其餘波ヲ受ケテ、我國國民ノ思想、
殊ニ無産階級ノ思想ノ上ニハ餘程大ナル刺
戟ヲ與ヘタノデアリマス、中ニハ或ハ動モ
スレバ急激ニ失スル所ノ思想ヲ宣傳致シ、
或ハ不穩當ナル所ノ行動ヲ企テルニ非ズヤ
ト憂ヘザルヲ得ナイヤウナ事實モアツタノ
デアリマス、此時ニ際シテ時ノ當局者ハ果
シテ如何ナル人デアアル、吾々ヨリハ思想ニ
於テ其根本ヲ昇ニシテ居ル所ノ其人ガ局ニ
當ッテ居ラレ、此當局者ガ其時代ニ於テ過
激法案ヲ提出スルト云フコトハ、吾々カラ
以ッテ見マスレバ、聊カ水禽ノ羽音ニ狼狽シ
タル嫌アリト雖モ、其當時ノ事情、其當局
者ノ所謂心理狀態カラ考ヘテ見マスレバ、
多少之ヲ諒トスルノ餘地ハアルノデアアル、
然ルニ今日ハ如何、國民ノ政治的能力ノ發
達ヲ認メ、普通選舉ノ斷行ヲ敢テスル其議
憲內閣デアリナガラ、却テ三年ノ後ノ今日、
而モ時代ハ如何デアアルカト云ヘバ、赤化ノ
本案本元デアアル所ノ露國ノ事情モ餘程變化
シテ參リマシタ、而シテ内ニ於テハ之ニ從
テ我國ノ勞働階級、若クハ無産階級ノ思想
モ大ニ緩和致シテ居ルノデアアル、何レモ右
傾ノ方向ニ向ッテ進ミツ、アル、此際ニ此內
閣ガ過激法案ヨリモヨリ深刻ナル所ノ、ヨ
リ廣汎ナル所ノ、ヨリ時代後レノ此法案ヲ
提案スルスト云フコトハ、何ト致シテモ吾
吾ノ解スルニ苦ム所デアリマス、全體本案

ノ目的ハ私ノ見ル所ヲ以テスレバ、悉クハ
是レ現狀維持ヲ目的ト致シテ居ル、現狀ヲ
維持スルコトハ或ル一派ノ保守ノ思想カ、
然ラザレバ官僚或ハ資本家ハ之ヲ歡迎スル
ノデアリマセウ、併ナガラ我國ノ如キ物質
的ニ於キマシテモ、精神のニ於キマシテモ、
先進國ニ對シテ遜色アル所ノ此我國ノ現狀
ハ、果シテ之ヲ維持シナケレバナラヌモノ
デアリマセウカ否カ、吾々ハ此行詰タル所
ノ現狀ハ政治社會ト云ハズ、經濟社會ト云
ハズ、思想ノ上ト云ハズ、文化ノ上ト云ハ
ズ、一日モ速ニ打破致シテ、新シキ局面ニ
向ッテ展開シナケレバナラヌト云フコトハ
言フマデモナイノデアリマス(拍手)然ルニ
唯、徒ニ現狀ヲ維持スルコトニ汲々ト致シ
マシテ、國民ノ思想、國民ノ活動ノ上ニ向
テ現狀ヲ強ントスルガ如キハ、其結果ハ私
ハ恐ル——或ハ遂ニ亡國ノ端ヲ誘發スルモ
ノデハナイカト云フコトヲ、衷心ヨリ恐レ
ル者デアリマス(拍手)諸君、本案ハ普通選
舉ノ——普通選舉ノ目的ヲ達成スル上ニ於
テ甚シク矛盾ガアルト私ハ思フノデアアル、
普通選舉ノ目的及其效用ハ、吾々ガ申マス
デモナク有ユル階級ヲ開放致シテ、其自由
ヲ確保スルニ在ルノデアアル、然ルニ一方ニ
於テ此自由ヲ認メナガラ、他方ニ於テ此自
由ヲ制限スルコトニ相成ルノミナラズ、現
ニ吾々ハ普通選舉ノ行ハレタル後ノ事實ニ
想到致シマスレバ、必然のニ吾々ガ豫期シ
ナケレバナラヌ所ノモノハ無産階級ノ擡頭
デアアル、此無産階級即チ此無産政黨ノ起ル
ト云フコトハ必然ノ勢デアッテ、止メント欲
シテ止メルコトガ出來ナイノミナラズ、吾
吾ハ寧ろ是等ノ國民ノ多數ヲ占ムル所ノ階
級ノ政黨ヲ組織スルト云フコトハ、歡迎ヲ
爲サネバナラヌコト、思フノデアリマス、
而シテ事實ノ上カラ申シマスレバ、是等ノ

政體ハ果シテ其政綱トシテ何モノヲ標榜スルデアリマセウカ、必ズヤ彼等ハ多年ノ間虐政ヲ行ハシテ資本主義ニ向テ、彼等ノ生活ヲ改善スルコトニ向テ進ムコトハ火ヲ賭ルヨリモ明デアリマス(拍手)即チ是等ノ大目的ヲ達スルガ爲ニ、今日最モ世間ニ認メラレテ居ル所ノ私有財産制度ヲ否認スルト云フコトハ、彼等ノ唯一ノ「モットー」トシテ掲ゲラレモ、ニ相違ナイノデアリマス(拍手)私ハ必シモ現狀ニ於テ我國ノ私有財産ヲ根柢ヨリ否認スルコトヲ是認致ス者デアリマセウ、併ナガラ之ヲ理想カラ考ヘテ見マスルト、之ヲ今日ノ趨勢カラ考ヘテ見マスルナラバ、或人ノ言葉ノ如ク、今日ノ人類ノ生活ハ個人生活ヨリ團體生活ニマデ進ミツ、アルト云フ傾向ガアル、此傾向ガ進ンデ参リマスレバ、結局ハ私ハ此私有財産ト云フガ如キ制度ハ、此場合ニ於テハ存在ヲ失フモノデハナカラウカト思フ、又天下ハ所謂天下ノ天下ナリ、理想カラ申セバ此世ノ中ノ總テノ富、總テノ財産ト云フモノハ必シモ個人ノ所有デナケラネバナラス、私有財産制度デナケラネバナナリト云フコトハ申サレナイ、若モ國民ノ知識、國民ノ道德、國民ノ體力、是ガ均一ニナルト云フ程度マデ文化ガ發達シマシタル時ニ於テハ、私有財産制度ノ如キモノハ、固ヨリ認ムベキモノデハナイト私ハ確信シテ居ルノデアリマス、是ガ即チ人類ノ進歩デアリ、是ガ即チ社會ノ向上デアアル、然ラバ此理想ニ向テハ吾々ハ今日只今之ヲ實現スルコトヲ希ハズトモ、理想ニ向テハ吾々ハ一歩々々其歩ヲ進メテ行カナケレバナナリ、此重大ナル所ノ政綱ヲ掲ゲタル政黨ガ、果シテドウナルデアリマセウ、恐ラクハ此法案實施ノ爲メ非常ナル所ノ壓迫ヲ受ケ、非常ナ

ル所ノ危險ニ遭遇シサナケレバナラス、併ナガラ是ハ私ノ杞憂デアルト言フ人ガアルカモ知レス、政府ノ説明スル所ニ依リマシテモ、サウ云フ點ニ於テ決シテ取締ヲ爲スノデハナイ、併ナガラ政府デ左様ニ言明サレマシテモ、内務大臣ヤ司法大臣ガ如何ニ辯明ヲ致サレマシテモ、實際問題トシテ之ヲ考ヘテ見マスレバ、果シテ今日ノ警察官、今日ノ裁判官ガ、果シテ政府ノ理想トシテ居ラレル通りニ、此法律ノ運用ヲ爲スデアラウカ否カト云フコトニ付テハ、甚ダ吾々ハ疑ヲ懷カザルヲ得ナイノデアリマス、本案デハナイ、本案ノ外ニ極メテ明瞭ナル所ノ法文ヲ有シテ居ル所ノ法律ガアリマス、而モ其明瞭ナル法律ノ適用デモ、實際今日如何ニ行ハレテ居リマスカ、吾々ハ昨日マデハ普通選舉ノ問題ニ對シテハ非常ナル運動ヲ致シタ、此普通選舉ノ問題ハ考ヘテ見マスルト一部分ハ吾々ヲ取締ル、即チ此普通選舉ノ問題ニ付テ運動ヲ爲ス者ヲ取締ル所ノ警察官彼等自身ノ爲ニモ、吾々ハ運動シテ居ルノデアアル、然ルニ拘ラズ此多數ノ警察官、殊ニ輩殺ノ下ニ於ケル所ノ警察官ガ、吾々ノ運動ヲ取締ル上ニ於テ、如何ニ只今ノ治安警察法ノ濫用ヲ致シテ居ルカト云フ事實ヲ諸君ハ御開却ハ爲サレナイデアリマセウ(拍手)殆ド人類トシテノ取扱ハ致シテ居ラス、極端ナル言葉ヲ以テ申シマスレバ、恰モ餓タル獅子ガ群羊ヲ驅ルガ如ク實ニ、非人道極マル所ノ待遇ヲ吾々ノ同胞、吾々ノ同志ニ向テ加ヘテ居ル、吾々ハ此事實ヲ只今想ヒ浮ベテモ、實ニ悲憤ノ涙ニ咽バザルヲ得ナイノデアリマス、又是ヨリモ更ニ甚シキハ彼ノ勞働運動、無産階級ノ運動ニ對スル所ノ今日ノ取締ノ實際ハ如何デアリマス、實ニ恐ルベキ暴狀ヲ呈シテ居ルデハアリマセウカ、併ナガラ是ハ決シテ政

府ノ趣旨デハナイ、政府ノ趣旨ニ非ズトモ、實際今日局ニ當テ國民ト接觸シテ、總テノ法律ノ適用ヲ爲シ、取締ヲ爲ス所ノ官吏ハ斯ノ如キ者デアアル、或ハ説ヲ爲ス者アリ、左様ニ官憲ノ信用ヲ疑フナラバ、總テノ立法ハ悉ク之ヲ躊躇セネバナラヌト言フ人ガアル、私ハ是モ一ツノ眞理アル言葉ト思ヒマスガ、併ナガラ一面カラ見マスレバ官吏ヲ總テ信用シ、官吏ノ爲スコトヲ悉ク信任ヲ致シマス上ニ於テ、吾々ハ殆ド官憲萬能ノ渦中ニ投ゼラレテ、官憲ノ自由ニ蹂躪ヲサレルト云フヤウナ弊害ニ陷ル、是ガ即チ官憲萬能ノ專制ノ思想デアリマス、官僚思想、專制政治ノ思想ガ、由來國民不平ノ種トナツテ、遂ニ革命ノ端緒トナタト云フコトハ歴史ノ上ニ明デアリマス、私ハ今日ノ官吏ガソレ程ニ横暴デアリ、ソレ程ニ非常識デアルトハ考ヘマセウケレドモ、現ニ今日ニ於テ吾々ガ實際目撃スル所、又吾々ノ體驗スル所ニ依リマシテ、今日ノ官吏ニ向テ、ソレ程全幅ノ信用ヲ拂フコトガ出來ナイノデアアルノミナラス、本案ノ如キ明確ナラザル、即チ政府委員ノ間ニ於テモ意見ガ區々デアルト云フガ如キ法律ガ實施サレマシタ、其結果ハ如何デアルカ、恐クハ必然的ニ起ル所ノ無産政黨ノ如キモノハ羽翼成ラザルニ當テ彼等ハ悉ク鎮壓サレナケレバナラヌト云フヤウナ悲ムベキ運命ニ陷ルデアリマセウ、(ノウ)若シ又此法案ガソレヲ豫期シテ、サウ云フ運動ヲ防遏スルト云フコトデアラナラバ即チ止ム、苟モ普通選舉ヲ實行致シテ、國民ニ成タケ意思ノ自由ヲ伸張セシメヤウト云フ政府ノ趣意デアラナラバ、此法案ノ如キモノハ全ク其趣意ヲ滅却シタル所ノモノデアアル、此點カラ考ヘマスレバ、政府ハ折角多年ノ懸案タル所ノ普通選舉ノ問題ヲ解決致

シテ居ルト言ヒナガラ、一面ニ於テハ其效果ヲ滅却シ、其目的ヲ阻止スル所ノ法案ヲ提出シタリト云フ譏ヲ免レルコトハ出來ナイト思フノデアリマス、諸君、吾々ハ此重大ナル時ニ當リマシテ、更ニ又本案ニ付テ考ヘナケレバナラヌコトハ、此法案ガ其第一條ニ於テ既ニ私共ハ非常ナ不滿ヲ懷イテ居ル者デアアル、即チ國體——國體ノ變革、是ハ絕對ノモノデアリマス、國體ハ絕對ノモノデアルガ、私有財産制度ハ必シモ絕對ノモノデハナイノデアリマス、既ニ絕對ノモノト絕對ニアラザルモノトガ茲ニ並ベテアルノデアアル、而モ其取扱ヲ混同シ、其刑期ニ至ルマデ全ク之ヲ同一ニシテ居ルト云フコトハ、吾々ガ國民の信念ト致シテ居ル所ノ國體ノ觀念ヲ無視スルノ甚シキモノデアルト思フノデアリマス(拍手)此點ニ對シテハ政友本黨ノ諸君ヨリ相當ナル所ノ修正ノ意見ヲ提出サレタルコトハ、吾々ハ敬意ヲ以テ之ヲ迎ヘナケレバナリマセウ、更ニ又私ハ此第六條ニ於テモ同様ノ不滿ヲ免ル、コトハ出來マセウ、即チ此第六條ニ於キマシテ「前五條ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ輕減又ハ免除ス」トアル、私有財産ヤ或ハ政體ニ付テ罪ヲ犯ス場合ニ於キマシテハ、其間ニハ或ハ多少ノ情狀ヲ酌量スル餘地ガアリマセウ、併ナガラ絕對無限ノ國體ヲ否認スル所ノ犯罪ニ對シテ、自首シタル者ハ之ヲ輕減シ、或ハ免除スルト云フコトハ、私ハ甚ダ我ガ國民ノ信念、國民ノ觀念ノ上ニ大ナル缺陷ノアルモノト、之ヲ不滿ニ思ハザルヲ得ナイノデアリマス、諸君、吾々ハ大體斯ノ如キ理由ニ依リマシテ本案ニ反對ヲ致ス、併ナガラ今日ノ形勢ヲ以テ之ヲ見マスレバ、或ハ吾々ノ反對ハ本院ニ於テ少數ヲ以テ否決サレルカモ知レナイ、ケレドモ私ハ此壇上ヲ通シテ

玆ニ申シテ置キタイ、假令院內ニ於テ今日此案ガ破レマシテモ、普通選舉ノ愈斷行サレタ曉ニ於テハ、諸君ガ自ラ進シテ此法案ノ廢止ヲ提案ナサレバナラヌ所ノ時機ノ來ルコトハ、左程遠クナイト云フコトヲ私ハ斷言致シマス(拍手)以上ノ理由ニ依テ私ハ本案ニ反對ノ意ヲ表スルモノデアリマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 横山金太郎君

○横山金太郎君 登壇
報告ニ賛成ヲシ、二讀會ニ此案ヲ移スベカラズト云フ論ニ反對ヲ致スノデアリマス、併セテ政友本黨ヨリ後ニ御説明ニナルベキ修正案ニ反對ヲスルノ意味ヲモ加ヘルノデアリマス(ソナナコトニ關係ハナイ)「關係ガアル」ト呼ブ者アリ、然ラバ此處デ聲明致シテ置キマスガ、ソレハ湯淺君ガ當議場ニ於テ論ヲ御進メニナツタ内ニ含シテ居リマスカラ、自然及ブカモ知レナイト云フ意味デアリマス、凡ソ此複雜繁瑣ナル世ニ處スルニ當リマシテ、誤解ト云フモノ程恐ロシイモノハナイト私ハ思フノデアリマス、事ノ實相ヲ審カニセザルガ爲ニ非常ナル過チヲ來スト云フコトハ、世間往々見ル所デアリマスルガ、今現ニ本案ニ付キマシテモ世間ノ人々ハ口ヲ開ケバ、動モスレバ本案ヲ目シテ惡法ナリト罵ラレルノデアリマス、殊ニ今日ノ如キ此芝公園ニ於テ本法成立ニ對スル反對ノ民衆大會ガ開カレテ居リマシテ、其ビラヲ讀ンデ見マスルト、眞ニ治安ヲ紊シ、社會ノ不安ヲ醸スハ支配階級ノ專制政治ニアラズヤト云フガ如キ意味ヲ表明セラレテ居ルノデアリマス

(議場騒然)

○副議長(小泉又次郎君) 靜肅ニ願ヒマス
○横山金太郎君(續) 是ハデス、今日此議

場ニ於テ湯淺君ガ先刻例ニ引カレマシタ、即チ論ノ冒頭ニ例ニ引カレマシタ過激思想取締法案ト云フモノト本案トガ、其内容實質ニ於テ同一ナリト誤解ヲセラレテ居ル結果デアルト私ハ信ズルノデアリマス、(ヒヤヒヤ)「ノウウ」湯淺君ハ先程此壇上ニ於テ其過激思想取締法案ト本案トハ形ノ上ニ於テハ異、テ居ル、又用語ノ上ニ於テハ同ジクナイケレドモ、其思想ト趣旨トニ於テ同ジテアルト、斯ウ申サレマシタガ、ソレガ即チ吾々ト湯淺君トガ見ル所ヲ異ニ致スノデアリマシテ、現ニ過激思想取締法案ハ一度貴族院ニ上程セラレテ世ノ中公ニナツタモノデアリマスカラ、私一々玆ニ之ヲ朗讀スルノ煩ハ省キマスガ、本案ト比較ヲ致シテ彼ノ過激思想取締法案ガ、實質ノ上ニ於テ如何ニ優劣ガアルカト申シマスレバ、私ノ見ル所ヲ以テ致シマスルト、アノ法案ハ確ニ此用語ノ上ニ於テ本案ヨリモ極メテ明晰ヲ缺イテ居、タノデアリマス、殊ニ又其他多クノ條文ニ於テ本案ヨリモ範圍ガ廣ク取締ルベク規定セラレテ居、タト云フコトハ疑ナインデアリマス、若シアノ法案ニシテ通過ヲ致シマスレバ、世ノ所謂玉石共ニ焚カレナケレバナラヌ危險ガゴザイマシタ、故ニ之ヲ惡法ト致シテ阻止サル、コトニナツタノデアリマス、本法案ニ付テ論ヲ爲ス人ガアツテ申シマスニハ、其過激思想取締法案ニ反對ヲシテ置キナガラ、今日本案ニ賛成ヲスルト云フコトハ抑、矛盾デハナイカ、撞者デハナイカト申サレマスルケレドモ、是ハ只今申上ダマシタ如ク、内容實質ガ異、テ居ルノデゴザイマスルカラ、彼ヲ排シテ此ニ賛成ヲスルト云フ事柄ハ、何等其間ニ支吾抵觸ハ無イノデアリマス、殊ニ御留意ガ願ヒタイノハ、若シ本案ニシテ成立致スコトニナリマスレバ、吾々カラ

見マスルト本案ヨリモ其目的ノ範圍カラ申シマシテモ、手段ノ點カラ申シマシテモ、將タ刑罰ノ點カラ申シマシテモ、極メテ酷烈ニ失スルモノデアルト思ハレル所ノ震災直後ニ發セラレタ彼ノ治安維持令ナルモノガ、自ラ撤廢セラレルト云フコトデアリマス、若シ湯淺君ノ期待セラレルガ如ク本案ヲ此議場ニ於テ否決ヲ致スト云フコトニナリマスレバ、依然トシテ彼ノ治安維持令ナルモノハ其生命威力ヲ保テ居ルノデアリマス、是ガ爲ニ國民ノ被リマスル所ノ脅威ト不便不利トハ、甚大ノモノデアツテ、本案ト比較ニナツタナラバ、多クノ辯ヲ用ヒズシテ思ヒ半バニ過グルモノガアルノデアリマス、治安維持令ハ極メテ簡單デゴザイマスルカラ、私ハ此議場ヲ通シテ國民諸君ニ懇ヘルノ意味ニ於テ、玆ニ全文ヲ朗讀致シテ置キマス「治安維持ノ爲ニスル罰則ニ關スル件、出版通信其他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハズ暴行騷擾其他生命身體若ハ財產ニ危害ヲ及スベキ犯罪ヲ煽動シ」——是ハ本案ノ第四條ニ當ルヤウデアリマス「安寧秩序ヲ紊亂スル所ノ目的ヲ以テ治安ヲ害スル事項ヲ散布シ、又ハ人心ヲ惑亂スルノ目的ヲ以テ流言浮説ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス」トアリマシテ、此「安寧秩序ヲ紊亂スル」云々以下ガ本案ノ第一條、第二條及第三條ニ相當ヲスルノデアリマス、是ニ於テカ本案ノ一條ノ國體、私有財產制度ト云フコトヲ掲ゲテ、其目的ヲ表示セラレタト云フコトハ、此治安維持令ニ比較致シマシテ、犯罪ノ範圍ガ極メテ狹メラレタト云フコトヲ注意シナケレバナラヌデアリマス、同時ニ此十年以下ノ懲役ト云フト雖モ、本案ノ第一條ニハ、十年以下ノ懲役ガゴザイマスルガ、二條三條ニ至リマスト自ラ其刑ガ

低下サレテ、七年以下ト云フコトニ相成、テ居ル點ニ於テ、治安維持令ヲシテ生命ヲ保護シメルヨリモ、之ニ代ルニ本案ヲ以テスルト云フコトガ、第一層國民ノ幸福ノ爲ニ、數多國民ノ便利且ツ進歩デアルト、私ハ考ヘルノデアリマス、本案ノ期待致シマスル所ノ目標ハ何デアアルカト申シマスナラバ「國體ヲ變革シ」トゴザイマスル點ガ國憲ヲ否定シ、法律ノ支配カラ解放セラレント致シマスル無政府主義者ヲ取締ル意味デアリマス、私有財產制度ノ否認ト云フ點ガ、現在ノ此經濟關係ヲ陵駕シテ、總テノ人ノ所有權ヲ奪フテ、各人ヲ經濟的ニ平等化セントスル所ノ共產主義ヲ取締ラントスルニ外ナラヌデアリマス、斯ノ如キ主張ガ實行セラレルト云フコトヲ認容スルコトニナリマシタナラバ、果シテ我國ノ安寧秩序ハ之ヲ維持スルコトガ出來ルデゴザイマセウカ、私ハ斷ジテ出來ナイト思フノデアリマス、若シ此意味ヲ世ニ所謂惡法ナリトシテ本案ヲ排撃セラレル人々ガ耳ニシ、且ツ理解ヲセラレマシタナラバ、恐クハ成程ト首肯セラレル所ノモノガアルト私ハ信ズルノデアリマス、私ハ玆ニ斷言ヲスルノデアリマス、所謂無政府主義者ト共產主義者ノ唱フル所ヲ、我國ニ實行ヲシナケレバナラヌト唱ヘテ、本案ノ成立ニ反對ヲスル人ガアツタレバ、其人ハ恐クハ之ニ反對センガ爲ニ反對ヲスル人カ、然ラザレバ無政府主義者若クハ共產主義者デハナイカト云フコトヲ實ニ戰慄恐怖ノ念ニ堪ヘナイノデアリマス、(拍手)勿論本案ニ付キマシテハ此用語ニ洗練ヲ缺キマシテ、依然トシテ空想性ヲ有シテ居ルモノガナイトハ申サレヌノデアリマスガ、併ナガラ其中デ國體ト云フ文字ニ付キマシテハ、今日マデ委員會ニ於テモ本會議ニ於テモ、何等之ニ向テ疑義ヲ挾ム

人ハナカッタノデアリマス、即チ政府ノ説明ニ依リマス、國體ト云フ文字ハ、萬世一系ノ皇室ヲ奉戴致シテ居ル帝國ノ此國體デアル、斯ウ申サレテ居リマス、一點ノ疑惑ヲ挾ム點ガ無イノデアリマス、又私有財産制度ト云フモノニ付キマシテノ説明ニ依リマス、斯様ニ申サレテ居ルデアリマス、私有財産制度ヲ根本カク否認シテ共產主義ヲ行ハントスル、國家組織ノ大綱ヲ破壊セントスルガ如キ、結社云々ト説明サレテ居リマス、是ハ一條ノ説明デアリマス、仍テ考ヘマス、此私有財産制度ト云フモノニ付キマシテモ、私有財産制度ト云フ其物柄ニ付テハ何等意義ノ不明瞭ナル點ハ無イト思フノデアリマス、即チ政府ノ説明スル所ヲ綜合考覈致シマス、現行ノ多クノ法令ニ依テ吾人ノ社會的生活ノ安定ヲ保障スベク作ラレタル所ノ規則ヲ指スノデアル、苟モ日本ノ法制ハ、個人ノ身體生命ト財産、殊ニ權利ノ主體トナルベキ人ヲ保護スルト云フ意味ニ於テ出來テ居ル、此制度ハ舉ゲテ私有財産制度ニ外ナラヌノデアル、斯様ニ説明セラレテ居リマシテ、其點ニ付テ何人モ否ヤヲ唱フル聲ハナカッタノデアリマス、サスレバ今日問題トナリマス、ハ此私有財産制度其物ヲ否認スルト云フ、「否認」ト云フ言葉ニ付テノ意義ガ不明瞭デアルト云フコトニ歸著ヲ致スノデアリマス、或ル人ハ此事實上私有財産制度ニハ少シノ疑問ヲ持ツコトガ出來ヌコトニナツテハイケナイデハナイカ、講究スルコトヲモ批評スルコトモ許サヌト云フ事柄ハ、ソレハ餘リ極端デアルト云フガ如キ論ヲ唱フル人ガアリマスケレドモ、併シ此思想ノ自由研究ノ自由ト云フモノハ尊重ヲ致シテ居ルノデアリマス、何等其自由ヲ認メナイデハナイ獨リ認メナイデハナイ

ノミナラズ、其制度ヲ適當ノ狀態ニ於テ改廢ヲスル、變更ヲスルト云フコトモ是ハ許スノデアル、唯、法案ノ禁セント欲スル所ハ、其私有財産制度ノ根本ヲ否認致シテ、之ヲ破壞シテ共產主義ヲ行ハントスル者ヲ取締ルノニ外ナラヌノデアリマス、又實際ニ於テ之ヲ取締ラズ放置致シマシタナラバドウナルカ、即チ共產主義ヲ行ハント致シマスレバ、必然的ニ此憲法ト云フモノノ規定ニ反スルノデアリマス、憲法ノ二十七條ニハ所有權不可侵ノ規定ガアリ、僅ニ例外ト致シテ公益上必要已ムヲ得ザル場合ニ於テノミ、此所有權ヲ制限スルコトガ許サレテアルニ過ギヌノデアリマス、此點ニ付キマシテハ先刻前田委員長ヨリ委員會ニ於ケル委員ノ質問ニ對シテノ政府ノ答辯ヲ列舉セラレテ居リマス、或ハ土地ヲ國有ニスルトカ、森林ヲ公營ニスルトカ云フ例ヲ引キ來テ、簡明ニ説明セラレテ居リマス、カ、私ハ再ビ言葉ヲ之ニ及ボシマセヌケレドモ、要スルニ私有財産制度否認ト云フハ、其土地ナラ土地ヲ國有トスルコトニ付テ、若シ前提ト致シテ賠償ヲ爲スト云フガ如キ觀念ガ伴フテ居レバ、ソレ便宜シイノデアル、又今日土地ヲ國有ニシ、明日山林ヲ公營ニスルト云フガ如キコトガ段々ニ出テ參テ際ニ、其今日、明日、明後日ト云フ此提議ガ彼此脈絡貫通致シテ居テ、其根底ニ私有財産制度ヲ否定スルト云フ觀念ガ伴ウタ時ハ、是ハ悉ク否認ヲスルモノト見ルノデアル、若シソレ都市計畫ナドノ場合ニ於テ公益ノ爲ニ僅カ一部分ノ土地ヲ沒收スルトカ、或ハ風俗壞亂ノ圖畫ヲ沒收スルトカ、若クハ火災ノ際ニ於テ一二軒ノ家ヲ火口ヲ切ルベク崩壊ヲスルト云フガ如キコトハ、縱シ代價ヲ拂ハズトモ、蓋シ公益上已ムヲ得ナイノデアルカラ、是ハ私有財産

制度否認ト見ナイノデアルト釋明ガセラレテアリマシテ、要スルニ否認ト云フ點ニ付キマシテモ前田委員長報告ノ如ク、之ヲ各場合々々ニ實現セル事象ニ就テ、法律の常識判斷ニ訴ヘルコトニシテ、何等其適用ヲ誤ルノ虞ハナイト見テ、吾々ハ此私有財産制度否認ト云フコトハ、先ヅ肯定ヲ致シテ妨ゲナイモノト思フノデアリマス、ソレカラ凡ソ此公益上ノ見解ト云フモノニハ自ラ變化ガ生ジテ來ルモノデアアル、思想ト云フモノハ進歩スルモノデアアルカラ、將來社會ノ事情ガ變遷ヲ致シテ、國民全體ノ考テ違テ來、或ハ此私有財産制度ノ否定ヲ認メナケレバナラヌト云フガ如キ場合ガ出來ルカモ知レヌガ、サウ云フ場合ニハドウデアアルカト云フヤウナ議論ヲ唱ヘタ人モアルノデアリマス、併シ是ハ其時ニ至テ國民ノ思想感情ガ熾熱ヲシテ、自ラ輿論トナツテ、サウシテ輿論ノ力ニ依テ私有財産ノ否定ヲ成就シナケレバナラヌト云フ場合ハ、是ハ已ムヲ得ヌノデアリマス、其時ニハ宜シク本案ノ加キ法律ヲ其輿論ノ力ニ依テ廢止シテ、ソコデ自分ノ主張ト目分ノ思想ヲ實現スレバソレ便宜イト思フノデアリマス、凡ソ一國ノ法制ト云フモノハ其國ノ文藝ト同ジヤウニ、其國家社會ノ反對鏡ト云フテモ宜イノデアリマス、現在ノ程度ニ於キマシテ現ニ先年過激思想取締法案ガ出マシテ、以來ノ思想界ノ傾向ハ、諸君ドウデアリマス、所謂社會運動ト云フモノガ自然ニ烈強ニナツテ參リマシテ、歐洲大戰以來ノ狀態ハ私ガ改メテ申上ゲル迄モアリマセヌ、殊ニ今回日露ノ國交ガ恢復ヲ致シマシテ、露國ノ人若クハ其露國ノ思想ニ感染ヲ致シタ人ガ、我國ニ出入往來スルコトガ頻繁ニナリ、其條約ノ未ニ依リマスレバ露國ト露國ノ國家ノ恩惠ニ浴シテ居ル或團體

ト、我ガ帝國トノ間ニハ條約ガ締結ヲサレマシテ、亦化ノ宣傳ハ自ラ禁止セラレテ居リマセヌケレドモ、露國民ニ對シテハ何等條約ノ效果ヲ及ボスコトハ出來ナイノデアリマス、即チ自ラ此國內法ニ依テ之ヲ取締ルノ必要ガアル、是ハ恐ラクハ滿場ノ諸君ト雖モ御否定ニナルマイト思フ、即チ現在ノ規スル意味ニ於テ速キ將來ハ別ト致シテ、現在及ビ近キ將來ヲ律スル意味ニ於テ、無政府主義並ニ共產主義ヲ取締ルト云フ必要ハ切實デアルト言ハナケレバナラヌ、或人ハ刑法ニハ現ニ此規定ガナク致シテ、本法ノ創成ヲ見ルニ至ツタノデアアルガ、之ヲ刑法ニ規定シテハドウウカト云フ質問ヲセラレタ位デアリマスガ、此點ヲ深ク注意ヲ要スルノデアリマス、現ニ刑法ニハ政府ノ轉覆トカ、其他憲法亂ト云フヤウナ事ニ付テ可ナリ周密ナル注意ヲ致シ、緻密ナル規定ガ出來テ居リマスルニ拘ラズ、本法ニ於キマシテ禁止センコトヲ期待致シマスル事項ニ付テハ何等ノ規定ガナイノデアリマス、是ハ何ガ爲メデアルカト云フ、即チ其當時ニ於テハ其法律ノ出來マシタ當時ニ於テハ、今日禁壓セント欲スルガ如キ社會現象ト云フモノガ存在シナカッタカラデアリマス、之ニ依テ御考ニナリマシテモ凡ソ一國ノ法制ト云フモノハ遠キ將來ハ別トシテ、其現在並ニ近キ將來ヲ律スベク之ヲ取締ル爲メニ成立實現スルモノデアリス、此意味ニ於キマシテ私ハ本法案ノ成立ハ必要デアルト思フノデアリマス、殊ニ此法案ガ出來マシテモ刑法ノ總則ノ適用ヲ受ケマスル結果ト致シテ、合法的ニ、或種ノ論議ヲ進メマスルコトダケハ出來ルノデアリマス、此點ニ付テハ前田委員長ヨリ事詳細ニ御報告ニナツテ居リマスルカラ、繰返シマセヌケレドモ、要スルニ吾々議員ハ憲法ノ

條章ニ基テ上奏ヲ爲スノ權能ガアルノデ
アリマスガ、若シ眞ニ此社會ガ進歩致シ、
諸君ノ中デ提唱セラル、ガ如キ思想ヲ日本
ノ政治ノ上ニ實現シナケレバナラヌト云フ
場合ニハ、多數ヲ以テ上奏ヲスレバ宜シイ
デハゴザイマセヌカ、其事自體ヲ上奏スル
コトガ出來ルノミナラズ、其前ニ當リテ若
シ本案ノ期待致シマスル此刑罰ト云フモノ
ガアルコトガ不便デゴザリマスナラバ、前
途ニ當リテ横ハル所ノ刑罰ヲ艾除スルコト云
フ意味ニ於テ、本案ノ撤廢ヲ企ルコトハ、
恰モ掌ヲ指スガ如ク易々タルモノデアルト
考ヘルノデアリマス、ソレカラ本案ノ私有
財産制度ノ否認ト云フ文字ハ煽動ト云フ文
字ニ付テ之ヲ濫用ヲセラル、虞ガアル、惡
用ヲセラル、虞ガアル言葉ヲ切ニシテ申シ
マスレバ、若シ此條文ヲ拉シテ行政干涉、
若クハ司法干涉ヲセラル、ノ虞ガアルト主
張セラル、人ガアル、是ハ御尤モノ主張デ
アリマスルケレドモ、併シ此憂慮スベキ事
柄ト云フモノハ獨リ本案ノミデハナイ、是
マデノ法制ノ上ニ幾ラモ紛ラハシイ所ノ用
語ハアルノデアリマス、先刻湯淺君ノ御引
用ニナリマシタ朝憲紊亂デアルトカ、邦土
ノ僭竊ナド、云フガ如キ文字モ、文字自體
用語自體ニ於テ何ト致シテモ空漠性ヲ有
テ居ルコトハ疑ハアリマセヌ、併シ執法官
ハ、實際ニ於テ之ヲナダラカニ運用致シテ
誤テ居ラヌデアリマセヌカ（拍手）、吾
吾ハ進歩致シタル賢明ナル所ノ我ガ司法官
ノ勤キト云フモノヲ認メルノデアリマス、
必シモ諸君ノ今日御憂慮ナサル所ノ、所謂
憂慮ハ懸テ杞憂ニ終リハシナイカト云フコ
トヲ信ズルノデアリマス（ヒヤ）併ナガ
ラ用語ノ不明ト云フコト、曖昧ト云フコト
ニ付テハ、無制限ニ之ヲ認ムル譯ニハ參リ
マセヌ、ソコデ吾々ハ此用語ノ中デ極メテ

曖昧デアッテ適用上危險ナモノト云フモノ
ニ付テハ、之ニ向テ斧鉞ヲ加フルコトニ、
斷ジテ吝ナラヌモノデアリマス、即チ此點
モ委員長ヨリ御報告ニナリマシタ如ク、第
一條ノ政體ト云フ文字ニ依テ其意味ヲ表
ハサントセラル、所ノモノハ、立憲政體ト
云フコトデアリマスケレドモ、立憲政體ト
云フ文字ハ必シモ政體ト云フ文字カラ當然
ノ歸結ト致シテハ之ヲ看取スルコトガ出來
ヌノデアリマス、即チ政體ト云フ言葉ハ直
ニ立憲政體ト云フコトノミデハナイ、其他
ニ行政司法ノ關係モ併セテ見ナケレバナラ
ヌト云フコトハ、國法學ノ一貢ヲ研究シタ
者ノ夙ニ是ハ承知シテ居ル所デアリマス、
ノミナラズ此點ニ付テノ政府ノ説明ト云フ
モノガ、實ハ一定ヲ致シテ居ラヌ、湯淺君
ガ先刻政府ガ此本案ニ對スル用語ニ付テ、
説明ガ極メテ曖昧模稜デアッテ、一定シテ
居ラヌト云フコトヲ言ハレマシタノハ、蓋
シ國體ト云フコト、私有財産制度ト云フ點
ヲ除キタル、政體ノ意味デアッテラウト私
ハ思フノデアリマス、何トナレバ其他ノ部
分ニ付キマシテハ、事明晰ニ答辯ガセラレ
テ、其答辯ハ一定シテ居リマス、又吾々ハ
即チ其政府ノ説明ヲ道理アルモノト致シテ
肯定シテ居ルノデアリマス、此政體ト云フ
點ニ付テ政府ノ説明ニ關シ唯一言申上ゲテ
置キマスルガ、政府ノ説明ニ依リマスル
云フト、政體ト云フコトニ付テハ憲法ノ形
式カラ申スナラバ、憲法ニ書キ現シテアル
各條項中、之ニ關係致スモノヲ言フノデア
ル、獨リ代議士ヲ基礎トシタル立法府ト云
フ意味デハナイノデアリマス、唯ハ變革
ト云フコトニ結付ケテ御考慮ヲ願ヒタイ云
云ト説明セラレテ居リマス、是ハ即チ山岡
政府委員ノ御答ニナッタ言葉デアリマスル
ガ、反面ニ於テ司法大臣ト內務大臣ノ御答

ニ依リマスルト、政體ト云フコトハ立憲政
體ノコトデアアル、是ハ一般の通念ニ於テ、
立憲政體ト云フコトニ理解スルコトガ出來
ルト答ヘラレテ居ルノデアリマス、右様ニ
矛盾ヲ致シテ居リマス、實際ニ於テ此法律
ガ成立チマシタ曉ニ、執法官ガ適用シマス
場合ニハ、恐クハ山岡政府委員ノ説明ノ如
ク、裁判官ハ法律の基調ニ重キヲ置イテ取
扱フニ非ズヤト云フコトヲ虞ルノデアリ
マス、要スルニ斯ノ如キ不明ナル用語ノ下
ニ吾々忠良ナル國民ガ支配セラル、ト云フ
コトハ、不安デアアルト云フ意味ニ於テ之ヲ
削除スルニ至ラヌデアリマス、即チ吾々
トモ最モ用語ノ不明ナルモノニ付テハ必
シモ無秩序、無節制ニ之ヲ容ルルモノデナ
イト云フコトヲ御承知ガ願ヒタイノデアリ
マス、而モ政府ノ此修正ガ可決スルコトア
ルニ於テハト云フ假定ノ見地ニ立チマシ
テ、答ヘラル、所ニ依リマスレバ、勿論本
案ノ期待スル所ノ目的、即チ無政府主義、
共產主義ヲ取締ルニ方テハ國體ノ變革ヲ
禁ジ、私有財産制度ノ否認ヲ禁ズルト云フ
コトニナレバ、稍、目的ハ達セラル、ノデア
リマス、或ハ恐ル多少政府ト云フ文字ヲ除
カレタルガ爲ニ、逸スベキ或ル種ノモノガ
アリハシナイカト思ハレマスケレドモ、併
シ是トモ全然無罪ノ人トシテハ扱フノデ
ハナイ、現在ニ行ハレテ居ル所ノ新聞紙法
デアルトカ、出版法デアルトカ、若クハ治
安警察法ノ如キ法規ニ依テ之ヲ取締リ得
ルトノコトデアリマス、此言明ヲ得マシテ、
吾々ニハ一層此政體ト云フ文字ヲ削ルト云
フコトノ決心ヲ強ク致シタノデアリマス、
今一ツハ此手段ヲ不法ト云フコトニ制限シ
テ、——私有財産制度ノ上ニ被ラスノニ不
法手段ヲ以テ致シタラ、ドウデアアルカト云
フ主張モアリマシタガ、此點ニ付キマシテ

ハ前田委員長モ御報告ニナリマシタ如ク、
其不法手段ニ依ル場合ニ付テハ既ニ罰スベ
キ規定ハアルノデアアル、殊ニ國體ノ變革ナ
ドニ付テハ、罰スベキ規定ハアルノデア
ル、即チ刑法ノ内亂罪ノ點カラシテ見ルコ
トガ出來ルケレドモ、之ハ暴力ト云フ手段ニ
制限ガアルノト國體其モノヲ直接ニ破壊セ
ントスルノデアアル、併ナガラ其暴力手段ヲ
用キルト云フ前ニ當リテ、其道程ニ當リテ、
之ヲ取締ラナケレバ自然ニ刑法規定ノ其
重キ罪ヲ犯スベク近接スルノ恐ガアル、ソ
コデ所謂嫩葉ニシテ萌芽サレバ斧ヲ入レル
ニ至ルト云フ見解ニ出發シテ、其怖ルベキ
傾向ガ現在ニ於テ生ジテ參テ居ルカラ、
之ヲ取締ルト云フノデアリマス、是ハ吾々
モ尤モデアルト思フテ手段ノ制限ニハ賛成
シナイノデアリマス、最後ニ私ハ湯淺君ノ
御論旨ノ中ニゴザイマシタ此國體ト云フコ
トハ絕對ノモノデアッテ、サウシテ私有財
産制度否定ト云フコトハ絕對ノモノデハナ
イノデアアル、之ヲ二者共ニ同一條文ノ下ニ
同一ノ待遇ヲスルト云フコトハ極メテ不權
衡デハナイカト云フ論ガアリマシタケレド
モ、私ハ前田委員長ヨリ一言加ヘラレタト
思ヒマスガ、國體其物ヲ直接ニ破壊スル場
合ハ自ラ規定ガアルノデアアル、國體ヲ直接
ニ破壊スルマデノ間ニ紆餘曲折シタル所
ノ、其道行キニ於テ結社ヲ爲シ、協議ヲ爲
シ、煽動ヲ爲スト云フ者ヲ罰スルノデア
ッテ、此行爲ガ國家ノ法益ヲ阻害スルト云フ
點ニ於テハ、私有財産制度ノ否認モ、國體
ヲ變革スルト云フコトモ、結社ヲ爲シ加入
スル其モノニ付テハ、何等ノ輕重スル所ハ
ナイノデアリマス、故ニ私ハ之ヲ同一ノ
條文ノ下ニ置クト云フコトハ敢テ不適當
デナイト思フノデアリマス、是ニ於テカ私
ハ論ヲ結ビマスル前ニ當リテ、湯淺君ノ本

案ヲ二讀會ニ移スベカラズト云フ論ニ付テ、最後ニ極ク斷片的ニ二御答致シテ置キマス、用語ガ不明デアルト云フコトデアリマシタガ、是ハ先刻私ガ申上デマシタ中ニ申シマスル如ク、用語ノ不明ハ政體ト云フニ文字ニアルノミデアリマシテ、之ヲ削リマシタ以上ハ湯淺君ノ御懸念ナルガ如キ虞ハ斷ジテ無イノデアリマス、其次ニ本案ヲ警察官ナドニ於テ濫用セラルル虞レガアルト云フコトデアリマス、是亦若シ濫用スル虞ガアルト云フコトニナリマスレバ、湯淺君ノ御論ノ中ニゴザイマシタ通り、治安維持法案云々ト云フコトモゴザイマシタ如ク、既往現在ノ法制ニ於テモ矢張濫用セラレル虞ガアルノデアリマシテ、此濫用スルトカ、シナイトカ云フコトハ法制ノ罪ニアラズシテ法制ヲ運用スル人ノ罪デアルト言ハナケレバナラヌノデアリマス、ソレカラ現状ヲ維持スルト云フコトハ日本ノ國家社會ノ進歩ヲ阻止スル所以デアルト云フコトデアリマシタガ、是ハ治安ヲ破壞シテマデモ、現状ヲ打開シテ、進歩ヲ圖ラナケレバナラヌト云フ、此思想ニハ私ハ共鳴スルコトハ出來タノデアリマス、ソレカラ本法ヲ憲法ナリト云フコトニ於テ、前ノ過激思想取締法案ト本法案トヲ比較セラレマシテ、惡法ト云フ色彩ハ本法ニ於テ層一層濃厚ニナツテ參々ト申サレマシタガ、是ハ私先刻説明致シマシタ如ク、本法ト過激思想取締法案ト、何レガ優レリヤト云フコトニ付テハ、再ビ言葉ヲ加フルノ必要ハアリマセヌ、只タ私ハ本法ガ大ニ優レリト云フ考ヲ持ツテ居ルト云フコトヲ明言スルニ止メテ置キマス、要ハ是ハ御論ノ相違ト致シテ特ニ駁撃ヲ加フルノ要ハナイと思ヒマス、ソレカラモウ一ツ自首致シタ時ニ其刑ヲ減免スルト云フコトガ、極メテ不當デアルト申

サレマシタケレドモ、此法制ハ此法案ノ自首規定ノ如キハ是ハ新シキ規定デハナイ、是マデ刑法ナドニモ幾ラモ此規定ガアリマシテ、殊ニ偽證罪ナドノ場合ニ於キマシテハ裁判ノ公正ヲ期スル意味ニ於テ其裁判ヲ爲サヌ前ニ自首致シマシタナラバ、本法規定ノ如キ刑ノ減免ヲ受ケル規定ガアツテ、是ハ寧ろ善良ナル性質ヲ有スル者ト致シテ實際家ノ歡迎ヘラレテ居ルノデアリマス、殊ニ本法ハ刑法法ハゴザイマスルケレドモ、刑ヲ科スルト云フ事ガ唯一ノ目的ニ非ズシテ、成ベク此禍ヲ未然ニ防グト云フ思想ヲ含メテ取締法トシテ出テ居ル法案ノ性質カラ、斯ノ如キ規定ハ特に必要切實ナモノデアルト思フデアリマス、以上ヲ以テ私ハ委員長ノ報告ニ賛成ヲシ、二讀會ニ移スベカラズトノ議ニ反對致スモノデアリマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 武藤山治君

(武藤山治君登壇)

○武藤山治君 諸君私ハ政府ガ本案ヲ御提出ニナリマシタ御意思及本案ノ目的トスル所ニハ全然賛成スル者デアリマス、然ルニ私ガ本法案ガ法律トナルコトニ反對スル理由ハ我國ノ治安ヲ維持スル方法ニ付テ、其緩急ノ上ニ政府ト所見ヲ異ニスルガ爲メデアリマス、近年我國ノ思想ノ動搖ノ甚ダシキ事實ニ付テハ、私ハ之ヲ認ムル者デアリマス、併ナガラ其思想ノ動搖ヲ來シタ主タル原因ハ、過去幾十年間ニ互ル我が政治ガ國民經濟ヲ誤タ爲メデアルト思フノデアリマス、故ニ今日ノ思想ノ動搖ヲ防ガントセバ、吾々ハ先ヅ其根本ニ邁ツテ我が國ノ不經濟ナル政治ノ上ニ一大革新ヲ加ヘネバナラヌト思フデアリマス、諸君私ハ去ル二日ノ本會議場ニ於ケル普通選舉法案ノ討論際、憲政會ヲ代表セラレテ我が憲法史

上ニ長ク印スル所ノ齋藤隆夫君ノ一大演說ヲ拜聴致シタノデアリマス、而シテ其齋藤君ノ御演說中危險思想ニ對スル齋藤君ノ御自信、其御意見ニ付テ眞ニ私ハ傾聴シタノデアリマス、諸君齋藤君ハ斯ノ如ク述ベラレタノデアリマス、近來動モスレバ危險思想ヲ口ニシ、或ハ國民思想ノ惡化ナドト云フコトヲ唱ヘル者ガアル、是等ハ極メテ少數デアアル「國家ノ大局ヨリ見マシタナラバ少シモ恐ル、ノ値打ハナイ、苟モ今日ノ時代ニ當リマシテ國家社會ノ上ニ何等ノ根柢ヲ有セザル思想ト云フモノハ健全ニ發達スル譯ハナイ、幼稚ナル所ノ思想、淺薄ナル所ノ思想乃至有害ナル所ノ思想ハ、一度思想界ノ戰場ニ暴サレタナラバ、立所ニ消滅シテシマフノデアアル」諸君此御自信ニ對シテハ私共ハ眞ニ敬服シタノデアリマス、若シ齋藤君ノ此御意見ガ憲政會ヲ代表シタモノデアリマスルナラバ、只今横山君ガ此處デ御述ニナツタ如ク反對セムガ爲ノ反對デアアルカ、若クハ共產主義者カ無政府主義者デアアルカナドト云フヤウナコトヲ述ベテ反對セラレルコトヲ、憲政會ノ諸君ハ此壇上ニ於テ諸君ヲ代表スル所ノ代表者ニ依ツテ演說ヲサセテ、之ヲ御承認ナサルカ否ヤト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、諸君凡ソ一國ニ於ケル政治ハ、其國ニ於ケル國民ノ思想ニ大ナル影響ノアルモノデアリマシテ、一國ノ盛衰興亡ハ其國ノ政治ノ良否ニ依ルコトハ、古今ノ歴史ノ證明スル所デアリマス、今日我國ノ政治ハ命令法規ガ徒ニ煩雜デアリマシテ、行政上ノ手續ハ窮屈デ面倒デ、一般國民ハ深ク之ニ悩ムデ居ルノデアリマス、我國民ハ政治ヲ簡易ニシテ、公ノ秩序ヲ害シナイ限リハ、日常ノ行ヒニ於テ今少シ自由ト愉快ヲ與ヘラレムコトヲ望ンデ居リマス、又我國民ハ我政治ノ徒ニ制度

形式ノ末ニ傾イテ、國民生活ノ要點ニ少シモ觸レナイコトヲ嘆息シテ居リマス、全國ノ農民ハ農村振興ノ聲ヲ百度聽カサレヨリモ、米ヲ賣テ買フ所ノ味喰ト醬油ノ一錢デモ安イコトヲ望ンデ居ルノデアリマス、又都市ニ於ケル労働者ハ將來ニ於ケル種々ノ勞働法規ヲ制定スル約束ヲ承ルヨリモ、現在其身邊ヲ襲ヒ來ル所ノ失業ノ苦シミト餓渴ヨリ免レンコトヲ嚮ツテ居ルノデアリマス、然ルニ我國ノ政治ハ年々無數ノ法規命令ヲ濫發シテ、國民ノ自由ヲ奪ヒ、殊ニ之ヲ經濟上ヨリ見マスルトキハ、近年著シク失政ヲ重ネテ、國民全體ニ我國ノ政治ナルモノハ、一部少數ノ利己ヲ事トスル人ミノ爲ニ依ツテ動かサレテ居ルノデアツテ、國民大多數ノ利益幸福ヲ顧ミナイモノデハナイカト云フヤウナ疑義ヲ起サレテ居ルノデアリマス、而シテ其結果國民ニ反感ノ念ヲ醸成セシメテ、思想ノ動搖ガ甚シクナツタノデアリマス、諸君德川時代ニ於キマシテハ、盲人ノ貸金ヲ若シ倒シタ者ガアルトキハ、嚴刑ニ處セラレ、盲人ノ貸金ハ德川時代ニ於テハ深ク保護サレテ居タノデアリマス、然ルニ今日立憲政治ノ時代ニ於キマシテ、中産以下ノ人々ノ汗水垂シテ儲ケタ中ノ其剩餘ヲ預ケタ郵便貯金ヲ、安イ利息デ政府ハ之ヲ預ツテ、サウシテ低利資金ナドト稱シテ、種々ノ一部ノ人々ニ不確實ナル方面ニ迄貸出スト云フヤウナ今日ノ惡イ政治ハ、私ハ正ニ、今日ノ思想ノ動搖ヲ起シタ所ノ根本原因デアルト私ハ思フノデアリマス、殊ニ極メテ卑近ナ話デアリマスケレドモ、皮膚病ノ専門ノ醫者ハ皮膚ニ對シテ藥ヲ塗ルト云フコトニ付テ、深甚ノ注意ヲ拂フノデアリマス、此皮膚ニ塗ル所ノ塗藥ヲ一度誤タナラバ、英語デ申シテ之ヲ「イルリテー」トスルノヲ恐レルノデアリマス、即チ皮

膚ガ怒テサウシテ皮膚ガ非常ニ之ニ反撥
スルト云フコトヲ恐レテ、皮膚病ニ藥ヲ塗
ルト云フコトニ付テハ非常ニ注意ヲスルノ
デアリマス、殊ニ其皮膚病ハ外面ニ於ケル
一ツノ病氣ニ止マラズシテ、體內ノ病氣ヨ
リ發生シテ居ルトキニ於テ、皮膚病ニ對ス
ル塗藥ハ最モ深キ注意ヲ拂ハナケレバナラ
ヌノデアリマス、今政府ハ此體內ノ病氣ヨ
リ發シテ居ル皮膚病ヲ癒シガ爲ニ、茲ニ
治安維持法ヲ提出セラレタノデアリマス
レドモ、私ハ此點ニ付テ諸君ガ十分御考慮
ヲナサルベキ問題デハナイカト思フノデア
リマス、私ハ過日總理大臣ニ質問ヲ申上ゲ
テ、加藤首相ノ御考慮ヲ願フタノハ實ニ此
點デアリマス、其節申述ベマシタ通り、我
國ニハ憲法ノ本旨ニ反シ、議會ノ知ラナイ所
ノ人ヲ、一年以下ノ禁錮ニ處スル明治二十
三年發布セラレタ法律八十四號ガアッテ、
行政官ノ發スル命令ノ中ニハ、自由ニ之
ガ加エラレルノデアリマス、即チ政府ノ
制定スル命令中種々ノ體刑ヲ加ヘルコト
ガ出來ルノハ實ニ此法律ニ依ルモノデア
ッテ、吾々ガ議會ニ於テ議決シナイ、法律ニ
依ッテ之ガ行ハレテ居ルノデハナイノデア
リマス、又世界文明國中、我國ノ如ク廣大
ナル土地山林ヲ持ッテ居リ、又特殊銀行ナ
ドト稱シテ非常ニ大ナル金融ノ力ヲ政府ガ
持ッタリ、自ラ鐵道ヲ營ミ、其他種々ノ官
營事業ヲ營ムト云フヤウナ政府ハ、文明國
ノ政府ニ於テハ一ツモナイノデアリマス、
又政府ハ多クノ認可權ヲ持ッテ居ル、殊ニ
此利權ニ對スル認可權ヲ有シテ居ルノハ、
日本政府ニ限ッテ居リ、世界文明國ノ政府
デ利權ノ認可權ヲ行政官ガ勝手氣儘ニ取扱
フト云フ國ハ何處ニモナイノデアリマス、
諸君英國デハ大臣ガ停車場ヘ往復セラレル
場合ニ於キマシテ、一人モ送迎者ガナイノ

デアリマス、首相「ボールドウィーク」ガ倫
敦ノ停車場ヘ參リマシテモ、一人モ送迎者
モナイシ、迎ヘル者モナイノデアリマス、
然ルニ今日我國ニ於テ大臣ノ送迎ノ甚シキ
コトハ全ク政府ノ持ッテ居ル所ノ廣大ナル
權力、豐富ナル財力ノ前ニ送迎者ガ頭ヲ下
ゲルノデアリマス、若シ今日大藏大臣ヲ訪
問スル人々ノ名前ヲ公表セラレタラバ多クノ
人々ノ中ニハ私ハ濱口藏相ヲ惱マス人々ガ
少クナイト信ズルモノデアリマス、是レ即
チ今日我國ノ政治ナルモノガ極メテ廣大ナ
ル權力ト、種々ノ財産ヲ持チ金融ノ權ヲ持
テ居ルガ爲ニ、我國ノ政治ガ稍モスレバ腐
敗ニ陥ルト云フ根本原因デアルト思フノデ
アリマス、米國ノ如キハ彼ノ有名ナル「ル
ーズヴェルト」大統領ニ依ッテ、米國ノ政界
ガ廓清セラレタノデアリマス、英國ニ於キマ
シテモ百數十年前政治ノ上ニ大革新ガ施サ
レタノデアリマス、今日我國ニ於テ最モ急
要ナルハ、治安維持法ノ制定デナクシテ、
我ガ國民思想ヲ動搖セシムルニ至ッタ我國
政治ノ此不公平、不眞面目、不經濟ナ病源
ニ向ッテ斧ヲ揮フコトデアルト思ヒマス、
然ルニ今日マデ我ガ政治家中、此根本ニ向
テ大改革ヲ加ヘントシタ人ハ一人モ無イノ
デアリマス、諸君、官僚政治家ノ不可ナル
所ハ、國民ノ利益幸福ヲ犧牲ニシテモ自己
ノ權力ヲ擴大セントスル點ニ在ルノデアリ
マス、立憲政治家ノ本領ハ、成ルベク自己
ノ權力ヲ狭メ、國民ニ自治ノ精神ヲ與ヘ、
國民ヲシテ國家公共ニ對スル義務ノ觀念ヲ
抱カシムルニ在ルノデアリマス、然ルニ近
時政黨内閣ノ世トナリ、立憲政治家ガ政治
ヲ行フ時トナリマシテモ、其施ス所ノ政治
ハ單ニ制度形式ノ上ノ變化ニ止マリマシテ
其實質ハ毫モ官僚政治家ト異ナル所ガナイ
ノデアリマス、勿論其點ニ付テハ單ニ政治

家ノミヲ貴ムベキデハナイノデアリマス、
國民モ亦重大ナ責任ガアルト思フノデアリ
マス、併ナガラ私ハ我ガ思想ノ動搖ヲ防ガ
ントセバ宜シク今日ノ如キ煩瑣ナ政治ヲ今
少シク簡易ニシ、今日ノヤウナ不經濟ナ政
治ヲ今少シク經濟的ニ改メテ、サウシテ此
國民ノ思想ノ動搖ヲ防グ外ハナイト信ンジ
マス、之ヲ爲サズシテ斯ノ如キ法律ヲ制定
スルトキハ、當ニ其目的ト背馳スル結果ヲ
生ズルト云フコトヲ憂フルノデアリマス、
諸君、私ハ是ヨリ……
〔此時發言スル者多ク議場騒然〕
○副議長(小泉又次郎君) 靜肅ニ願ヒマス
○武藤山治君(續) 私ハ本法案ガ實行サレ
テ、我ガ國家ノ爲ニ最モ不利ヲ齎ラス點ヲ
一言申上ゲテ此論ヲ結ビタイト思ヒマス、
諸君、此治安維持法ノ最モ不可ナル點ハ、
善人ヲ不安ニ置クコトデアリマス、即チ此
法律ガ制定セラレタトキニハ、善人ハ極メテ
不安ノ地位ニ置カル、ノデアリマス、試ミ
ニ第五條ニ斯ウ云フ事ガアリマス、「第一條
第一項及前三條ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ目
的トシテ金品其ノ他ノ財産上ノ利益ヲ供與
シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ五
年以上ト懲役又ハ禁錮ニ處ス」ト云フコト
ガアリマス諸君、成程此法文カラ見マシタ
ナラバ、明ニ罪ヲ犯スヲ目的トスル場合ニ
限ッテ居リマス、併ナガラ實際上ニ於テ此法
律ヲ運用スル場合ニ於テハ、人ニ金品ヲ今
日供與シテ、明日其人ガ共產主義者ニ思想
ヲ變ヘタ場合ノ其間ノ取扱ガ、諸君如何ニ
之ヲ明カニスルコトガ出來ルノデアリマス
カ、結局裁判デ無罪ニナッテモ一時疑惑ヲ受
ケルコトハ……
〔發言スル者多ク議場騒然〕
○副議長(小泉又次郎君) 靜肅ニ願ヒマス
——暫ク御靜肅ニ願ヒマス

○武藤山治君(續) 縱シ此事ガ法律上明カ
デアリマシテモ、人ノ心ノ脅威ヲ感ズル點
ガ、法律ニ明カデアアルカラト云フテ人ハ安
心スルモノデハナイノデアリマス、今日諸
君、世ノ中ニ於ケル多クノ人々ハ、慈善ノ
目的ヲ以テ多クノ人々ニ金錢ヲ供與シマ
ス、此法律ガ通過スルトキハ、世ノ中ノ善
人ニ脅威ヲ與ヘ、總テ人々ハ危險ヲ感ジ、
金錢上ノ慈善行爲ニマデ大影響ヲ及ボスト
思フノデアリマス、次ニ本法案ノ不可ナル
點ハ、知識階級ニ對シテ不安ヲ與ヘルコト
デアリマス、如何ナル國ニ於テモ知識階級
ニ不安ヲ與ヘル法律ヲ制定シテ其國ガ已ビ
ナイモノハ歴史上一ツモアリマセヌ(拍手)
斯ノ如ク思想ノ動搖スル根本ニ向ッテ斧ヲ
揮フズシテ、唯枝葉末節タル思想ニ對スル
此維持法案ヲ制定シ、徒ニ善人ヤ知識階級
ニ向ッテ不安ヲ與フルガ如キハ、一國ノ政
治ニ於テ是レ以上不可ナルモノハナイト考
ヘマス(拍手)
○副議長(小泉又次郎君) 山崎達之輔君
〔山崎達之輔君登壇〕
○山崎達之輔君 私ハ只今議題トナッテ居
リマスル治安維持法案ハ第二讀會ニ移スベ
シトスル意見ヲ持ッテ居ル者デアリマス、此
案ニ對シマシテハ世上隨分ヤカマシイ議論
モアリマシテ、先刻委員長ヨリ御報告モア
リマシタ通りニ、特別委員會ハ數日ニ互
テ非常ニ面倒ナル質問應答ヲ重ネラレタノ
デアリマス、併ナガラ既ニ特別委員會並ニ
當議場ノ御議論ニ依リマシテ、大體此法案
ニ對スル議論ノ要點ハ盡キテ居ルヤウニ察
シマスノデアリマス、唯、私ハ一點ダケ未
ダ委員會ニ於テモ、亦當議場ニ於テモ論及
セラレナカタル重要ナル點ニ付テ簡單ニ
申上ゲテ、私ノ意見ヲ述べタイト存ジマス
(拍手)昨日委員會ノ討論ノ際ニ、私ノ友人

デアル所ノ清瀬一郎君ハ、極メテ該博ナル知識ヲ傾注セラレマシテ、此案ニ對スル絶對反對ノ意見ヲ御述ニナツタノデアリマス、デ御反對ノ理由トシテハ極メテ多岐ニ亙リテ居ラセウデアリマスルケレドモ、其中心タル問題ハ私有財産制度ノ否認ト云フ點ニ關スル事デアリマス、是ハ獨リ清瀬君ノミナラズ、本案ニ對シテ反對ノ意見ヲ有セラルル諸君ノ頭ノ中ニ懷イテ居ラレル最も主ナル點ハ此處デアラウト思ヒマス、隨テ私ハ此點ニ對スル私ノ卑見ヲ述ベマシテ、世上ノ感ヲ解キ、又反對ノ御意見ヲ持ッテ居ラレル方々ノ御參考ニ供シタウト存ジマス(拍手)此法案ニ反對セラレル方々ハ、私有財産制度ノ否認ト云フコトガ、若モ合法的ニ行ハレル場合ニ於テ、ソレヲシモ尙處罰ヲセナケレバナラスノデアルカドウカ、固ヨリ暴行、脅迫、其他不正ノ手段ニ依ッテ私有財産制度ヲ否認セントスル者ヲ處罰スルコトニハ異存ハナイ、併ナガラ之ヲ議會ノ審議ニ依ッテ正當ナル手段ニ依ッテ、私有財産制度ヲ否認セントスル者マデモ尙ホ罰セナケレバナラスカ、ドウカト云フコトガ、此案ニ對スル御疑念ノ主ナル點デアアルヤウニ思フデアリマス、而シテ私ハ此點ニ付テハ、私有財産制度ノ否認ト云フコトソレ自身ニ、決シテ合法性ト云フモノハナイコトヲ信ズル者デアリマス(拍手)然ラバ何故ニ私カ私有財産制度ノ否認ニ合法性ナシトスルカ、其點ヲ明瞭ニ申上ゲテ見タイト思フデアリマス、此點ニ付テハ內務大臣ノ御説明モ、司法大臣ノ御説明モ、結論ニ於テハ私ト同様デアリマスルケレドモ、遺憾ナコトニハ法律論トシテノ根據ヲ御示シニナツテ居ナイヤウデアリマス、唯、社會組織ノ根本ヲ破壊スルカライカスト云フヤウナ一般常識論トシテノ御議論デア

ルヤウデアリマシテ、法律論トシテノ根據ハ御示シニナツテ居ナイヤウデアリマス、私ハ此點ニ付テ申述ベテ見タイト思ヒマス、即チ私ガ何故ニ私有財産制度ヲ合法的ノ手段ヲ以テ變改スルト云フコトノ餘地ハナイト云フ議論ヲスルカト申シマスルニ、私ハ此論據ハ、我が帝國憲法ノ上論ノ一節ニ於テ、極メテ明瞭ニ御示シニナツテアルト云フコトヲ信ズルモノデアリマス、デ憲法ノ上論、即チ此七十六箇條ヨリ成ッテ居リマスル所ノ我が憲法ノ條章ノ前文トシテ示サレテ居リマスル所ノ上論ノ中ニ、此點ニ付テハ極メテ明瞭ニ示サレテ居ルデアリマス、即チ此上論ノ中ニ於キマシテ、我が國體ノ變革ト云フコト、臣民ノ財產權ノ根本的否認ト云フ此二ツノ點ダケハ、絶對ニ合法性ハナイト云フコトヲ明瞭ニセラレテ居ルデアリマス、詢ニ聖旨深遠デアリマシテ、唯、私共ハ恐懼ノ外ハナイノデアリマス、茲ニ謹デ私ハ上論ノ一節ヲ朗讀致シタイト存ジマス「國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ヲサルヘシ」次ハ「朕ハ我が臣民ノ權利及財產ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス——將來若此憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼承ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ」之ガ憲法上論ノ一節デアリマス、申迄モナク憲法ノ上論ハ一般ノ勅語ナリ或ハ詔書トハ違ヒマシテ、憲法ノ大精神ヲ宣明セラレテ居ル所デアリマス、實ニ我が建國ノ大本、歴史ノ精華ニ基キマ

シテ、又立國ノ基礎、國家ノ信念ニ基イテ居リマスル所ノ萬代不易ノ鐵案デアリマシテ、炳乎トシテ千載ヲ照スモノデアリマス、而モ此ノ上論ニ於キマシテ、特ニ我が國體ノ本質ト、臣民ノ人格、財產ノ安固ヲ確保シ給ヒタル以上ハ、憲法條章ノ變更或ハ法律ノ改廢ニ依リマシテ、此大精神ニ背反スルヤウナ手段ト云フモノニ、決シテ合法的可能性ヲ認メルコトガ出來ナイノデアリマス(拍手)即チ無政府主義ト同ジク、共產主義ノ完全ナル實現ニ付キマシテハ、絶對ニ合法的手段ナルモノヲ考察スベキ寸毫ノ餘地モナイノデアリマス(拍手)殊ニ況ヤ共產主義ノ實現、即チ私有財産制度ノ根本的否認ノ結果ガ如何デアリマス、獨リ社會組織ノ基礎ヲ破壊スルノミナラズ、左様ナル社會制度ノ下ニ於キマシテ、如何ニシテ我が萬世一系ノ國體ヲ擁護ガ出來ルノデアリマスカ、即チ共產主義ノ實現ト云フコトハ、其當然ノ歸結トシテ我が國體ノ變革ヲモ招徠スルモノト認メナケレバナリマセヌ(拍手)以上ノ理由ニ依リマシテ、共產主義ノ實現ト云フコトニ何等合法的可能性ノナイコトハ明瞭ナコトデアリマス、隨テ此法律案ニ對スル所ノ反對論ノ中心問題ト云フモノハ、私ハ消滅スルデアラウト思ヒマス(拍手)今日政治ヲ論ゼラル、方、法律ヲ論ゼラル、方々ハ、固ヨリ思想運動ニ從事セラレル人モ、又社會改善ニ力ヲ盡サレル人モ、先ヅ以テ我が憲法ノ大精神ヲ篤ト御諒解ニナルコトガ必要デアリマス、枝葉末節ノ——上訴權ガドウデアアル、議會ノ審議權ガドウデアアルト云フガ如キハ、憲法ノ大精神ヲ忘レタル枝葉末節ノ議論ト私ハ思フデアリマス(拍手)以上ノ理由ニ依リマシテ、私ハ本案ニ賛成ヲ表スル者デアリマス、併ナガラ私共ハ政治ノ進歩、文明ノ向上ヲ希

望シ、又社會組織ノ改善、産業制度ノ刷新ニ對シマシテハ、其緊切ナルコトヲ痛感スル者デアリマシテ、今後社會政策ノ實行ト云フコトガ恐ラク政府ノ中心問題デアラウト云フコトヲ信ズル者デアリマス、即チ飽迄思想、言論ノ自由ヲ尊重シ、又社會改善ノ發達ヲ熱望致シマスル上ニ於テハ、敢テ人後ニ落チザル積リデアリマス、併ナガラ此建國ノ大本、歴史ノ精華ニ基ク崇高森嚴ナル我が國體ト、立國ノ基礎、國民ノ信念ニ基ク社會組織ノ根本制度ニ對シマシテハ、斷乎トシテ之ヲ確守シ、擁護シナケレバナラスト思フデアリマス、即チ進ムベキハ進ミ、守ルベキハ守ルト云フコトハ、之ガ實ニ政治ノ要道デアアルト私ハ信ズルノデアリマス、簡單ナガラ私ノ賛成ノ理由ヲ申シマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 坂東幸太郎君

〔坂東幸太郎君登壇〕

○坂東幸太郎君 私ハ遺憾ナガラ此原案並ニ委員長ノ報告ニ對シテハ反對スル者デアリマス、先ヅ第一ニ私ガ考ヘテ見タイコトハ、斯ノ如キ特別ナル法規、而モ其内容ガ非常ニ重ク刑罰ヲ課スル所ノ法規ヲ作ル場合ニ當リマシテハ、其必要ナル所以ヲ十分ニ社會ニ公開スル必要ガアラウト信ジテ居ルノデアリマス、其理由ハ過日來政府ハ屢、本會議或ハ委員會ニ於テ、共產黨事件ニ類スルヤウナコトノ御發表ガアリマシタ、秘密會ヲ以テ——併ナガラ私ノ考ヘマス所デハ、是等ノ理由ハ尙ホ斯ノ如キ重大ナル法案ヲ作ル所ノ理由トシテハ、非常ニ薄弱ナヤウニ考ヘルノデアアル、先ヅ其一例トシテ申シマスルガ、政府ガ金科玉條トシテ居ル事件ノ其一ツ、ソレハ丁度私ノ選舉區デ起タ所ノ事件デアアル、ソレハ、鎖斷社ト稱スルモノデアリマスルガ、政府當局ノ説明ニ

依リマスルト、此鎖ヲ斷ツ社ト云フモノヲ殆ド共產主義或ハ無政府主義ノ結社ノ如ク言ハレタノデアリマス、然ルニ何ゾ團ラシ、ソレハ娼妓ノ自由廢業、娼妓ノ鎖ヲ斷ツト云フ意味ノ結社デアッタノデアリマス、サウシテ其事件ハ實ニ中央ノ警保局デハ重大ニ扱テ居リマスケレドモ、私ハ直ダ近所ノ人間デアル、旭川デハ何等問題ニシナイ所ノ事件デアル、サウシテ過日ソレ等ノ人ハ六箇月許リノ禁錮ニ處セラレマシタガ、而モ檢事ハ之ヲ控訴シテ居リマシテ、一般ノ旭川ノ市民ハ是ハ當然無罪ニナルベキ性質ノモノデアルト斯ウ云フコトヲ唱ヘテ居ル、此所ニ書面モアリマスガ——斯ノ如ク此問題ニ關聯致シマシテ、第七師團ノ小泉少將暗殺未遂事件ト云フモノガ、是ハ全然事實無根デアリマシテ、不起訴ニナッタ、斯ノ如ク其他ニモ澤山政府當局ハ舉ゲテ居リマスルガ、ソレハ殆ド全部新聞紙上ニ出タ事件デ、重イ者デモ一年カ、ソコラノ刑罰ニ過ギナイノデアアル、斯クノ如キ微細ナルモノヲ恰モ大ナル事件ノアルガ如ク秘密會ニ對シテ、サウシテ國民ノ公正ナル輿論ヲ聽カイト云フコトハ、實ニ政府ノ意思ガ奔逸ニアルカ、之ヲ私ハ疑フノデアリマス、ソレハ若槻內相ノ御説明ノ中ニモ、無政府主義、共產主義ガ非常ニ跋扈シテ居ルカノ如ク唱ヘテ居リマシテ、而モ其内容ニ至リマシテハ以上ノ如ク極メデ微細ナルモノデアリマスルガ故ニ、而モ直ニ十箇年ノ禁錮ニ處スルガ如キ、サウ云フ重イ刑罰法規ヲ作ルト云フコトハ、却テ國民ノ思想ニ於テ大ニ吾々ハ考ヘテ見ナケレバナラヌ點ト思フノデアリマス、又屢、本會議若クハ委員會ニ於テモ質疑應答ガアリマシタ如ク、此法規ハ如何ニ辯ジマシテモ、其法文ハ明確デハナイト云フコトハハ一點疑

ノナイコトデアアル、勿論國體ノ變革ト云フコトニ付キマシテ、若モ日本ノ國ヲ君主國カラ共和國ニスル、斯ウ云フコトガアルニ付キマシテハ、誰一人トシテ全然サウ云フ說ヲ否認シナイ者ハアリマセヌ、併ナガラ實際ニ當リマシテハ憲法ノ中ノ條文或ハ軍隊ノ統帥權ニ關シ、若クハ宣戰、講和、其他天皇ノ大權事項ニ關シ、憲法ノ改正論ヲ主張シタ場合ニ於テ、是ハ見様ニ依テハ矢張國體ノ變革トシテ手加減サレル憂ガアルト云フコトハ、今カラ考ヘテ居ラナケレバナラヌノデアアル、斯ウ申シマスルト、ソレヲ適用スル所ノ役人ノ罪デアアル、斯ウ申シマセウガ、諸君モ吾々モ其役人ガ法律ヲ濫用シタガ爲ニ、非常ナル苦ミヲ受ケタコトガ度々アリマス、私ハ大正四年以來普通論ヲ唱ヘテ居リマスガ、而モ一時ハ過激論者トシテ「フラック、リスト」ニ載ッタ、大正四年ニ東京ニ參リマシタガ刑事事蹟イテ來タ、而モ私ハ內地ニ於テハ右傾派ノ人間トシテ、自ラ國家主義ヲ宣傳シテ居ル所ノ者デアアル、而モ時ノ政府ノ怒ニ觸ルヤ左傾派トシテ「フラック、リスト」ニ載セラレタ例ガアル、此例カラ考ヘマシテモ司法官並ニ警察官ガ、若槻內相ノ如キ立派ナル人格者ナラバ決シテ間違ヒハナイケレトモ、サウ云フ譯ニハ往カヌ、故ニ此法律ガ濫用セラルル虞ガアルト云フコトハ、是ハ一見自明ノ理デアルト考ヘルノデアリマス、又議會ノ否認論ヲ取締ルト云フ御説ガアッタノデアリマス、私ハ國家主義者ノ見地カラ致シマシテ、自分ノ友人ニモ議會否認論者モアリマシタ、併ナガラ如何ナル機會ニ於テモ、議會否認論ニハ眞向ニ反對シテ來タ人間デアアル、所ガ彼ノ震災前カラ見

レバ、議會否認論ハ非常ニ下火ニ成テ、今ヤ國家主義ガ非常ニ盛ニナッテ來タノデアアル、彼ノ大正十一年過激思想取締法案ノトキニ比較致シマシタナラバ、此過激ナル思想ト云フモノハ餘程弱クナッテ居ルト云フコトヲ、私ハ堅ク信ジテ疑ハナイ、議會否認論ノ如キハ一種ノ政治思想ノ問題デアルト考ヘル、政治思想ノ問題ハ宜シク思想ヲ以テ對抗スベキデアアル、私ハ思想ヲ以テ之ニ對抗シ、今ヤ自分ノ主張ガ勝テ居ルト信ジテ居ル、横山君モ言ハレマシタガ、如何ニ辯テ弄シマシテモ、二三年前ヨリハ今日ノ方ガ確ニ思想ハ穩健ニナッテ居ルノデアアル、尠クトモ議會否認論ト云フモノハ、今ヤ下火ニナッテ居ルト云フコトハ私ハ斷言シテ憚ラヌノデアアル、併ナガラ此議會否認論ト云フコトニ付テモ尠クトモ三個ノ觀察ガアルノデアアル、ソレハ下カ方所謂人民側カラ過激的ニ議會ヲ否認スルト云フノモ是モ一ツデアアルケレドモ、政治家ガ或一ツノ政治ノ理想ニ基キテ其說ヲ唱フルノモ一ツデアアル、又一ツハ議會ガ或ハ遠キ將來ニ於テ如何ナル形勢ニナルカモ知レヌ、其時ニハ斯カル議會ヲ置クヨリハ、寧ロ所謂君主獨裁政治ト云フヤウナ一ツノ意味デ、上カラ議會ヲ否認スルヤウナ意味ノ政治ガ起ルカモ知レヌ、尠クモ三個ノ場合ヲ私ハ想像スルノデアリマス、然ルニ之ヲ一括シテ議會否認論ナルガ故ニ、是ハ國體ヲ變革スルトカ、若クハ政體ヲ變革スルモノデアルト斷ジテ、之ヲ國賊板ニスルト云フコトハ、少シク早計デアルマイカト考ヘル、殊ニ又今後我國ノ重大問題トナルベキハ、朝鮮、臺灣ノ問題デアラウト思ヒマス、此朝鮮、臺灣ノ問題ニ付キマシテモ、或ハ非常ニ廣キ範圍ノ意味ノ自治權ヲ主張シタ場合ニ、是モ若シ此法規ヲ濫用スルナラバ、矢

張國體ノ變革、政體ノ變革トシテ之ヲ取締ルト云フコトニナル、然ラバ朝鮮臺灣ト云フ所ノ日本ニ於テハ實ニ大ナル問題デアアル、之ニ向テ益、油ヲ注グト云フ結果ヲ生ズルノデアリマス、此點ハ實ニ吾々ハ重大ナル關係ヲ持テ居ルト思フノデアアル、次ニ私有財産ノ否認デアリマスガ、先程山崎君モ言ハレマシタ、言ハレマシタガ、併ナガラソレハ少シ徹底シナイ點ガアル、私有財産ノ否認ト申シマシテモ、合法的アリ不法アリ、或ハ任意的ニ否認スルト云フ說モアル、合法的ノ否認ト云フコトハ確カ政府モ答辯ノ中ニ在ッタヤウニ考ヘル、政黨ガ院外ニ於テ合法的ノ手段ニ依ッテ、或意味ノ財産否認ヲスル、是ハ有り得ベキコトデアルト云フコトヲ政府委員モ言ハレタノデアアル、然ルニ山崎君ハ、ソレハ有り得ベカラザルコトニ申シマシタガ、私ハ山崎君トハ全ク意見ヲ異ニスル(拍手)是等ノコトハ是ハ合法的デアル場合ニハ、即チ政黨ガ其政綱トシテ、或ハ其他ノ手段ニ依ッテ、之ヲ主張スル場合ニハ、其幾部分ハ政府ガ認メテ居ルト云フニ拘ラズ、之ヲ議院ノ中ニ於テ合法的ノ私有財産ノ否認ハ有り得ベカラザルト云フコトハ、是ハ一大矛盾デアルト言ハナケレバナラヌ(拍手)私ハ必シモ輿論ニ追隨スル者デハナイ——追隨スル者デハアリマセヌガ、代議政體ハ申スマデモナク輿論政治デアアル、故ニ追隨ハ致シマセヌケレドモ、輿論ノ趨向ハ須ク冷靜ニ之ヲ見ル必要ガアラウト考ヘル、然ルニ本問題ニ對スル輿論ノ趨勢ヲ見マスルト、少クトモ中央ノ新聞ノ殆ド全部ハ反對ノ意思ヲ表明シテ居リマス、又學者モ過半數ハ之ニ反對シテ居ルノデアアル、サウシテ勞働者モ——地方ハ知リマセヌガ、先ヅ東京邊リデハ是モ少クトモ過半ハ反對ノ意思ヲ表明シテ居

ルノデアリマス重ネテ申シマス、私ハ決シテ輿論ニ追隨スアル者デハアリマセヌ、併ナガラ今日此輿論ノ趨勢ハ斯ノ如キモノデアルト云フコトヲ私ハ斷言シテ憚ラヌノデアアル(拍手) 次ニ此法律ハ極メテ誤解シ易イ所ノ法律デアアル、斯ウ申シマスレバソレハ誤解スル方ガ惡イト屹度申スノデアリマセウ、併ナガラ諸君、此誤解ヲ解イテ輿論ヲ徹シテ適當ナル時機ニ於テ誤解ナシニ作シテモ遅クハナイデアリマセヌカ、作ラネバナヌ所ノ此事件、ソレヲ天下ニ公表シテ、サウシテ國論ノ歸スル所ヲ見テ、ソレカラ作シテモ少シモ遅クハナイト私ハ信ジテ居ルノデアアル、諸君誤解——誤解ハ實ニ恐ルベキモノデアル、故ニ其誤解シタ者ガ惡イトハ申シナガラ、其誤解ガ國民ヲ擧ゲテ或ハ數十萬數百萬ノ者ガ誤解ヲシタナラバ、或場合ニハ社會動亂ノ原因トモナリ、又實ニ此社會ニ非常ナル禍ヲ醸スト云フコトハ、是ハ私ガ論ズルマデモナイコトデアアル、先程申シマシタ如クニ、司法官ヤ警察官ガ現在ノ政府當局ノ如クニ、殊ニ内務大臣ノ如クニ、誠ニ立派ナ人格ノ所有者デアラナラバ、私ハ必シモ反對ハシナイ、ケレドモ數十萬ノ司法官、數十萬ノ警察官ハ、必シモ全部サウトハ申サレヌ、ソコガ即チ實際問題トシテ非常ニ危險ガ存在シテ居ル所デアラウト考ヘル、況ン今日ノ如キ立憲内閣ナラバ宜シイガ、或ル場合ニハ此反動的ノ官僚内閣ノ出現モ考ヘテ見ナケレバナラス、若シ不幸ニシテ將來日本ニ反動的ノ内閣ガ起ラ場合ニ於キマシテハ、此法律ハ濫用セラレルト云フコトハ、殆ド火ヲ賭ルヨリモ明カデアルト私ハ思フ、斯ノ如キ此法律ハ、其無政府主義、共產主義ヲ取締ルト云フコトニ付キマシテハ、其主意ニ於テハ決シテ反

對デハナイガ併ナガラ國民ノ十分ノ諒解ガ得テ居ラナイ、又一面ニハ確ニ濫用セラレル危險ガ存在シテ居ル、ソレハ條文ガ不明確ノ故デアアル、故ニ十分ニ國論ヲ徹シテ、サウシテ内容ヲ公開シテ國論ノ趨ク所ニ依シテ、ドウシテモ斯カル法律ヲ作ラナケレバナラストシタナラバ、明確ナル法律ヲ作ル方ガ宜シイト考ヘル、先程横山君ハ此法律ニ反對スル者ハ、ソレハ反對センガ爲メノ反對カ、或ハ無政府主義者カ、共產主義者デアルト申サレマシタガ、私ハ横山君ノ大膽ニ向テ或ル意味ノ敬意ヲ表シマス、併ナガラ横山君ノ人格ノ爲ニ、ソレヲ非常ニ惜ム、私ハ右傾派ノ一人デアルトコトヲ斷言シテ憚ラヌ、右傾派ノ一人デアリマスガ、決シテ無政府主義、共產主義者デハアリマセヌ、斯ノ如キ法律ヲ作ルト云フコトハ、實際ニ於テ五百万ノ勞働者ヲシテ誤解セシメル、誤解セシメタ結果ハ思想ヲ惡化サス所ノ傾ガアル、斯ウ云フ考ヲ持テ居ルノデアアル、徒ニ反對センガ爲メノ反對ナリト貶シ、或ハ無政府主義者、共產主義者ナリト云フコトハ、餘リニ大膽過ギルト私ハ考ヘルノデアリマス、先程申シマシタ如クニ、今日ノ政治思想界ノ現狀ハ、確ニ震災以前ヨリハ穩和トナツテ居リ、又議會否認論モ以前ヨリハズト下火ニナツテ居ル、故ニ今俄ニ斯カル不明確ナル法律ヲ設ケ、サウシテ勞働者ノ思想或ハ考ヲ誤ラシメルヨリハ寧ろ國論ノ歸スル所ヲ知り内容ヲ明確ニ發表シテ、サウシテ靜ニ完壁ナル所ノ法律ヲ作ル方ガ、實際思想善導ノ意味ニ適フト思フノデアリマス、私ハ斯カル意味カラ致シマシテ、此法律案並ニ委員長ノ報告ニ反對シ、適當ナル時機ニ於テ立派ナル完全無缺ナル法律ヲ作ル方ガ宜シイト云フ意見ヲ持ツテ居ルノデアリマス、之ヲ以テ私ノ意見ト致シマス(拍手)

意見ト致シマス(拍手) ○副議長(小泉又次郎君) 板野友造君 ○板野友造君 無政府主義ハ姑ク措キマシテ、共產主義、此共產主義ハ學問上ノ研究問題トシテハ、十分ノ價值ガアリマセウ、之ヲ社會學ノ上ヨリ見、之ヲ經濟學ノ上ヨリ見テ、種々ノ方面カラ研究スベキ問題デアルコトハ、私共深ク之ヲ認ムル、認ムルカ現在ニ於テ——現在ノ日本ニ於テ、然ラズ世ニ所謂共產主義ナルモノハ之ヲ認メラルカ、理論ハ別デアアル、實際ニ於テ日本ノ國家、日本ノ社會ニ於テ、共產主義ト云フモノハ如何デアアルカト斯ウ申シマスレバ、是ハ言フマデモアリマセヌ、之ヲ容ル、ノ餘地ハナイ、斷ジテハ叩付ケネバナラス、是ハ殆ド議論ハナイダラウト思フ、ソレカラ無政府主義ニ至リマシテハ、是ハ勿論何等此處デ彼此申ス必要ハナイ、本件ハ世ニ所謂無政府主義、世ニ所謂共產主義ヲ取締ル爲ニ發案シタモノデアルト云フコトハ、政府モ聲明スル所デアアル、唯、無政府主義ト云フ文字ヲ避ケ、共產主義ト云フ文字ヲ避ケタ所以ノモノハ、無政府主義或ハ共產主義ト云フコトハ、社會上ニハ自ラ定マレル意義ハアルケレドモ、未ダ法律語トスルマデニハ之ガ熟シテ居ナイ、ソレデアルカラ最モ嚴正ヲ尙フ法律上ノ言葉トシテハ避ケナケレバイケヌカラ、無政府主義ニ代ユルニ國體ノ變革、政體ノ變革、此ニソノ文字ヲ以テスル、共產主義ニ代ユルニ私有財産制度ノ破壊、此文字ヲ以テシタト云フコトハ、今日マデニ於テ洵ニ明カニナツテ居ルノデアアル(拍手) 本案ハ一口ニ言ヘバ、世ノ中ニ所謂無政府主義或ハ共產主義、其目的ヲ以テ結社ヲヤル、其取締デアルトコトハ何モ議論ハアリマセヌ、而シテ今日ニ於

テ我ガ日本ノ國家ニ於テ、我ガ社會ニ於テ、此無政府主義、共產主義ハ斷ジテ容スベカラザルモノデアアル、斷ジテハ排斥シナケレバナラスモノデアアル、是ハ殆ド私辯明ノ必要ハナイト思フ、然ラバ問題ハ今日ノ社會ニ、今日ノ此現狀ニ於テ此立法ガ必要デアルカドウカ、此一點デアリマス、必要ナシト云フノデアアルナラバ、國家社會ノ爲ニ洵ニ慶賀ノ至リニ堪ヘナイ、此點ハ私諸君ト共ニ靜ニ究究シ且ツ決定ヲ致シタイ、不幸ニシテ無政府主義、不幸ニシテ共產主義、之ヲ宣傳シ若クハ之ニ依ツテ結社ヲスル者ガアリ、之ヲ取締ルノ必要ガアルト云フナラバ、之ニ適應スルノ法律ハ已ムヲ得マセヌ、私共ハ今日マデ實際ニ於テ無政府主義者ノアルコトモ知ツテ居リマス、共產主義者ノ有ルコトモ知ツテ居ル、且ツ之ニ依ツテ不幸ニモ日本ニ於テ其結社ノ實現シタコトモ亦之ヲ知ツテ居ル、而シテ政府モ亦此事ヲ議會ニ報告シ材料ヲ提供致シテ居ルノデアアル、然ラバ理窟ハ別デアアル、必要デアルナラバ之ニ對應スルダケノ立法ヲスルト云フコトハ、洵ニ已ムヲ得ザル次第デアアル、理論トシテ學問ノ研究トシテ、或ハ共產主義ヲ彼此スル是ハ別個ノ問題デアリマス、ソレカラ武藤君ナドノ仰シタル、ナゼ斯様ナ怖ルベキ世態ヲ呈シタルカ、此原因ハ爲政者ニ在ルナドト、ソレハ別個ノ問題デアアル、誰カノ責任デアアル、如何ナル原因デモ宜シイ、原因ハ問ハヌ、今日不幸ニシテ此法律ヲ必要トスルニ至ツタノデアリマスカラ、吾々ハ遺憾ナガラ此立法ヲ賛成スル者デアリマス ○副議長(小泉又次郎君) 井本常作君 ○井本常作君 本案ニ對スル第一讀會ノ討論ハ之ヲ以テ終結セラレンコトヲ望ミマス

〔賛成〕賛成ト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 井本常作君ノ動議ニハ御異議ナシト認メマス、仍テ討論ハ終結セラレマシタ、本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤニ對シテ、湯淺凡平君外二十六名ヨリ此採決ハ記名投票ヲ以テスヘシト云フ要求ガアリマス、仍テ記名投票ヲ以テ決シマス

〔贊成〕贊成ト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ハ白票、開クベカラズトスル諸君ハ青票ヲ御持テテ願ヒマス、閉鎖——氏名點呼ヲ命ジマス

〔書記官氏名ヲ點呼ス〕

○副議長(小泉又次郎君) 時間ヲ延長致シマス——投票漏ハアリマセヌカ——投票漏ハ無イト認メマス——投票函閉鎖——開匣——閉鎖——投票ノ結果ヲ書記官長ヨリ報告致サセマス

〔中村書記官長朗讀〕

投票總數 二百六十四

可トスル者 白票 二百四十六

否トスル者 青票 十八

〔拍手起ル〕

○副議長(小泉又次郎君) 仍テ本案ハ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○作間耕逸君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 作間君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ第二讀會ヲ開キ議案全部ヲ議題ト致シマス

治安維持法案

○副議長(小泉又次郎君) 本案ニ對シテハ、中村啓次郎君外三名ヨリ修正案ガ提出サレテ居リマス、其修正ノ趣旨辯明ヲ許シマス——中村啓次郎君

治安維持法案ニ對スル修正案

○副議長(小泉又次郎君) 時間ヲ延長致シマス——投票漏ハアリマセヌカ——投票漏ハ無イト認メマス——投票函閉鎖——開匣——閉鎖——投票ノ結果ヲ書記官長ヨリ報告致サセマス

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 作間君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ第二讀會ヲ開キ議案全部ヲ議題ト致シマス

治安維持法案

○副議長(小泉又次郎君) 本案ニ對シテハ、中村啓次郎君外三名ヨリ修正案ガ提出サレテ居リマス、其修正ノ趣旨辯明ヲ許シマス——中村啓次郎君

治安維持法案ニ對スル修正案

○副議長(小泉又次郎君) 時間ヲ延長致シマス——投票漏ハアリマセヌカ——投票漏ハ無イト認メマス——投票函閉鎖——開匣——閉鎖——投票ノ結果ヲ書記官長ヨリ報告致サセマス

治安維持法案中左ノ通修正ス

第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シ又ハ情ヲ知りテ之ニ加入シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

私有財産制度ヲ根本ヨリ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シ又ハ情ヲ知りテ之ニ加入シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

本條第一項第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二條 前條第一項ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ勸誘ヲ爲シ又ハ之ニ應シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三條 左ノ一項ヲ加フ

第一條第二項ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ヲ煽動シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第四條 左ノ一項ヲ加フ

第一條第二項ノ目的ヲ以テ騷擾、暴行其ノ他生命、身體又ハ財産ニ害ヲ加フヘキ犯罪ヲ煽動シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第五條 中「第一條第一項」ノ下ニ「第二項」ヲ加フ

〔中村啓次郎君登壇〕

○中村啓次郎君 諸君、私共ヨリ提案致シタル修正案ニ付キマシテハ、其修正ノ主ナル事項ニ付キマシテ、大要ヲ茲ニ説明ヲ致シタイト思フノデアリマス、暫クノ間御清聴ヲ願ヒマス、過日來委員會ニ於ケル政府當局ノ我が政體ニ關スル意義ニ答辯ハ、甚ダ吾々ノ不満足ト致シタル所デアリマス、

即チ我が政體ハ申スマデモナク憲法上ノ統治組織ハ立法、司法、行政ノ此三權ガ分立

致シテ居ルノデアリマス、然ルニ政府當局ノ説明スル所ニ依リマスルト云フト、我が政體ノ根幹ハ、民選代議制度デアッテ、憲法上ノ天皇ノ大權モ、司法制度モ共ニ其從屬デアルカノ如ク言ヒ爲サレテ居ルノデアリマス、假令司法制度ヲ全廢致ス場合ガアッテモ、假令憲法上ノ天皇ノ大權ノ大部分ニ對シテ制限ヲ加ヘル者ガアッテモ、是ハ本法ニ謂フ所ノ、政體ノ變革ト云フトニ當ラナイノデアルト云フガ如キ説明ヲサレテ居ルノデアリマス、單リ委員會ニ於テ斯ノ如キ我が政體ノ上ニ紛更ヲ試ムルヤウナ言葉ヲ承テバカリデナク、當議場ニ於キマシテモ、本法案ガ提出セラレマシタル當時ニ、若槻內務大臣ノ御演說中ニモ亦私共ノ遺憾ニ感ジタ點ガアルノデアリマス、ソレハ若槻內務大臣ハ本案提出ノ當時ニ於キマシテ「我が立憲政體ヲ變革シテ、議會否認ヲ爲スト云フヤウナコトヲセントスルヤウナ事柄」ト申サレ、又星島二郎君ノ質問ニ對シテ答ヘタル所ニ依リマスルモ、速記録ニ依レバ斯様ニ申サレテ居ルノデアリマス「我が日本ニ於テ今日日本ノ政體ガ如何ナルモノデアアルカト申セバ、即チ立憲政體デアリマス、代議政體デアアルノデアリマス、之ヲ破壞セントスル者ガアルナラバ、此法律ニ依ッテ取締ルト云フノデアリマス」斯様ニ申サレテ居ルノデアリマス、併ナガラ我國ノ政體ハ決シテ單純ナル立憲政體デモナケレバ、單純ナル代議政體デモナイノデアリマス、我が憲法ハ天皇ノ統治權運用ノ方面、即チ統治組織ノ方面ヨリ見マシテモ、常ニ天皇ノ統治權ノ活用ノ致シテ居ルコトハ明カデアリマス、立法權ニ於キマシテモ、御互ガ此處デ協賛致シマス、其協賛致シマ

シタルモノニ對スル裁可權ハ、天皇陛下ガ之ヲ有スルノデアリマス、又議會ニ對シテ解散權ヲ御持ニナッテアラセラルルノデアリマス、司法、行政何レニ致シマシテモ、委任シ放シニ致シマシテ、天皇ガ何等之ヲ總攬セラレナイト云フヤウナコトハナイノデアリマスルガ故ニ、我が統治ノ大權ハ、天皇ニ於テ常ニ總攬シ給フコトガ我が政體デアアルノデアリマス、萬世一系ノ天皇ノ統治權ノ所在ハ國體デアルト云フ解釋ハ是ハ當テテ居リマス、萬世一系ノ天皇ノ統治權ノ所在ガ國體デアルト同時ニ、萬世一系ノ天皇ノ統治權ヲ行用致シマスル其行用ヲ、此憲法ノ條章ニ依ッテ運行スルト云フコトガ我が政體デアアルノデアアル、即チ天皇ヲ離レテ我が國體ナク、天皇ヲ離レテ我が政體ハ無イノデアアル、此故ニ我が政體ハ君主立憲政體ト申スカ、又ハ立憲君主政體ト申サナケレバ相成ラナイノデアアル、立憲政治ト申シマスレバ、此立憲政體ノ中ニハ代議政體ガ包含サレマスケレドモ、單ニ立憲政體ト申シタダケデハ、君主立憲政治ハ包含サレナイ、即チ立憲政體ト申シタダケデハ、君主ハ之ニ包含サレナイノデアリマス、今や國民ニ對シテ國體政體ヲ尊重シ、忠君愛國ノ精神ヲ旺盛ニスベク萬一萬ガ一ニモ我が帝國ニ於テ絶エテ無クシテ、而シテ稀ニ有ルヤウナ事件ノ發生致シタ場合ニ、之ヲ取締ラウト云フ此法案ノ說明ニ當ッテ、當局大臣タル者ガ此「君主」ノ二字ヲ申スコトヲ忘レタルガ如キハ、千秋ノ恨事ト私ハ思フノデアリマス、「君主」ノ二字ハ我が國民ノ造次ニモ顛沛ニモ寤寐ニモ忘ルルヤウナコトアルベキ事柄デハナイノデアアル、一般國民ニシテ尙且ツ然リ、況ヤ天皇ヲ輔弼スル國務大臣ニ於テヤデアリマス、私共ガ此「政體」ノ二字ヲ此法案カラ削除スル

第一ノ理由ハ、即チ如何ニモ此數日來政府當局ガ我が政體ヲ説明スルニ當リテ、其政體ノ意義ガ偶以テ我が立憲君主國ノ此政體ノ本義ヲ紛更スル嫌アルコトヲ認メマシタカ故ニ、此「政體」ノ二字ヲ削除セント致シタ、是ガ即チ其第一ノ理由デアリマス、

「政體」ノ二字ヲ削除致シマスル第二ノ理由ハ、先程來委員長、或ハ横山君ニ依ッテ説明サレタルガ如ク、政府當局ガ此法律ニ依ッテ取締ラント欲スル所ノモノハ、大體ニ於テ無政府主義又ハ共產主義者ヲ取締ラウトスルノデアルト云フコトデアル、ソレナレバ無政府主義者ト云フモノハ統治權力ノ否定ヲ主張スル者デアル、我が國體ハ統治權力ノ所在デアル、其統治權力ノ所在ニ對シテ變革ヲ試ムルニ非ザレバ、無政府主義者ハ其主義ヲ斷行スルコトハ出來ナイノデアル、故ニ既ニ國體ニ關スル規定ヲ存シタル以上ハ、此無政府主義者ヲ取締ルノニハ必シモ難イ事デハナイト考ヘラレタノデアアル、此點ハ私共ハ與黨諸君ノ此「政體」ノ二字ヲ除カウトスル方ニ其所見ヲ同ジウスルノデアリマス、ソレカラ第二國體ニ關スル規定ト、私有財産制度ニ關スル規定ヲ別項ト致シマシテ、且ツ之ガ刑罰ニ等差ヲ付ケマシタル點ハ、私共修正ノ第二點デアリマス、此點ニ付キマシテモ簡單ニ其理由ヲ説明致シタイ、我が國體ハ只今モ申シマスルヤウニ、又皆サンモ御了承ニ相成ッテ居ル通り、萬世一系ノ天皇ヲ統治權ノ所在デアリマシテ、絕對尊嚴ヲ維持シナケレバナラヌモノデアリマス、絕對不可侵デアリマス、如何ナル方法ヲ以テシテモ一指モ染メルコトノ出來ナイ所ノモノデアリマス、之ヲ想フ異ニ致シマシテ、私有財産制度ハ時代ノ推移ニ依リマシテハ、合法的手段ヲ以テマシテ變更シ得ベキ時ナキヲ期シ難イノ

デアリマス、斯ル性質ノ上ニ大ナル懸隔ノアリマスルモノヲ、玉石同架シテ同項ニ之ヲ規定スル上云フガ如キハ、我が國民精神ノ上ニ於キマシテモ、決シテ適當ナル立法ノ方法デナイト思量致シマシテ、是ハ別項ニ規定致スコトニ致シタルデアリマス、國體ニ關スル犯罪ト、私有財産制度ニ對スル犯罪ニ對シマシテ刑罰ニ等差ヲ設ケマシテ、前者ハ十年以下トシ、後者ハ原案ヨリ三年ヲ輕減致シマシテ七年以下ト致シマシタルコトハ、我國ニ於キマシテ只今モ申シマスル通り、國體ニ反抗ヲ試ムルコト云フガ如キ大逆無道ニ對シテハ、天人共ニ憤ル所ノモノデアリマシテ、假令其行爲ガ豫備デアラウガ、豫備ノ豫備デアラウガ、端緒デアラウガ、之ニ對シテ刑罰ヲ加ヘントスルハ、我が國民感情ノ一致スル所デアルト考ヘルノデアリマス（拍手）私有財産制度ニ對スル犯罪ト其刑罰ヲ同一ニスルト云フガ如キコトハ、決シテ公平ナル刑罰規定ニ非ズト認メマシタガ故ニ、此刑罰ノ上ニ等差ヲ設ケタノデアリマス（拍手）第三ハ「私有財産制度ヲ根本ヨリ否認スル」ト修正致シマシタル點デアリマス「根本ヨリ」ノ四字ヲ加ヘタノデアリマス、私有財産制度ノ一部ノ否認ハ、本法ノ間フ所デナイト云フコトハ政府當局ノ屢々説明サレタル點デアリマス、私有財産制度ヲ根本ヨリ破壞スルニ非ザル程度ノ勞働運動ノ如キハ、毫モ本法刑罰ヲ被ムル所ノモノデナイト云フ以上ハ、此點ヲ常識的ニ明ニスル爲ニ「根本ヨリ」ナル通俗的ノ文字ヲ添加シテ立法スルコト云フコトハ、適當デアアルマイカト考ヘタノデアリマス、此立法ノ趣旨ヲ明ニシマスル爲ニ、政府當局ノ委員會ニ於ケル説明ノ要點ヲ紹介致シテ置クコトガ必要デアラウト思フノデアリマス、極メテ簡單ニ申上ゲマスカラ其積リデ御聽

取ヲ願ヒマス、山根委員及星島委員ノ質問ニ對スル政府當局ノ答辯ノ一齣デアリマスルガ「此法律ノ保有スル所ハ所有權ノ基礎私有財産制度ノ根本ヲ否認スルダケテアテ、其他ノ憲法上ノ財產關係ニ關スルモノハ本法ニ關係ガナイノデアリマシテ、其範圍内ニ於テ所有權使用收益ノ關係等ニ付テ、色ミト經濟學社會學ノ原則カラシテ改革ヲ企テタリ、綱領ヲ揭グタリスル者ハ認メラレノデアリマス、唯、根柢ヲ否認スルモノダケハ政黨トシテ認メラレナイト斯ウ云フコトヲ申上ゲタノデアリマス」ト申サレテ居ルノデアリマス、ソレカラ清瀨君ノ質問ニ對スル答辯ノ一齣ニ斯様ナコトヲ申サレテ居ルノデアリマス「我國ニ於キマシテ漸次私有財産制度ト云フモノヲ否定シテ行カナケレバナラヌ、斯ウ云フコトヲ言ウタカラト云ウテ、直ニ本法ニ根柢スルモノトハ考ヘナイノデアリマス、本法ハ今日直接ニ私有財産ト云フモノハイカヌ、是ハ根柢カラ破壞シナケレバナラヌ、斯ノ如ク急激ニ直接ニ論ズルコトヲ以テ不都合ナリト考ヘル次第デアリマス」斯様ニ申サレテ私有財産制度ノ根本マデモ否認スル、或ハ根柢ヨリ否認スルト云フコトヲ常ニ申サレテ居リマスルガ故ニ、此言葉ヲ採リマシテ、通俗的ニ、常識的ニ本法ノ上ニ立法ノ方法ヲ民衆化シマシテ、特ニ此四字ヲ加ヘタ次第デアリマス、此點ヲ御諒承願ヒマス、ソレカラ第四ハ第二條ノ「協談」ノ二字ヲ「勸誘」ト修正致シマシタル點デアリマス「協談」ノ文字ハ先程委員長カラモ許シク御説明下サレマシタヤウニ、何カ一ツヤラウヂヤナイカ、斯ウ云フヤウニ相談スル、向フノ方ハ私ハヤリマセヌト云フコトデアアルナラバ、相談ガ兩方ナガラ成立シナイモノデアルヤウニ考ヘマスルニ拘ラズ、即チ其事

ノ協議ガ成立タナイデモ、協議ヲ申出タ者ハ罰セラレルコトヲ規定シテ居ルト云フコトヲ當局ハ申スノデアリマス、ソレナラバ協議ト云フコトデナシニ、モウ少シ強ク積極的ニ追被セテ、一ツ突込シテ勸誘スル、勸メル誘フト云フヤウナ程度ニ文字ヲ變ヘタ方ガ、一方勸誘者ヲ罰スル、而シテ其勸誘ニ應ズル者ガアツタ場合ニ其者ヲ罰スルト云フコトガ、如何ニモ明確デアラウト思ヒマシテ「協談」ノ二字ヲ「勸誘」ノ二字ニ變ヘタ次第デアリマス、以上ハ修正意見ノ大要デアリマスガ、終リニ臨ミマシテ一言試ミタイコトハ、今ヤ現内閣ノ威信ハ全ク地ニ墜チテ行ハレナイデ、輦轂ノ下毎自強盜、放火、殺人、斯ノ如キ事件ガ日々數件ニ上テ居ルノデアリマス、或ハ暴力團ノ政敵ヲ威壓スル者アリ、斯ノ如キ不祥事ノ頻發スルコトハ我國未曾有ノ現象デアルノデアリマス（拍手）而シテ我國ニ是等ノ者ヲ制裁スル所ノ刑罰法規ハ無イカト云ヘバ、刑罰法規ハ現存致シテ居ル、刑罰法規ガ廢シテ居ッテ、而シテ斯ノ如キ事件ガ頻發シテ居ルノデアアル、今ヤ嚴重ナル刑罰法案ヲ出シテ、而シテ治安ヲ維持シヤウト云フ場合ニ當リテ嚴罰法規ガ存在シテ居ッテモ尚且ツ斯ノ如キ或ハ強盜、或ハ放火、或ハ殺人、斯ノ如キ事ガ輩殺ノ下銀座ノ真中ニ於テ行ハレテ居ルト云フヤウナ、斯ノ如ク綱紀ガ廢頽シ、政府ノ威信ガ地ニ墜チテ居ル、此政府ガ此法案ヲ提出スルト云フコトハ僭越至極ト思フノデアアル（拍手起ル）併ナガラ其提出スル者ハ如何ナル者デアリマシテモ、苟モ此法案ガ此議會ニ整屬致シマスル以上ハ、吾々ハ之ニ對シテ其職責ヲ行ハナケレバナナイノデアアル、是ガ即チ本修正案ヲ提出シタル所以デアリマス、何卒御協賛アランコトヲ望ミマス

○副議長(小泉又次郎君) 修正案ニ對シテ
反對賛成ノ通告ガアリマス、通告ノ順序ニ
依テ許可致シマス、廣瀬德藏君

〔廣瀬德藏君登壇〕

○廣瀬德藏君 我ハ委員長ノ修正案ニ賛成
ヲ致シ、政友本黨提出ノ修正案ニ反對ヲ致
ス者デアリマス、論議既ニ殆ド盡キテ居ル
ト存ジマスノデ、極メテ簡單ニ所信ヲ述ベ
タイト存ジマス、原案ノ中デ「政體」ノ文字
ヲ取去ラレタ後ニ於キマシテハ、議論ノ範
圍ガ極メテ狭クナッテ居ルノデアリマス、
國體ト私有財産、私ハ委員會ニ於テ國體ヲ
變更スルコトニ關シテ、上奏ガ出來ルカ出
來ヌカト云フヤウナ議論ノアツタコトヲ深
ク悲ム者デアル、國體ノコトハ吾々臣民ト
シテハ議論ナドヲスル餘地ノアルモノデハ
ナイ、左様ナ事ヲ考フベキモノデナイノデ
アル、左様ナ事ヲ考ヘナケレバナラヌ時ハ
即チ革命ノ時デアル、吾々ハ左様ナ事ヲ夢
想ダモスルコトヲ好マナイシ、又シテナラ
ヌト存ズルノデアル、故ニ「國體」ナル文字
ガ善イトカ惡イトカ云フヤウナコトヲ、今
更ニ意見ヲ述ブル必要ハ斷ジテ無イ、殘
ル所ハ唯、私有財産ノ點デアリマス、私此
委員長ノ報告ノ修正案ニ對シテ、世上尙ホ免
角ノ論ガアリ、又此院內ニ於テモ少數ノ方
方ハ反對ヲサレル、此反對ニハ誤解ノ點ガ
アルノデハナイカ、其下ニ横ッテ居ル所ノ
思想ノ根據ニ於テ、誤ッテ居ルモノガアル
ノデハナイカト思フノデアリマス、委員會
ニ於ケル質問應答ヲ聽キマシテモ、共產主
義ハ善イトマデ言ハレナイガ、ソレニ近キ
例ナドヲ出シテ屢々質問ヲサレタ(ヒヤ)一
今日ノ席ニ於テハ湯淺君ヨリ到頭露骨
ナル御話ヲ承ク、社會組織ノ歸結ハ共產
主義デアル、終リニハサウナルノデアルト
ニ云フヤウナ御言葉ヲモ聽イタノデアル(ヒ

ヤヒヤ)私共ハ是非非常ニ見解ヲ異ニスル、
此壇上ニ於テ世ノ中ガドウ云フ風ニナルト
云フヤウナコトヲ、今論議スル必要ヲ認メ
ナイノデアリマスガ、少クトモ吾々トハ見
解ヲ異ニシテ居ル、又此種ノ人、此種ノ考
ヲ持タル世上ノ人ハ、露西亞ノ「レーニ
ン」ノ仕事ヲ以テ成功ナリト誤信ヲシテ居
ラレル人デアル、所ガ今ノ歐米ノ識者學者
ト云ハレル人ノ間ニ於テ、之ニ謳歌スル人
ハ極メテ少イ、大抵ハ失敗ナリト斷言ヲシ
テ居ル、名前ヲ忘レマシタガ、例ヘバ佛蘭
西ノ權威アル學者「ジョルジ・ウアロー」
ノ如キハ、新經濟論ト云ヒマスカ「エコノミ
ー・ヌーベル」ナルモノニ於テ酷ク之ヲ扱下
シテ居ル、斯様ニ彼ハ斷言シテ居ル、「露
西亞ノ改革ナルモノハ有産階級ノ社會ヲ變
ジテ無産階級トシタノデハナイ、ソレナラ
宜イガ、サウデナクシテ、相當ニ存在シテ
居」タモノヲ亡國ノ民タラシメタノデアル」
ト彼ハ論斷致シテ居ル、成程考ヘテ見マス
ト云フト、「レーニン」ノ揚言シテ居リマシ
タ所ノ農工生産ノ増加デアル、或ハ交通機
關ノ速進デアル、或ハ勞働階級ノ改善デア
ルトカ云フヤウナ事柄ハ、少シモ成功ヲ見
ナイノデアル、而シテ益々人ハ生活ノ不便
ニ困感スル形勢デアルカラ、之ヲ失敗ト云
フノハ當然デアラウト考ヘル、私洵ニ皮肉
ナノハ、我國ノ新知識ダト云ハレル人ガ贊
成ヲスル時分ニハ、本家本元ノ歐米デハ是
ガ古クナッテ居ル、アベコベノ説ガ立テラ
レテ居ルト云フコトデアル、是ニ於テ我國
ノ新知識モ餘リ當テニナラナイト云フコト
ヲ感ズル者デアル(拍手)私ハ斯ウ云フ見地
ニ立ッテ居リマスガ、併ナガラ社會ノ有様、
少クトモ産業組織ガ今ノ儘デ宜イトハ言ハ
ナイ、議員諸君ガ屢々例ニ出シテ居タル、社
會ノ改良デアリマス、社會政策、社會改良

主義、現在ノ秩序ヲ破壊セズシテ、徐々ニ
改良ヲシテ行ク政策ニハ私共賛成デア
ル、今ノ勞働者ノ地位ハ固ヨリ憐ムベキデ
アル、今ノ資本家ノ立場ハ餘リニ宜キニ過
ギル、斯ウ云フコトハドウシテモイケナ
イ、故ニ私共ハ社會政策ノ見地ニ立チ、
徐々ニ之ヲ改善シテ行キタイト存ズルノデ
アリマスガ、諸君此社會改良ナルモノハ、
少シモ此法案ニ觸レナイノデアアル、觸レズ
シテ實行シ得ルノデアリマスカラ、何モヤ
カマシク言フ必要ハナイ、一部少數ナル煽
動者或ハ一知半解ノ輩ハ、極端ナルコトヲ
主張致シマセウガ、我國ノ多數ノ勞働者ハ
生活ヲ良クスルコトヲ以テ満足スル者ナ
リ、假ニ是ダケデ満足シナイトシテモ、歐
米ニ行ハレル利益分配制度デアル、或ハ資
本家、社會勞働者ノ代議體ニ依ル所ノ産業
ノ經營デアルトカ、或ハ生活賃金均一ニ
スルト云フヤウナコトヲ徐々ニ行フナラ
バ、ソレデ満足スル者デアラ、ソレ以上
破壊ノ事ヲ好シデ居ル者ハ無イノデア
ル、ソレデ私ハ此法案ガ勞働者ニ不便デア
リ、勞働者ニ向ッテ取締ルモノデアルカノ如
キ考ヲ持ツコトハ、是ハ誤レル第二デア
ルト考ヘマス、私惟ヒマスルノニ、勞働者ヲ
以テ此法律ノ對象トスルコトハ、勞働者ヲ
取締ルモノデアル、我國ノ勞働者ハサウ
云フ極端ナ考ヲ持ッテ居ル者デハ斷ジテア
リマセヌ、極メテ少數ナル煽動者、若クハ
一知半解ノ輩デアルコトヲ私ハ斷言スル、
ソレハ勞働者デハナイ、斯様ニ考ヘ來リマ
スト、此案ハ洵ニ妥當デアアル、少クトモ「政
體」ト云フ字ヲ削ッテ後ニ於ケル本案ハ妥當
デアル、且ツ必要ナモノデアルト云フコト
ヲ深く信ズル者デアリマス、而シテ此原案
ノ用意周到ナル、刑法ノ一部トセズシテ單
行法ト爲シテ、即チ時局ニ對スル對症療法ト

シテ、單行法トシテ出サレタモノデアリマ
スカラ、必要去レバ之ヲ廢止スベキモノデア
ル、而シテ吾々ハ之ヲ廢止スルノ時機ノ速
カナランコトヲ希望シテ已マザル者デア
リマス、然ラバ政友本黨諸君ノ御提出ニナ
タ案如何、私ハ是ハ政友本黨ノ諸君ニ此壇
上ヨリ御交渉申上ゲタイ、大分久シク一ハ
青票ヲ持チ、一ハ白票ヲ持ッテ此壇上ニ上
タノデアリマスガ、先刻始メテ同ジク白票
ヲ持ッテ此處ニ上ッテ、而シテ骨子タル所ノ
「政體」ヲ取ルト云フコトニ付テハ一致シテ
居ル、唯、外ニ少許リ所見ノ違フ所ガアル
ガ、是ハ所見ガ違フト云フテモ、サウ酷イ
所デハナイノデアリマスカラ、私ガ是
カラ述ベル所ニ依ッテ願クハ御譲リヲ
願ヒタイト考ヘル、本黨案ノ第一ハ國體ト
私有財産制度トヲ同列ニ置クコトガイケナ
イト言ハレル、是ハ誠ニ一見尤ナヤウニ見
ユル、併ナガラ是ハ國體ト私有財産トガ同
ジ程値打ガアル、同ジ程尊イノデアルト言
フ譯デナク、此案ハ國體ニ對シテ惡イ考ヲ
持ツ者モ、私有財産ニ對シテ破壞ノ考ヲ持
ツ者モ、取締ル必要ニ於テハ殆ド同ジデア
ルト云フダケノコトデアリマスカラ、取締ル
方面カラ云ヘバ、之ヲ同列ニ置イテモ一向
差支ナイ、宮中ノ席次ノヤウナモノデナ
イ、サウ前後ヲ爭フ必要ハナイ、法文ノ排
列ハ必要ニ應ジテヤルベキモノデアリマス
カラ、私ハ三派ノ案デ一向差支ガナイ、ソ
レカラ今一ツ私有財産制度ノ否認ハ御同意
デアルガ、ドウモ分リ惡イカラ「根本ヨリ」
ト云フ字ヲ入レルト仰シヤル、是モ法文ノ
註釋トシテハ惡クナイノデアリマスガ、私
有財産ヲドウト云フノデナイ、私有財産制
度其物ヲ否定スル者ガイケナイト云フ、制
度ト云フノハ、一ツ總タ思想デ「ワンホー
ル」デアル、故ニ之ヲ否認スルト云フ者ハ

即チ全體ヲ否認スル、根本ヲ否認スル者ノ
デアルト云フコトハ、自ラ明瞭デアリマス
ガ故ニ、是ハ茲ニ註釋ヲ加フルノ要ヲ認メ
ナイト思ヒマス、其次ハ刑期ノ點デアリマ
スガ、是ハ昔ハ刑期ハ場合々々ニ依ッテ
區別シテヤッタデアリマス、近來ノ立法
例ハ成ベク範圍ヲ廣クシテ、各般ノ事情ニ
適應セシムベク、裁判官ノ自由裁量ニ委ネ
テ置クノガ近來ノ趨勢デアルト思フノデア
リマス、自由ニ其裁量ハ爲シ得ルト存ジマ
スカラ、此點ニ付テモ吾々ノ案ト餘リ違ハ
ナイ、故ニ私ハ願クバ御譲歩ヲ願ヒマシ
テ、後程再ビ同案ヲ持ッテ上ルコトが出
來ルヤウニ切ニ希望スル譯デアリマス、私
ハ簡單デアリマスガ、之ヲ以テ其理由ト致
シマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 土屋興君

(土屋興君登壇)

○土屋興君 諸君、私ハ中村啓次郎君其他
ニ依ッテ提起セラレツ、アル修正案ニ對シ
テ、賛成ノ意ヲ表セントスル者デアリマス、
而シテ私が修正案ニ對シテ賛成ノ理由ヲ申
述フルニ當リマシテ、先ヅ大體ニ於テ何故
ニ維持法ニ吾々ガ賛意ヲ表スルカト云フノ
理由ヲ申述ベタイト思フデアリマス、極
メテ本案ハ重大ナル法案デアリマスルカ
ラ、何卒御倦怠ノ折柄デアリマスルケレド
モ、暫ク時間ヲ御割愛下サランコトヲ切ニ
御願致スデアリマス(「簡單々々」ト呼フ
者アリ)成ベク簡單ニ致シマス、諸君、政
友會内閣ノ末期ニ於テ過激社會運動取締法
案ヲ提出セラレ、又震災直後ニ於テ治安維
持令ノ發布ヲ見タル因縁經過ヲ考ヘマスル
ト云フト、本案ノ如キ性質ヲ有スル特別法
ノ近ク我國ニ制定セラルベキ機運ノ存シタ
ト云フコトハ、之ヲ推スルニ難クハナカッタ
ノデアリマス、殊ニ近年ノ我國ノ世相ハ、

此本案ノ如キ特別法制定ノ要アルヲ思ハシ
ムルモノガアッタデアリマス、御承知ノ如
ク、大戦後ノ社會改造ノ思想ヨリ來レル世
界的思想ノ動搖ハ、可ナリニ激甚ナルモノガ
アッタデアリマスルガ、歐米各國トモ能ク
之ヲ消化シテ、今ヤ漸ク安定ノ期ニ入ッ
タデアリマス、併ナガラ我國ニ於テハ是等
思想上ノ動搖ハ表面安定セルガ如クニ見ユ
ルノデアリマスガ、實ハ然ラズシテ、益々
深ク内訌シツ、アルノ虞ガアルデアリマ
ス、加之近時ノ我が社會現象ハ危險思想ヲ
誘致スル事ノミデアルト思ハル、ノデアリ
マス、特ニ私ノ憂ヘテ居リマスルコトハ、
勞働階級又ハ無産階級ノ人々ノ神經ヲ尖ラ
シムルコトガ極メテ多イデアリマス、私
ハ今試ニ政府當局並ニ與黨ノ方々ニ御參考
ノ爲ニ、彼等ガ如何ナル考ヲ持ッテ、如何ナ
ル事ヲ申シテ居ルカト云フコトヲ三四御紹
介ヲ申シテ見タイト思フデアリマス、彼
等ハ三派ヨリ成ル護憲ノ政治ハ空理、空論
ノ政治デアアル、社會ニアルニ急デアッテ、國民
ノ實生活ニ觸ル、所ガ毫末モナイ政治デア
ルト申シテ居ルツデアリマス、無條件ノ普
選、貴族院改革、洵ニ景氣ノ好イコトデア
ル、併ナガラ是ガ國民ノ「パン」ノ問題ト何ノ關
係ヲ有スルカト云フコトヲ言ッテ居ルノデ
アリマス、又國民ノ「パン」ノ問題ト直接ノ
交渉ヲ有スル所ノ勞働立法ヤ、勞働保險ニ
對シテハ、政府ハ在野黨時代ノ口約ヲ無視
シテ、恬トシテ之ヲ顧ミナイノデアルト云
フコトヲ非常ニ遺憾ニ思ッテ居ルノデアリ
マス(拍手)昔ハ強キヲ挫キ弱キヲ助ケルヲ
以テ武士道ノ精華ト致シテ居ッタノデアリ
マス、然ルニ今ハ然ラズ、特ニ我が護憲内
閣ハ、強キ者ニハ益、弱キ者ニハ益、
強イト云フコトヲ言ッテ居ルノデアアル(「ノ
ウノウ」拍手)而シテ議會ノ多數ハ正義正

論ノ多數デナク、暴力ノ多數デアアル、多數
政治ハ結局暴力政治デアルト云フコトヲ
言ッテ居ルノデアリマス(拍手)「早く反對カ
賛成力述ベロ」ト呼フ者アリ)市井ニ於ケ
ル所ノ勞働者ノ犯罪ニ對シテハ之ヲ重ク
シ、議會ニ於ケル傷害事件ノ加害者ハ多數
黨所屬ノ者ナルガ故ニ不問ニ付サレ、議
長ハ君子人ト言ハレテ居ルト言ッテ居ルノ
デアアル、是ガ近頃ノ我國ノ赤裸ナル狀態
デアアル、遺憾ナガラ私モ彼等ガ申シテ居ル
是等ノコトヲ肯定セザルヲ得ナイト云フコ
トヲ洵ニ遺憾トスル者デアリマス(拍手)甚
ダ卑近ナル例ヲ申上ゲルヤウデアリマス
ガ、徳川ノ末期ニ社會ト政治ノ墮落ヲ諷シ
テ、石ガ流レテ木ノ葉ガ沈ムト云フ俗諺ガ
盛ニ唱ハレタコトガアルノデアリマス、近
頃ノ我國ハ其石ガ流レテ木ノ葉ガ沈ムノ狀
態デアリマス、當然ノ事ガ當然ニ參ラナイ、
正義ガ正義トシテ通ラナイ、正論ガ正論ト
シテ通ラナイ、是ニ於テカ不平、不満ヲ生
ジ、下層社會ハ人ヲ怨ミ、世ヲ憤ッテ知ラ
ズ識ラズ左傾スルコトニ相成ルノデアリマ
ス(拍手)是ハ爲政者タルモノ、最も注意ス
ベキ事デアルト私ハ思フデアリマス、サ
ウシテ他方日露國交ノ回復ハ、彼我ノ交通
ヲ自由ナラシメ、來往頻繁ヲ致スノ結果、
彼ノ恐ルベキ第三「インターナショナル」ノ
活躍ヲ思ハシムルモノガアルノデアリマ
ス、勿論露國現時ノ共產主義ハ、先年ノ所
謂「メツ」以來、即チ新經濟策樹立以來、「マ
ルクス」クロボトキン」等ノ思想ヨリ遂ニ
軟化致シタトハ申シナガラ、依然社會ノ脅
威タルヲ失ハナイノデアリマス、而モ此時
ニ當ッテ無條件普選ノ實施ハ、主義者ヲシテ
益、跋扈、跳梁セシムルト同時ニ、議會ヲ
利用セシムルノ危險ガアルノデアリマス、
之ヲ思ヒ彼ヲ想フ時ニ、私ハ治安維持法ヲ

國家國民ノ爲ニ絶對ニ否決シ去ルト云フノ
勇氣ヲ持タナイノデアリマス、勿論思想ハ
思想ヲ以テ對スベシト云フコトハ千古ヲ通
ジテノ金言デアリマス、併ナガラ、我が國
民ハ遺憾ナガラマダ英國ノ國民タルガ如ク
ナリ得ナイ、自由討論ノ下ニ思想ヲ消化シ
テ過ナカラシムルト云フノニハ、尙ホ相當
ノ期間ト訓練トヲ要スルノデアリマス、故
ニ私ハ暫ク忍ビテ高遠ナル所ノ理想ヲ捨テ
テ、實際政治家タルノ立場ニ立ッテ、事實上
思想取締法タル本案ニ對シテ、敢テ總括的
ノ賛意ヲ表セントスルノデアリマス、諸君、
既ニ思想ヲ法律ヲ以テ取締ルコトノ如何ニ
愚デアアルカト云フコトハ、彼ノ「ビスマル
ク」ノ社會主義鎮壓法ガ明ニ之ヲ語ッテ居ル
ノデアリマス、五十年後ノ今日ニ於テハ「ビ
スマルク」ノ恩ヲ再ビ茲ニ演ズルト云フコ
トハ、如何ニモ馬鹿ラシイコトデアリマ
スケレドモ、「ビスマルク」ノ社會主義鎮壓
法ハ如何ニモ不成功デアッタトハ申シマス
ケレドモ、アノ法律ニ依ッテ獨逸ノ社會民
主黨ガ兇暴ノ手段ヲ慎ムコトニナッタト
云フコトハ明ナル事實デアアル、私が此法
律ニ向ッテ期待スル點モ、亦彼ノ憎ムベキ
無責任ナル煽動家ヲ戒ムルダケノ效果ガ
アレバ、十分デアルト思ッテ居ルノデア
リマス、ソレト同時ニ私ハ何レニシテ
モ、治安維持法ノ如キ法律ヲ必要トスル
社會ハ、誠ニ厭フベキ、煩ハシキ社會デ
アルト云フコトヲ痛感スルノデアリマス、
吾々ハ更ニヨリ良キ社會ヲ作ラナケレバナ
ラナイ、更ニヨリ愉快ナル所ノ家庭ヲ作ラ
ナケレバナラナイ、是ハ吾々ノ義務デアリ
又政府ノ義務デアリマス、殊ニ本法ヲ施行
スル以上ニ於テハ、此點ニ對スル政府ノ責
任ハ極メテ重大ナルモノガアルノデアリ
マス、若シ政府ガ一片ノ法令デ、危險思想

ガ取締リ得ラレト思フテ居ルナラバ、是ハ大變ナル誤デアリマス、政府ハ宜シク進ンデ社會政策の施設ヲ御實施ニナツテ、下層社會ノ不平不滿ヲ解イテ、危險思想ニ感染スベキ所ノ者ヲ根本カラ排除スルト云フ御考ヲ持ッテ戴キタイト思フノデアリマス、彼ノ時代遅レノ「ピスマルク」スラモ、社會主義鎮壓法ヲ實施スルト同時ニ、大ニ社會政策ヲ行クノデアリマス、由來我國ノ下層社會ニハ、鬱勃タル不平不滿トガアルノデアル、其根本原因ハ無產階級ノ生活ヲ合理的ニ向上セシメントスル思想ノ討究、之ニ關聯スル運動ニ對シテハ、從來殆ド盲目的ニ之ヲ抑壓シテ居タノデアリマス、而モ此種ノ思想ヲ運動ニ最モ密接ナル關係ニ在ル所ノ、當ノ無產階級ノ實生活ヲ向上セシムルコトニ付テハ、當局ニ於テ何等見ルベキ施設ガナイノデアリマス、是ガ當然ノ歸結トシテ我國ノ無產階級ニハ思想的ニモ、生活的ニモ、鬱勃タル不平不滿トガ存スルノデアリマス、此不平不滿トガ除去ラレルナラバ、治安維持法ナドノ必要ハ更ニナイノデアリマス、而シテ社會ハ今日ヨリヨリ良キ愉快ナル社會トナルト云フコトハ確ナル事實デアリマス、今ヤ維持法ハ茲ニ呱呱ノ聲ヲ舉ゲントシテ居ルノデアルガ、當局ハ此法律ヲシテ事實無用ノ空文ヲラシムルコトニ御努力ヲ願ヒタイノデアリマス、此法律ガ空文タル時ニ於テ國民ノ眞ノ幸福ハ存スルノデアルト云フコトヲ、私ハ痛切ニ感ズルモノデアリマス、以上ハ私が大體ニ於テ本案ニ贊意ヲ表スル所以デアルノデアリマス、本案ハ政府ノ原案ニ於テハ幾多ノ不備ノ點ガ存スルノデアリマス、是レ吾々ガ修正案ヲ茲ニ提起シタル所以ナノデアリマス、第一、万世一系ノ天皇ガ統治スル此國體ハ、永世不變、絕對無限ノモノデアル、之ヲ變

革セントスルノ罪ト、時ノ事情、社會ノ進歩ニ依ッテ如何様ニモ變化シ、伸縮スベキ他ノ政體、私有財産制度等ニ對スル罪ト同列ニ併記シタルト云フコトハ、國體ヲ輕カラシムルノ虞ガアルノデアリマス、吾々ノ修正案ニ於テハ之ヲ他ノ規定ト分離獨立セシメ、且ツ刑ノ量定ヲ、何レモ原案ヨリ輕カラシメタルニ拘ラズ、獨リ國體ニ關スルモノヲ原案ノ如ク十年ノ儘ニ存置シテ、儼然タル威容ヲ保持シメタル所以デアリマス、而シテ政體ニ關スル規定ヲ削除シマシタルハ、大體三派ノ意見ト同様デ、之ヲ削除スルモ本法制定ノ主眼タル無政府主義、共產主義ノ取締ニハ格別差支ガナイガ爲デアリマス、所謂「政體」ヲ削除致シマスルトキハ議會否認ヲ爲ス者ヲ取締リ得ザルノ遺憾ハアリマス、ケレドモ、委員會ニ於ケル質問應答ノ結果ヲ見マスルト云フト、政府ノ變革ト云フコトニ對スル當局ノ解釋ハ、頗ル多岐多端ニ互フテ居リマシテ、疑問トスベキ節ガ非常ニ多イノデアル、斯ル解釋ニ疑義ヲ生ズル規定ヲ存置スル時ハ、是ガ眞面目ナル學者、研究家、批評家、新聞記者等ガ思ハナイ飛沫ヲ蒙ッテ、拉致セラレルノ虞ガアルト云フコトモ考慮ヲ致シタルガ爲デアリマス、又第二條ニ於テ「協議」ト云フ文字ヲ「勸誘」ヲ爲シ又ハ之ニ應ジタル者」ト改メタルト云フコトモ、解釋ノ疑義ヲ生ゼザラシメントスルノ用意ニ出デタルニ外ナラナイノデアリマス、次ニ私有財産制度ノ「否認」トアルヲ「根本ヨリ否認」ト改メシタルハ、出來得ルダケ之ヲ狹義ニ解釋セシメヤウト致シタルニ外ナラナイノデアリマス、此點ニ對シテ廣瀬君カラ只今色々御意見ガアリマシタガ、申ス迄モナク此私有財産制度ハ完全ナル制度デハナイ、頗ル缺陷ノ多イ制度デアリマス、唯、之ニ代ルベキヨリ

善キ制度ガ違ニ見出サレナイカラ、之ヲ存置シテ居ルト云フ迄デアルト私ハ思フノデアル、今日ノ貧富ノ懸隔モ、社會ノ犯罪モ、悉ク此制度ニ基イテ居ルト申シテモ過言デハナイノデアル、隨テ社會ノ進歩ニ伴レテ當然改善サレ、改革サルベキ制度デアルト思フノデアリマス、故ニ之ヲ否認スルヲ罪トスルノ規定ヲ設クルト云フコトハ、出來得ベクンバ是非遊ケタイノデアリマス、併シ之ヲ此法律カラシテ除去ルト云フコトデハ、肝腎ノ本法制定ノ目的ヲ逸スルノ虞ガアルノデアリマス、事實ヲ申セバ私有財産制度ニ對スル規定ヲ削除シテモ、尙ホ且ツ無政府主義、共產主義ニ對スル取締ノ遺漏ナキヲ期シ得ラレマス、ナラバ、是非之ヲ削除シタイト云フ考ヲ持ッテ居ルノデアリマス、併シ今日ハ事情ガ之ヲ許サナイ、私有財産制度否認ニ對スル同僚清瀬君ノ委員會ニ於ケル熱心ナル態度、豐富ナル學殖、共ニ私共ノ尊敬ヲスル所デアリマス、出來得ベクンバ私モ清瀬君ニ賛成ヲ致シタイト思フ、併シ國家ノ情勢、時ノ事情等ヲ考慮致シマスルト云フト、姑ク理想ヲ後ニシテ、現實ノ必要ニ就クノ外ハナイノデアリマス、是ハ現實ヲ主トスル吾々ノ立場トシテハ、蓋シ已ムヲ得ナイコトデアラウト思フノデアリマス、唯斯ル規定ヲ廢止シ得ル時ノ到來ヲ國家國民ノ爲ニ切ニ希望スルノ外ハナイノデアリマス、右様ニ次第デアリマスカラ此規定ハ出來得ルダケ狹義ニ解釋シタイト考ヘマシテ、「根本ヨリ」ト云フ四字ヲ挿入致シマシタ次第、廣瀬君ノ只今ノ御提議ニハ私共應ジ兼ねルノデアリマス、願クバ何卒三派ノ方ヨリ吾々ノ方ニ向ッテ贊意ヲ表シテ戴キタイト思フノデアリマス、(反對)併ナガラ私ハ私有財産制度ノ否認ト云フコトニ對シテ「根本ヨリ」ノ四字ヲ

挿入致シマシテモ、私有財産制度ノ否認ニ對スル規定ニ付テハ思ハナイ累ヲ被ル者ガ出來ヤシナイカト云フコトヲ衷心憂ヘテ居ル者デアリマス、特ニ私ノ懸念ニ堪ヘナイノハ、本法ノ労働團體ニ及ボス影響デアリマス、過日本案ヲ上程セラレルニ方リマシテ、若槻內相ハ維持法ノ労働者ヲ威嚇スルモノデナイト云フコトヲ繰返シ繰返シ御述ベニナツタノデアリマス、而シテ只今廣瀬代議士モ亦此點ヲ御述ベニナツタノデアリマス、併ナガラ私ハ如何ニ考ヘテモ內相ノ言ヲ信ズルコトハ出來ナイ、ソレト同時ニ廣瀬君ノ御議論ニモ賛成スルコトハ出來ナイノデアリマス、如何トナラバ本法ヲ直接執行スル所ノ人ガ、內相ノ如キ立派ナ人デアリマス、何等ハ懸念ヲ要サナイノデアリマス、ケレドモ、事實此法律ヲ執行スル所ノ人ハ、多ク労働運動等ニ理解ヲ有サナイ所ノ低級ナル司法警察官デアアルノデアリマス、地方ニ於テ我國ノ労働團體及労働運動ハ、法律上ニ確認セラレテ居ラナイト云フ事實ヲ考慮致サナケレバナラナイノデアリマス、此點ヲ考慮致シマスルト云フト、此法律ハ折角發達ノ緒ニ就イタ所ノ我國ノ労働團體ヲ壓迫シ、労働運動ヲ彈壓スル所ノ虞ガアルト云フコトヲ想ハナケレバナラナイノデアリマス、此法律ハ確ニ労働者ヲ脅威スルモノデアルト云フコトヲ想ハナケレバナラナイ(然ラバ反對セヨ)ト呼フ者アリ)斯ウ考ヘテ見マスルト云フト、之ニ對スル所ノ方策ト云フモノヲ茲ニ求メナケレバナラナイト思フノデアリマス、私ハ茲ニ世界ノ労働團體ニ付テ見マシテモ、私有財産制度ノ否認ヲ目的トシナイモノハ殆ド無イト云フコトヲ考ヘテ見マスルト云フト、必ズヤ此法律ハ執行者ノ手加減ノ如何ニ依ッテハ、労働團體ヲ彈壓シ、労働運動ヲ撲

減スルト云フヤウナ意外ナ結果ヲ招キハシ
ナイカト云フコトヲ恐レテ居ルノデアリマ
ス(「謹聴」)「簡單」ト呼フ者アリ)非常ニヤカ
マシク御話ニナリマスアレドモ、此點ハ
極メテ重大ナル點デアリマスカラ、私ハ
詳シク此點ニ付テ御話ヲ申上ゲテ見タイト
思フノデアリマス、今試ニ世界ノ労働團體
ニ付テ見マスルモ、私有財産制度ノ否認ヲ
目的トシナイモノハ殆ド無イノデアアル、唯、
僅ニ集團契約、即チ「コンクチーヴ」、バーダ
イン「目的」トスル所ノ「労働組合主義」オ
ールドトレッド、ユニオンズ」ガ僅ニ私有
財産制度ノ否認ヲ目的トシテ居ルノミデ
アリマス、他ノ新労働組合主義デモ、佛蘭
西ノ「シンジカリズム」デモ、米國ノ産業統
一主義デモ、英國ノ産業「シンジカリズム」
デモ、皆悉ク私有財産制度ノ否認ト云フコ
トヲ目的トシテ居ルノデアリマス、而シテ
過日委員會ニ於テ、小川法相ハ私有財産制
度ヲ否認スルモ、ソレガ根本的ニ且ツ總括
的ニ行ハレナイ限リ犯罪ヲ構成シナイ、又
總括的ニ行ハル、モ、ソレガ議會ヲ通ジテ
立法ノ手段ニ依リ、且ツ代價ガ支拂ハレル
ナラバ、本法ニハ觸レナイト云フコトヲ言
ハレタノデアリマス、此釋明ダケデハ漠然
トシテ曖昧極マルモノデアリマスガ、假ニ
此釋明ヲ完全ノモノトシテ、世界ノ労働團
體ヲ見マスルト云フト、此法律ガ世界各國
ニ假ニ斯ウ云フモノヲ效果ヲ及ボシ得ルモ
ノト假定致シマスルト、世界ノ労働團體ノ
殆ド全部ハ法律ニ抵觸スルト云フコトニナ
ルノデアリマス、顯ミテ我國ノ労働團體ハ
大體米國ノ産業統一主義ヲ以テ居ルモノデ
アル(「モウ止セ」)「脱線」ト呼ヒ發言者
多シ)モウ暫クデアリマス

○副議長(小泉又次郎君) 暫ク御静肅ニ願
ヒマス

○土屋與君(續) 即チ此亞米利加ノ産業統
一主義ハ、佛蘭西ノ「シンジカリズム」ガ米國
ニ入ッテ、米國化シタモノデアッテ、是ハ極
メテ危險ナル所ノ主義ヲ持シテ居ルモノデ
アルノデアリマス、此點ニ付キマシテ詳シ
ク申上ゲタイトモ思ヒマスアレドモ、此
點モ私ハ省略ヲ致シマシテ、簡單ニ申上ゲ
マスルガ(「脱線」ト呼フ者アリ)「脱線
シテハ居リマセス、アナタ方ニハ御分リニ
ナラナイ(「簡單」)「協調館ニ行ッテヤリ給ヘ」
ト呼フ者アリ)諸君、此産業統一主義ハ極
メテ危險ナル主義デアッタノデアリマス、
我國ノ労働團體ハ大體之ニ則テ組織セラ
レタモノデアアルノデアリマスガ、此我國
ノ労働團體ガ年月ヲ經ルニ從ヒマシテ、漸
ク近頃ニ於テハ日本化シテ參リマシテ、而
シテ此統一主義ノ最も危險ナル所ノモノ
ヲ、段々除去ルコトガ出來テ、サウシテ近
頃ニ於テハ集團契約ト社會政策の立法トニ
依ッテ、労働階級ノ利益ヲ増進セントスル
ヤウナ方面ニ向ッテ參ッタノデアリマスル、
是ハ労働階級ノ利益ノ上カヲ見マシテモ、
國家ノ利益ノ上カヲ見マシテモ、洵ニ喜ブ
ベキ傾向デアッタノデアリマスル、併ナガ
ラ此只今ノ労働團體モ、斯ノ如ク溫和ニナ
タ所ノ労働團體ト云フモノモ、此法律ノ適
用ノ如何ニ依ッテハ、又團體トシテ存立シ
得ナイト云フヤウナ危險モ此所ニ存スルノ
デアリマス、諸君、而シテ他面ニ於キマシ
テハ無條件普選ノ實施セラレマシタ結果
ハ、一度我國ノ労働團體カラ驅逐セラレタ
所ノ危險主義者ガ、労働者ノ多數ノ投票ト
云フモノヲ利用シテ、議會ヲ通ジテ其目的
ヲ達セントシテ、再び労働團體ニ接近ヲシ
テ來ルト云フ危險ガアルノデアリマス、斯
ウ云フコトヲ思ヒマスルト云フト、此法律
ガ實施セラレ、而シテ無條件普選ガ行ハレ

ルト云フコトニナリマスルト云フト、折角
溫和ナル傾向ヲ持ッテ來タ所ノ我國ノ労働
團體、労働運動ト云フモノガ、再び危險ナ
傾向ヲ呈示シテ來ルト云フ恐レガアルノデ
アリマス、之ヲ匡救スルノ途ハドウシタナ
ラバ宜イノデアアルカト申シマスルト、一
日モ早く労働立法ヲ制定シテ、労働組合ノ法
定資格ト云フモノヲ確認スルノ必要ガアル
ノデアリマス、諸君、労働組合ヲ制定ヲ
致シマシテ、而シテ労働運動ノ合法ニ行ヒ
得ルノ範圍ト、違法タルノ境界トヲ明ニシ
テ、之ヲ善導シテ參ルト云フヤウナ方法ヲ
執ッテ參リマシタナラバ、假ニ此維持法ガ
制定セラレマシテ、其結果ヲ被ッテ、我國
ノ労働運動ヤ、或ハ労働團體ト云フモノガ
危險ヲ被ルト云フヤウナコトガアリマシテ
モ、ソレニ依ッテ我國ノ労働團體ハ匡救ヲ
セラレルノ途ガ立ツノデアリマス、吾々ハ
夙ニ此點ニ著眼ヲ致シマシテ、本期議會ノ
始メニ於テ既ニ維持法ガ提案セラル、ト云
フコトヲ察知シテ居リマシタカラ、我黨
ノ松田、吉植兩代議士カラ、機會ノアル毎
ニ政府ニ向ッテ労働立法ノ制定ヲ督促シツ
ツアッタノデアリマス、政府モ我黨ノ督促
ニ應ジテ、今ヤ労働立法ノ制定ニ著手ヲ致
シタト思ハレル節モアルノデアリマスカ
ラ、吾々ハ本案ニ於ケル私有財産制度否認
ニ對スル修正ハ、此程度ニ止メテ置イタ次
第デアリマス、諸君、一體労働立法ニ付テ
ハ吾々ニ催促セラル、マデモナク、憲政會、
革新俱樂部ノ諸君ハ國民ニ向ッテ言貴ガア
ルモノデアアル、吾々ハ四十五議會以來労働
組合ノ公認ヲ絶叫スル所ノ兩派ノ代表演説
ヲ、能ク此議會ニ於テ聴カサレタモノデア
ルノデアリマス、今兩派ヲ主トスル所ノ内
閣ガ組織セラレテ、其爲サントシテ成ラザ
ルナキノ秋ニ當ッテ、組合法、爭議法、其他

ノ労働立法ヲ提案シナイト云フコトハドウ
云フ理由デアリマスガ、政府モ亦此點ニ付
テハ極メテ怠慢デアアルノデアアル、抑、我
ニ依ッテ督促セラルベキ筋合ノモノデナイ
ノデアリマス、大體ニ言ヘバ普選ヨリ先ニ
労働立法ヲ制定スベキモノデアアルガ、ソレ
ヲ衆愚ノ人氣ヲ博サントシテ(發言スル者
多シ)

○副議長(小泉又次郎君) 靜肅ニ願ヒマス
○土屋與君(續) 普選ヲ先ニ爲シタト云フ
コトハ前後矛盾デアアル(發言スル者多シ)

○副議長(小泉又次郎君) 靜肅ニ願ヒマス
御述ベ下サイ——土屋君ニ只今修正ノ説明
ノミニ付テ論旨ヲ進メルコトヲ求メマシタ
○土屋與君(續) 諸君、私共ハ私有財産制
度ニ對スル所ノ規定ト云フモノハ、只今モ
申上ゲマシタ通り、成ベク之ヲ狹義ニ致シ
マセスト、政府ハ労働者ヲ脅威スルモノデ
ナイト申シマシテモ、事實ハ脅威スルノ虞
ガアルカラシテ、此點ニ付キマシテハ「根
本ヨリ」ト云フ四字ヲ特ニ挿入致シタノデ
アリマス、諸君モ此點ヲ諒トシテ戴キタイ
ト思フノデアリマス、而シテ私ハ最後ニ一
言申上ゲテ置キタイノデアリマス

〔發言スル者多シ〕

○副議長(小泉又次郎君) 靜肅ニ願ヒマス
○土屋與君(續) 此維持法ハ先刻申シマシ
タ政友會内閣ノ末期ニ於ケル所ノ過激社會
運動取締法案ノヤリ直シデアルト云フコトハ
爭ハレナイ所ノ事實デアリマス(「違フ」)「
ト呼フ者アリ」當局ハ事實直シヲシテ
アル所ノモノヲ、何所マデモ燒直シデナイ
ト之ヲ強辯サレテ、サウシテ白々シク御提
案ニ相成ルト云フコトハ、是ハ國民道德ノ
上カラ申シテ、又法律ヲ通過セシムル上カ
ラ申シテモ、寔ニ面白クナイ事デアルト思

フノデアリマス、私ハ考ヘマスノニ、事實上燒直シデアルナラバ燒直シデアルト云フコトヲ赤標々ニ御話ニナシテ、サウシテ而モ此現内閣成立以來カラト云フモノハ、變説改論ト云フコトハ進歩デアルト申シテ居ルノデアリマスカラ、進歩デアルナラバ何モ少シモ躊躇スルコトハナインデアリマスカラ、明ニ其事ヲ御話ニナシテ大變宜カラウト思フノデアリマス(拍手)而シテ過激法案ノ當時ニ於テハ野黨トシテノ反動の感情カラ、國家國民ノ利害ト云フモノヲ度外視シテ反對ヲシタケレドモ、諸君今日責任ノ地位ニ立ッテ見ルト、ドウシテモ國家國民ノ爲ニ必要デアルト云フコトヲ痛感シテ、此法律ヲ出シタノデアルト云フコトヲ言ハレタ方ガ宜シイノデアアル、而シテ私ハ最後ニ一言申シタノハ、諸君、議會政治ノ頌譽ヲ致シタト云フコトヲ言ハレテ居ル、此時ニ、朝ニ在ルト、野ニ在ルトヲ問ハズ、國家國民ノ利害ヲ中心トシテ冷靜ナル判斷ノ下ニ、正ヲ履ンデ臧ハズト云フ正々堂々タル所ノ態度ヲ執ッテ本案ニ賛意ヲ表スル所ノ政黨ハ、政友本黨アルノミデアルト云フコトヲ御注意願ヒタイノデアアル、而シテ又國家國民ハ宜シク此點ニ對シテハ十分ナル注意ヲ拂フベキモノデアルト思フノデアリマス、私ハ以上申述べタ所ノ理由ニ依リマシテ、中村君其他々修正案ヲ支持スル者デアリマス、何卒諸君ノ冷靜ナル御考ヲ持タレテ、吾々ノ修正案ニ御賛成ヲ願ヒタイノデアリマス

○作間耕逸君 討論終結ノ動議ヲ提出致シマス

〔賛成〕ト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 作間君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ討論ハ終結致シマシタ——採決ニ入ルニ先ダ御諮リヲ

致シマス、中村啓次郎君外三名提出ノ修正案中、第一條ノ政體ヲ削ル點ハ委員長報告ト同一デアリマスガ、法文ノ組立方及刑期ノ點ニ於テ相違シテ居ルノデアリマスカラ、之ヲ別個ノモノト認メマシテ、隨テ委員長報告ト修正案トハ共通ノ點ハ無イコトトナリマス、左様御諒承願ヒタイノデアリマス、採決ノ順序ヲ一言致シマス、先ヅ中村啓次郎君外三名提出ノ修正案ヲ採決シ、次ニ、委員長報告ニ係ル修正ノ箇所ヲ採決シ、最後ニ委員長報告ニ係ル修正ヲ除キタル他ノ原案ニ付テ採決ヲ致シマス、先ヅ中村啓次郎君外三名提出ノ修正案ニ付テ採決致シマス、中村君ノ修正案ニ賛成ノ方ノ起立ヲ求メマス

〔賛成者起立〕

○副議長(小泉又次郎君) 起立少數デアリマス、仍テ中村君ノ修正案ハ否決セラレマシタ、次ニ委員長報告ニ係ル修正ノ箇所ニ付テ採決致シマス、委員長報告ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

〔賛成者起立〕

○副議長(小泉又次郎君) 起立多數、仍テ委員長報告ノ修正ノ箇所ハ其通り可決致シマシタ、其他ハ原案ニ御異議ナイト認メマ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナケレバ其通り決シマス、是ニテ本案ノ第二讀會ハ終了致シマシタ

○作間耕逸君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第二讀會決議ノ通り、即チ委員長修正報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

〔賛成〕賛成ト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 作間君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ直ニ第三讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

治安維持法案 第三讀會

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナイト認メマシテ採決ヲ致シマス、第二讀會決議ノ通り、即チ委員長修正報告通りニ賛成ノ方ノ起立ヲ求メマス

〔賛成者起立〕

○副議長(小泉又次郎君) 起立大多數デアリマス、仍テ本案ヲ可決確定致シマシタ

○作間耕逸君 殘餘ノ日程ニ對シテ延期ノ動議ヲ提出致シマス

〔賛成〕賛成ト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 作間君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ延期致シマス、次回ノ日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、今日ハ是ニテ散會致シマス

午後七時五分散會

衆議院議事速記第二十二號中正誤

頁	段	行	誤	正
五〇九	三	四〇	舊荒地	休耕地
五一〇	二	一〇	十四	十六
同	同	一五	要求	要領
同	同	二六	三權分置	三縣分治
同	同	三二	三權分置	三縣分治
同	同	三五	三權分置	三縣分治
同	同	三九	通信ノ	通信(鐵道ノ
五一一	四	一八	二割	二割四分
同	同	一六	本支店	本店
五一三	一	一四	支店ガ	衍
同	同	一九	社債	公債
同	同	二二	鐵道ノ	衍
五一四	一	九	二千五百万	二十五万
同	同	三二	致シ	適シ

